



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2016

平成 28 年度

シラバス

人間発達学部 子ども教育学科



平成 28 年度 子ども教育学科 シラバス目次

基礎教養ゼミ（教養基礎）	1
日本語表現法（教養基礎）	2
日本国憲法（教養基礎）	3
法学（教養基礎）	4
経済学（教養基礎）	5
社会学（教養基礎）	6
生涯健康論（教養基礎）	7
生涯学習概論（教養基礎）	9
生命と環境の科学（教養基礎）	10
国際関係論（教養基礎）	11
体育理論（教養基礎）	13
体育実技（教養基礎）	14
キャリア形成論（教養基礎）	15
哲学（人間理解）	17
倫理学（人間理解）	18
心理学（人間理解）	19
文学と人間（人間理解）	20
芸術論（人間理解）	21
ボランティア・市民活動論（人間理解）	22
人権論（人間理解）	24
人間関係論（人間理解）	25
ジェンダー論（人間理解）	26
共生の倫理（人間理解）	27
チーム医療アプローチ論（人間理解）	28
国際医療事情（人間理解）	29
Introduction to Healthcare Sciences（人間理解）	31
英語ⅠA（リテラシー）	33
英語ⅠB（リテラシー）	34
英語ⅠC（リテラシー）	35
英語ⅡA（リテラシー）	36
英語ⅡB（リテラシー）	37
英語ⅡC（リテラシー）	38
英語ⅢA（リテラシー）	39
英語ⅢB（リテラシー）	40
英語ⅢC（リテラシー）	41
英語ⅣA（リテラシー）	42
英語ⅣB（リテラシー）	43
英語ⅣC（リテラシー）	44
Integrated EnglishⅠ（リテラシー）	45
Integrated EnglishⅡ（リテラシー）	46
ドイツ語（リテラシー）	47
フランス語（リテラシー）	48
ポルトガル語（リテラシー）	49
中国語（リテラシー）	50
ハンガール語（リテラシー）	51
コンピュータ入門Ⅰ（リテラシー）	52

コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー）	53
コンピュータ実習Ⅰ（リテラシー）	54
コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）	55
レクリエーション論（専門教養科目）	56
子どもと医療（専門教養科目）	58
宗教と倫理（専門教養科目）	59
人間発達論（専門教養科目）	60
人間行動学（専門教養科目）	61
音楽基礎Ⅰ（幼・保）（専門教養科目）	62
音楽基礎Ⅰ（小学校）（専門教養科目）	63
音楽基礎Ⅱ（幼・保）（専門教養科目）	64
音楽基礎Ⅱ（小学校）（専門教養科目）	65
現代教育論Ⅰ（幼・保）（専門教養科目）	66
現代教育論Ⅰ（小・中）（専門教養科目）	67
現代教育論Ⅱ（幼・保）（専門教養科目）	68
現代教育論Ⅱ（小・中）（専門教養科目）	69
世界と子ども（専門教養科目）	70
特別支援教育入門（専門教養科目）	71
保育原理（保育・教育の原理）	72
教育原理（保育・教育の原理）	73
教育基礎論A（保育・教育の原理）	74
教育制度論A（保育・教育の原理）	75
地域教育社会論（保育・教育の原理）	76
児童家庭福祉Ⅰ（保育・教育の原理）	77
児童家庭福祉Ⅱ（保育・教育の原理）	78
障害者福祉論（保育・教育の原理）	79
社会福祉（保育・教育の原理）	80
社会的養護（保育・教育の原理）	81
子どもの保健Ⅰ（保育・教育の原理）	82
子どもの保健Ⅱ（保育・教育の原理）	83
子どもの保健Ⅲ（保育・教育の原理）	84
教育心理学（保育・教育の原理）	85
発達心理学（保育・教育の原理）	86
乳幼児心理学（保育・教育の原理）	87
臨床心理学（保育・教育の原理）	88
遊びの指導（保育・教育の原理）	89
保育者論（保育・教育の原理）	90
教師論A（保育・教育の原理）	91
青年心理学（保育・教育の原理）	92
こころの健康（保育・教育の原理）	93
保育内容総論（保育・教育の内容）	94
保育内容健康（保育・教育の内容）	95
保育内容人間関係（保育・教育の内容）	96
保育内容環境（保育・教育の内容）	97
保育内容言葉（保育・教育の内容）	98
保育内容表現（保育・教育の内容）	99
子どもの食と栄養Ⅰ（保育・教育の内容）	100
子どもの食と栄養Ⅱ（保育・教育の内容）	101
乳児保育Ⅰ（保育・教育の内容）	102
乳児保育Ⅱ（保育・教育の内容）	103

障害児保育Ⅰ（保育・教育の内容）	104
障害児保育Ⅱ（保育・教育の内容）	105
社会的養護内容（保育・教育の内容）	106
国語（保育・教育の内容）	107
社会（保育・教育の内容）	108
算数（保育・教育の内容）	109
理科（保育・教育の内容）	110
生活（保育・教育の内容）	111
家庭（保育・教育の内容）	112
音楽（保育・教育の内容）	113
図画工作（保育・教育の内容）	114
体育（保育・教育の内容）	115
外国語活動（保育・教育の内容）	116
英語学概論（保育・教育の内容）	117
学校英文法論（保育・教育の内容）	118
現代英語学の理論と応用Ⅰ（保育・教育の内容）	119
現代英語学の理論と応用Ⅱ（保育・教育の内容）	120
英米文学入門（保育・教育の内容）	121
英米文学批評（保育・教育の内容）	122
英米文学論（保育・教育の内容）	123
英米児童文学論（保育・教育の内容）	124
英語教育学Ⅰ（保育・教育の内容）	125
英語教育学Ⅱ（保育・教育の内容）	126
Communicative Classroom EnglishⅠ（保育・教育の方法技術）	127
Communicative Classroom EnglishⅡ（保育・教育の方法技術）	128
Writing for English Teaching（保育・教育の方法技術）	129
Speech Workshop（保育・教育の方法技術）	130
異文化コミュニケーション論（保育・教育の内容）	131
ヨーロッパ思想と多文化理解（保育・教育の内容）	132
表現演習（保育・教育の内容）	133
絵本論（保育・教育の内容）	134
家庭教育と幼児教育（保育・教育の内容）	135
パーソナリティの心理学（保育・教育の内容）	136
音楽と表現Ⅰ（保育・教育の方法技術）	137
音楽と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）	138
造形と表現Ⅰ（保育・教育の方法技術）	139
身体と表現Ⅰ（保育・教育の方法技術）	140
ことばと表現Ⅰ（保育・教育の方法技術）	141
幼児音楽演習Ⅰ（保育・教育の方法技術）	142
初等音楽演習Ⅰ（保育・教育の方法技術）	143
幼児音楽演習Ⅱ（保育・教育の方法技術）	144
初等音楽演習Ⅱ（保育・教育の方法技術）	145
造形と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）	146
身体と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）	147
ことばと表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）	148
在宅保育論（保育・教育の方法技術）	149
家庭支援論（保育・教育の方法技術）	150
親子遊び論（保育・教育の方法技術）	151
教育課程論（保育・教育の方法技術）	152
カリキュラム論（保育・教育の方法技術）	153

幼児教育指導論（保育・教育の方法技術）	154
初等特別活動論（保育・教育の方法技術）	155
初等教育方法論（保育・教育の方法技術）	156
中等特別活動論（保育・教育の方法技術）	157
中等教育方法論（保育・教育の方法技術）	158
国語科指導法（保育・教育の方法技術）	159
社会科指導法（保育・教育の方法技術）	160
算数科指導法（保育・教育の方法技術）	161
理科指導法（保育・教育の方法技術）	162
生活科指導法（保育・教育の方法技術）	163
家庭科指導法（保育・教育の方法技術）	164
音楽科指導法（保育・教育の方法技術）	165
図画工作科指導法（保育・教育の方法技術）	166
体育科指導法（保育・教育の方法技術）	167
英語科指導法Ⅰ（保育・教育の方法技術）	168
英語科指導法Ⅱ（保育・教育の方法技術）	169
英語科教材研究Ⅰ（保育・教育の方法技術）	170
英語科教材研究Ⅱ（保育・教育の方法技術）	171
理科実験（保育・教育の方法技術）	172
初等道德教育論（保育・教育の方法技術）	173
中等道德教育論（保育・教育の方法技術）	174
相談援助（保育・教育の方法技術）	175
保育相談Ⅰ（保育・教育の方法技術）	176
保育相談Ⅱ（保育・教育の方法技術）	177
幼児教育運営論（保育・教育の方法技術）	178
保育内容指導法（保育・教育の方法技術）	179
子ども理解の理論と方法（保育・教育の方法技術）	180
幼小教育相談（保育・教育の方法技術）	181
中学校教育相談（保育・教育の方法技術）	182
生徒指導論（保育・教育の方法技術）	183
生徒・進路指導（保育・教育の方法技術）	184
学校危機管理論（保育・教育の方法技術）	185
心理検査法（保育・教育の方法技術）	186
家族療法（保育・教育の方法技術）	187
保育方法論（保育・教育の方法技術）	188
心身の発達と学習過程（保育・教育の方法技術）	189
保育実習Ⅰ（実習）	190
保育実習指導Ⅰ（実習）	191
保育実習Ⅱ（保育所）	193
保育実習Ⅲ（施設）（実習）	194
保育実習指導Ⅱ（実習）	195
保育実習指導Ⅲ（実習）	196
幼稚園教育基礎実習（実習）	197
小学校教育基礎実習（実習）	198
中学校教育基礎実習（実習）	199
幼稚園教育実習（事前事後指導含む）（実習）	200
小学校教育実習（事前事後指導含む）（実習）	201
中学校教育実習（事前事後指導含む）（実習）	202
特別支援学校教育基礎実習（実習）	203
特別支援学校教育実習（事前事後指導含む）（実習）	204

保育・教職実践演習（幼）（実践演習）	205
教職実践演習（小中）（実践演習）	206
特別支援教育概論（特別支援）	207
知的障害児の心理・生理・病理（特別支援）	208
肢体不自由児の心理・生理・病理（特別支援）	209
病弱児の心理・生理・病理（特別支援）	210
障害児の発達診断（特別支援）	211
知的障害児の指導（特別支援）	212
肢体不自由児の指導（特別支援）	213
病弱児の指導（特別支援）	214
特別支援教育の課題と実践（特別支援）	215
知的障害児教育演習（特別支援）	216
肢体不自由児教育演習（特別支援）	218
病弱児教育演習（特別支援）	220
視覚障害・聴覚障害教育総論（特別支援）	222
知的障害者教育総論（特別支援）	223
重複障害児教育総論（特別支援）	224
発達障害児教育総論（特別支援）	225
卒業研究（卒業研究）	226
学校経営と学校図書館（司書教諭科目）	227
学校図書館メディアの構成（司書教諭科目）	228
学習指導と学校図書館（司書教諭科目）	229
読書と豊かな人間性（司書教諭科目）	230
情報メディアの活用（司書教諭科目）	231

基礎教養ゼミ（教養基礎）

担当者

案田 順子、町田 修三、根岸 恵子、小泉 英明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

「生徒」から「学生」へと、短期間で意識改革を要求される大学生活。入学直後からの「とまどい」を払拭し大学生活を充実させるために、学習方法の修得、大学生活の心得と改善の理解、さらには将来へのキャリアデザインの構築を図る。

到達目標

大学初年次生としての基礎的な学習方法を実践でき、発展的自己学習方法を目指すことができる。基礎学力確認試験を通じ、自分の現時点での実力を確認でき、自己学習の方向性を具体的に把握できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 大学で何を学ぶか
- 第2回 書くためのスキルⅠ（ノートテイキング）
- 第3回 基礎力テスト（計算・言葉・作文）
- 第4回 解くためのワークⅠ（計算）
- 第5回 考えるためのワークⅠ（言葉）
- 第6回 コミュニケーションスキルⅠ（アクティブラーニング）
- 第7回 書くためのスキルⅡ（論文・レポートのルール）
- 第8回 解くためのスキルⅡ（数的処理①）
- 第9回 考えるためのワークⅡ（敬語）
- 第10回 キャリアデザイン
- 第11回 解くためのワークⅢ（数的処理②）
- 第12回 考えるためのワークⅢ（自己紹介）
- 第13回 コミュニケーションスキルⅡ（プレゼンテーション）
- 第14回 実力テスト
- 第15回 安全教育講話

評価方法

授業参加度 20%、学期末レポート 80%で総合的に評価する。詳しい評価基準は該当授業時に提示する。

使用教材

使用教材は、授業時に適宜配布する。

授業外学習の内容

毎回異なるテーマで教員も入れ替わるが、同一教員のプリントはまとめてファイルしておくこと。

備考

受講ルール：私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード：「初年次生」「学習方法」「学習意欲」

学習上の助言：大学生活での「不安」を「解消」するために多方面から指導するので、たとえ眠くなっても眠ってはいられないでしょう。

日本語表現法（教養基礎）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

日本人の極端な日本語能力の低下が問題視されている中で、主に「書きことば」における表現力を向上させるために、まず自分の「考え」をまとめ「書く」に至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、「考え」をいかに「文章化」するかを修得する。

到達目標

日本語の基礎的知識を、表現・文法・語彙の三側面から把握し、活用することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 「考え」をまとめるための5段階
- 第2回 日本語表現の基礎知識Ⅰ「公的」と「私的」
- 第3回 日本語表現の基礎知識Ⅱ 慣用句
- 第4回 日本語表現の基礎知識Ⅲ ことわざ・故事成語
- 第5回 日本語表現の基礎知識Ⅳ 四字熟語
- 第6回 日本語表現の基礎知識Ⅴ 比喩法
- 第7回 日本語表現のミスⅠ 主述関係
- 第8回 日本語表現のミスⅡ 修飾語・被修飾語
- 第9回 日本語表現のミスⅢ 重複表現
- 第10回 日本語表現のミスⅣ 副詞の誤用
- 第11回 日本語表現のミスⅤ 助詞の誤用
- 第12回 文章の組み立て方Ⅰ 起承転結
- 第13回 文章の組み立て方Ⅱ 5W1H
- 第14回 文章の組み立て方Ⅲ キーワード・キーセンテンス
- 第15回 文章の組み立て方Ⅳ 字数制限

評価方法

筆記試験（70%）・担当箇所発表（20%）・授業参加度（10%）によって、総合的に評価する。評価方法の基準については、講義時に通達する。

使用教材

『文章表現テクニック』（教育弘報研究所）

授業外学習の内容

自ら学ぶ姿勢を身につけるため、ノート整理しておくこと。

備考

受講ルール: 私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁。

キーワード: 「日本語」「自己表現」「基礎知識」「再確認」

学習上の助言: 「日本語」の基礎を再確認し実力をつけるラストチャンスと考え、

授業には積極的に、しかしながら謙虚な姿勢で参加するように。

担当者メールアドレス: janda@takasaki-u.ac.jp

日本国憲法（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 2単位

講義目標

身近な生活の中から人権の保護や社会への参加の意義を探り、課題の解決のための憲法の各規定の理念や解釈の方法を理解する。その理解に必要な歴史的、社会的、政治的な背景の重要性を知り、市民相互間や公的部門との関係のあり方についての考察力を高める。

到達目標

社会生活を営んでいくに当たって必要とされる憲法に関する基本的な知識を修得する。教職に就く者に要求される憲法的規範意識を、学習を通して醸成する。

講義内容と講義計画

- 第1回 法とは何か?憲法とは何か?憲法は何を護るのか?
- 第2回 国家・国民・政府-憲法学習の前提となる基本要素
- 第3回 基本的人権の歩みと基本理念-人権規定の適用上の問題
- 第4回 個人主義と幸福追求権の意味と保障領域
- 第5回 法の下での平等の意味と合理的区別の許容範囲
- 第6回 精神活動の自由
- 第7回 経済社会生活上の自由
- 第8回 教育・労働の権利と生存権
- 第9回 義務・負担と手続上の権利保障
- 第10回 立法作用の特色と国会
- 第11回 行政作用の特色と内閣
- 第12回 司法作用の特色と裁判所
- 第13回 地方自治の意義と地方公共団体
- 第14回 憲法保障-憲法を護るための理念と制度
- 第15回 まとめ-基本的人権の保障と統治機構の機能を結びつけるシステム

評価方法

①平常点②筆記試験

使用教材

授業時に指示する

授業外学習の内容

テキスト内当該章の「演習問題」を行うこと。レジュメの次回「考えてみよう」を行っておくこと。

備考

法学（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

法の存在意義を法が権利と義務の変動の関係を規律しているという観点から理解する。法律関係の基本的システムを習得し、社会生活を営む者に要求される法規範意識を身に付ける。

到達目標

- ・身近に生じる生活上の課題から派生する法的問題を探ることができる。
- ・法的問題を解決するための法制度や法解釈の基礎を理解できる。
- ・法の仕組みや解釈の手法を通して、社会人としてのものの考え方ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 法とは何か ①法の意義②法の機能
第2回 成人と法 ①人間の年齢の法的意味②人間の能力の法的意味
第3回 就職と法 ①採用の法的意味②選定の法的問題
第4回 労働と法 ①労働契約の法的意味②労働条件の保護の課題
第5回 結婚と法 ①婚姻の要件と障害②夫婦の権利義務関係
第6回 親子と法 その1①子の出産をめぐる法律問題②親子関係の形成－嫡出性の問題
第7回 親子と法 その2①親権関係②扶養関係
第8回 教育と法 ①義務教育の意義②就学過程において生じる法律問題
第9回 社会活動と法 ①社会生活上の団体の意味②団体生活において生じる法律問題
第10回 社会負担と法 ①租税や社会保険料の意味②公共生活上の法律問題
第11回 国際化と法 ①出入国の管理②涉外事件における法律問題
第12回 財産関係と法 ①物権取引において生じる法律問題②契約締結において生じる法律問題
第13回 犯罪と法 ①犯罪と刑罰の法的意味②科罰手続の問題
第14回 争い事と法 ①紛争の法的処理の方法②裁判の仕組み
第15回 老年期と法 ①老年期の介護と医療②人間の死の法的意味

評価方法

授業に対する姿勢を重視する。(25%) 期末試験（知識と思考力の審査）(75%)

使用教材

授業時に指示する

授業外学習の内容

テキスト内の演習課題は必ず行うこと。レジュメ次回「考えてみよう」を行っておくこと。

備考

経済学（教養基礎）

担当者

町田 修三

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、ほとんどの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても、経済知識なしで投票に行くのは危険な気さえする。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。

到達目標

- ①日本経済の現状を説明できる。
- ②新聞やテレビのニュースが難なく理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 日本経済の流れ（世界との比較のなかで）
- 第3回 経済政策の2大潮流—マーケット or ケインズ
- 第4回 需要と供給（需要曲線の意味）
- 第5回 市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）
- 第6回 価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）
- 第7回 国民所得（国の経済力はどう測るんだろう？GDPって何？）
- 第8回 国民所得（あなたが1万円使うとGDPはいくら増える？）
- 第9回 財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）
- 第10回 景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）
- 第11回 金融（日本銀行は何をすところ？）
- 第12回 経済政策のしくみ（アベノミクスは何をした？）
- 第13回 為替レートのメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）
- 第14回 世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）
- 第15回 まとめと確認のためのテスト

評価方法

筆記試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物 20%

使用教材

授業外学習の内容

本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々のニュースに触れることが効果的である。テキストを利用した予復習は課さないかわりに、日常的に新聞を読みテレビニュースを視聴すること。

備考

社会学（教養基礎）

担当者

安達 正嗣

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

社会学的なものの見方とは、どういうものか、社会学的にものを考えるときに使用する専門的概念には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説する。

到達目標

初めて社会学を学ぶ学生に対して、社会学の基礎的な知識ならびに考え方を理解させて修得させることが、この講義の到達目標である

講義内容と講義計画

- 第1回 社会学への招待
- 第2回 「自分探し」を強いる現代社会
- 第3回 「複数の私」を生む二つの要素
- 第4回 社会学から見た「人間関係」
- 第5回 現代社会の「人間関係」をつくるさまざまな要素
- 第6回 社会とともに変化する「子ども像」
- 第7回 「恋愛観」と「結婚観」
- 第8回 「専業主婦」のゆくえ
- 第9回 「少子高齢社会」の展望
- 第10回 「日本型雇用システム」の変容
- 第11回 新しい働き方
- 第12回 文化の社会学
- 第13回 現代の流行現象
- 第14回 自殺の社会学
- 第15回 まとめ

評価方法

平常点（第1回目の講義で説明します）50%、学期末試験50%です。

使用教材

浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版

授業外学習の内容

毎回の内容について、事前に教科書を読んでおくこと。

備考

私語は、厳禁です。

生涯健康論（教養基礎）

担当者

鈴木 忠

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。本講義では、健康寿命の延伸のための生涯にわたる健康増進法について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎能力を身に着けることを目的としている。

到達目標

各回の講義内容欄に〈 〉内に示す語句（キーワード）について理解し、説明できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 健康の定義と健康評価指標
WHOの提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、これから重要なのは、健康寿命であることを理解する。
- 第2回 健康を維持するための構造と働き
健康を維持するための主たる生理機構は、〈物質代謝〉である。物質代謝に関わる体の構造とその働きについて理解する。
- 第3回 恒常性維持システムの役割と相互作用
物質代謝に関連する構造がバランスよく正常に機能するように統括する恒常性維持（〈ホメオスタシス〉）システムは、脳神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。その働きと相互作用について理解する。
- 第4回 食物と健康
物質代謝のスタートは食物からの栄養摂取である。食物には健康に欠かすことのできない〈栄養素〉を含むものと健康を害する因子を含む食物とがあることを理解する。
- 第5回 〈運動と健康〉
運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。
- 第6回 〈心のケアと健康〉
ストレスが、恒常性維持システムのバランスに悪影響を及ぼし、健康を害するメカニズムを理解し、ストレスを解消するための心のケアが健康維持にいかに重要であるかを理解する。
- 第7回 喫煙による健康障害
たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの〈喫煙と健康障害〉のメカニズムについて理解する。〈受動喫煙の影響〉についても考える。
- 第8回 生活環境と健康
放射能、排気ガス、温室効果ガス等の〈生活環境と健康〉についても考える。
- 第9回 21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）
2000年より、健康寿命の延伸を目指す健康づくり運動がスタートした。①食物・栄養、②運動及び③心の安寧を〈健康維持の3本柱〉とし、これまでの早期発見・早期治療による二次予防及び確実な診断と治療・リハビリによる三次予防に対して、病気の発生そのものを防ぐ一次予防を重視する〈予防医学〉のスタートである。
- 第10回 特定健康診断の重要性及びメタボリックシンドローム
特定健康診断の結果の値を、発病予防のための健康管理の指標とできることを理解する。さらに、〈

定期健康診断>によって、疾患の早期発見あるいは疾患前状態を発見することで、二次予防にも繋がることを理解する。また、<内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）>の怖さを理解し、その予防法について考える。

第11回 生活習慣病の危険因子としての糖尿病

<糖尿病>には、I型とII型があり、第12回で学習する冠状動脈や脳動脈における血液循環障害発生の危険因子となるのみならず、微小血管循環障害による腎障害、視力障害及び神経障害という<三大合併症>を引き起こす。人工透析が必要となる腎不全及び失明の原因の第1位は糖尿病である。危険因子としての糖尿病とその予防法について理解する。

第12回 生活習慣病（心疾患・脳卒中）と発症を予防する生活習慣

死亡原因の2位及び3位の<心疾患（狭心症・心筋梗塞症）>及び<脳卒中>は、<血液循環障害>による。これらの疾患の本態を知り、生活習慣との関係を理解し、その予防のための生活習慣を考える。

第13回 生活習慣病（がん）と発症を予防するための生活習慣

日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣<がん発症危険因子>を知る。また、<がん予防のための生活習慣>及び早期発見・早期治療のための<がん検診>の重要性について理解する。

第14回 微生物感染症と感染・発症予防

日本人の死亡原因の第4位は肺炎と呼ばれる微生物感染症である。各種保健医療施設においては、入所（入院）者の<院内感染症>発症予防は、最重要課題である。輸血などの医療行為が微生物感染症の発生要因<医原性感染症>となる場合があること、感染症発生の予防法について理解する。

第15回 地域における健康支援チーム構成員とその役割：まとめ

これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支え合いに重点を置くようになった。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。

評価方法

授業参加度（予習してきたの発表、質問、質問に対する回答等）：30点、レポート：30点、期末試験：40点

使用教材

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

授業外学習の内容

・講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてくること。

・グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらうので、全員で協力してまとめること。

備考

生涯学習概論（教養基礎）

担当者

森部 英生 小西 尚之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

教育水準の高度化や人々の意識、生活形態の急激な変化にともない、「生涯学習」が進展・定着する中で、「生涯学習」「生涯学習社会」とは何かを踏まえ、公民館・図書館・博物館をはじめとする社会教育施設社会における様々な学びの場での人々の学習について、学生グループの報告を交えてその理論・実際を学ぶ。

到達目標

生涯学習の意義、・「生涯学習社会」の意義、・社会教育と生涯学習の関係、・公民館・図書館・博物館・美術館・青年の家の意味と実際、等のテーマを取り上げ、公教育における生涯学習の意義とその実際の活動について、学生の理解を深めるとともに、生涯学習の実践力を身につけることをめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「生涯教育」と「生涯学習」
- 第3回 「生涯学習社会」とは何か
- 第4回 「学習権」とは何か
- 第5回 社会教育と生涯学習
- 第6回 公民館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第7回 公民館の補充
- 第8回 図書館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第9回 図書館の補充
- 第10回 博物館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第11回 博物館の補充
- 第12回 美術館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第13回 美術館の補充
- 第14回 青年の家・少年自然の家とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第15回 青年の家・少年自然の家の補充

評価方法

期間中行う3回の小テストに約70%、授業に対する貢献度に約30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、途中3回実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

人間が人間らしく生きる上で、いつでも・どこでも自由に学ぶことは不可欠です。生涯学習はこうした理念に立つものです。これまで自分が行ったことのある博物館・動物園等の施設を思い返し、また、関係する文献・TV番組・新聞記事等にも目を配って、その意義を確認してほしいと思います。

生命と環境の科学（教養基礎）

担当者

奥 浩之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・今後の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。

到達目標

本講義を受講することにより、各自が生命や環境に関する事項についてニュースなどを鵜呑みにするのではなく、様々な文献や資料を参照することで自律的に理解・判断できるようになり、レポートなどの形式でまとめられるようになることを学習目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生命と環境－地球における元素の循環
- 第 2 回 生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化
- 第 3 回 生命と環境－化学進化と生命における元素の役割
- 第 4 回 生命と生体分子－DNA 二重らせんと X 線構造解析
- 第 5 回 生命と生体分子－タンパク質の立体構造・分子グラフィックス
- 第 6 回 生命と生体分子－様々なヘム蛋白質・医薬品との相互作用（CYP450）
- 第 7 回 環境と資源－炭素資源・石油化学産業・医薬品産業
- 第 8 回 環境と資源－シュールガス、シュールオイル
- 第 9 回 環境と健康－バイオマス・バイオディーゼル
- 第10回 生命と医薬品－生体材料（血管の接着剤）
- 第11回 生命と医薬品－生体材料（痛くない注射針）
- 第12回 生命と医薬品－日本において開発された画期的なくすり
- 第13回 地球環境と健康－グローバル化、インフルエンザ、新興再興感染症
- 第14回 地球環境と健康－さまざまな感染症の予防ワクチン
- 第15回 地球環境と健康－ワクチン成分と研究開発

評価方法

レポート課題 50%、授業参加度 50%

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

授業外学習の内容

2週に一度、講義に関連した自主学習としてレポート作成を課題とする予定。

備考

国際関係論（教養基礎）

担当者

片桐 庸夫

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

皆さんが生活する今日の世界とはどんなものかを理解することを目的としている。まず今日の世界の基本となっている戦後の冷戦について理解する。次に冷戦の何が変わって今日の世界が出来ているか理解する。それを通じ国際テロ、民族紛争、領土紛争、宗教対立といった現代世界の特徴と戦後日本の外交や国際貢献をめぐる課題について学ぶ。

到達目標

今日の世界情勢と日本外交や国際貢献問題について基本的に理解し、テレビや新聞のホットな話題やニュースを理解出来るようにすること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 授業の展開の方法、出席の取り方、試験の方法、成績評価の方法等についてのガイダンスを行う。
- 第 2 回 「冷戦の特異性」の意味、大規模な戦争後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立について理解する。
- 第 3 回 「呉越同舟」の例えの典型的事例である戦勝同盟国間の対立の例としてのウイーン会議について理解する。
- 第 4 回 国際コミュニケーションにとって大切な言語、宗教、文化、国家体制といった共通の価値観の意味について理解する。
- 第 5 回 米ソ間の価値観の欠如、イデオロギー対立、体制間対立について理解する。
- 第 6 回 米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化について理解する。
- 第 7 回 冷戦の定義、核の下での平和、冷戦後の現代世界の特徴について理解する。
- 第 8 回 終戦とアメリカの初期対日占領政策の特徴、日本の改革について理解する。
- 第 9 回 冷戦のアジアへの波及にともなうアメリカの対日占領政策の修正、日本国憲法、天皇制存置、象徴天皇制の関連性について理解する。
- 第 10 回 ジョージ・ケナンの Five Power Centers 構想、日本の再軍備について学ぶ。
- 第 11 回 サンフランシスコ講和条約による日本の独立回復、同条約の問題点、日米安保条約の問題点、不公平性などについて理解する。
- 第 12 回 戦後日本外交の課題である『「戦後」の克服』の意味、日ソ国交正常化、国連加盟、未解決の北方領土問題について理解する。
- 第 13 回 日米安保改定による日米パートナーシップ関係の意味、日本の経済大国化について理解する。
- 第 14 回 沖縄返還、日中国交正常化、それらにともなう『「戦後」の克服』について理解する。
- 第 15 回 中国の台頭と日本外交のゆくえ及び国際貢献の在り方について考える。

評価方法

小テスト結果と授業態度等を総合的に評価する。

使用教材

テキストを用いず、授業中にプリントを配布する。

授業外学習の内容

中国の軍事力増強や南シナ海制海権確立の動き、中国やロシアとの領土問題、沖縄基地移転の問題等についての新聞やテレビのニュース、ドキュメント番組等をみて、日頃から国際問題や日本の課題等についての関心を育んでいて欲しい。

体育理論（教養基礎）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力や生活を見つめるとともに、健康づくり・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。

到達目標

身体活動量や体格を測り、判定することができる。
体力を評価し、適切な運動プログラムを作成することができる。
運動による心身への影響を理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 健康とは
- 第2回 身体活動量を計算しよう
- 第3回 現代の生活スタイルと身体活動
- 第4回 「肥満」と「痩せ」
- 第5回 正しい「ダイエット」法を知る
- 第6回 体力を知る (1)体力テスト(前半)
- 第7回 体力を知る (2)体力テスト(後半)
- 第8回 体力を評価しよう
- 第9回 健康づくり運動 (1)有酸素運動
- 第10回 健康づくり運動 (2)筋力トレーニング
- 第11回 健康づくり運動 (3)ストレッチほか
- 第12回 運動カルテを作成しよう
- 第13回 運動と栄養
- 第14回 運動とメンタルヘルス
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加度 30%、グループワークや発表への貢献度 10%、筆記試験 60%

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

健康づくり・体力づくりに関して興味があることを調べ、それらを日常生活に生かすこと。

備考

体育実技（教養基礎）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識や方法を学び、実際の生活に活用する能力を養う。様々な運動やスポーツの実践をとおして、基礎体力の保持・向上とともに、運動・スポーツを楽しむ習慣を身につける。

到達目標

各基本運動の効果や方法を理解し、実践することができる。
さまざまなスポーツの方法やルールを知り、親しむ。
ストレッチ体操について、その方法やポイントを具体的に説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション・レクリエーション
- 第2回 ストレッチ・ヨガ
- 第3回 ドッジボール
- 第4回 ティーボール
- 第5回 バドミントン (1) シングルス
- 第6回 バドミントン (2) ダブルス
- 第7回 キックベースボール
- 第8回 ソフトバレーボール
- 第9回 バレーボール
- 第10回 キンボール
- 第11回 インディアカ (1) グループ練習・ゲーム
- 第12回 インディアカ (2) ゲーム
- 第13回 バスケットボール
- 第14回 フットサル
- 第15回 まとめ

※各講義の開始時にストレッチ・ヨガ・筋トレ・有酸素運動等の基本運動を行う。

評価方法

授業への参加度と授業態度 80%、レポート課題 20%

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

授業で行う基本運動を授業外で実践し、自分の健康づくり・体力づくりをはかること。また、日頃から体を動かす習慣を身につけておくこと。

備考

トレーニングウェア、体育館シューズを必ず着用すること。

キャリア形成論（教養基礎）

担当者

小泉英明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 2単位

講義目標

社会の仕組みはもとより、経済、雇用など私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、仕事の質や内容までも大きく変化しています。本講座では、社会（企業・組織）が大学生に求める「能力」について理解を深め、社会で実際に役立つ人材となるよう支援します。さらに、様々な事例紹介によって社会・職場適応力を養い、近い将来、社会人として適切なスタートを切ることができるよう“自身”の強化プラン策定と目標管理を促し、将来のキャリア形成につなげられるよう支援することも目標としています。

到達目標

- ① 社会に通用する就業観、勤労観を持つ
- ② 自己を正しく理解し、適切なキャリアデザインを描くことができるよう、基礎力と社会適応力を身につける
- ③ コミュニケーション能力、論理的思考力、創造的思考力、問題解決能力など、社会から必要とされる力を身につける
- ④ 効果的な就職活動を遂行できるよう、自己変革のための目標管理を行う

講義内容と講義計画

- 第1回 キャリアとは何？／キャリア形成のために必要なこと
- 第2回 先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材
- 第3回 セルフ・ディベロップメントⅠ（自己の理解）
- 第4回 コミュニケーション力
- 第5回 実践コミュニケーション力〔演習〕
- 第6回 気づく力
- 第7回 考える力Ⅰ（ロジカル・シンキングとクリティカル・シンキング）
- 第8回 考える力Ⅱ（クリエイティブ・シンキング）
- 第9回 創造力を伸ばすには〔演習〕
- 第10回 問題解決能力
- 第11回 働く意味／就業力と仕事力
- 第12回 社会における人間関係
- 第13回 セルフ・ディベロップメントⅡ（目標設定／キャリア・マニフェスト）
- 第14回 セルフ・ディベロップメントⅢ（将来のキャリア形成に向けて）
- 第15回 ストレス・マネジメント／まとめ

評価方法

最終レポート（60%）、各授業時における提出物（30%）、受講態度（10%）

使用教材

授業時にプリントを配布する

授業外学習の内容

授業外学習：配布プリントをもとに、毎回、復習をすること。配布物はしっかりファイルし、毎回持参すること。授業内外の課題は必ず提出すること。※分からないことがあったら積極的に質問してください。

備考

社会の出来事を理解できるよう、新聞等のニュースに目を通して受講すること。

哲学（人間理解）

担当者

大石 桂子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

「他者とどう関わっていけばよいか」「生きることに意味はあるのか」「絶対に正しいことはあるのか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち探究するのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに、教育分野に関わるものとして考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や統計なども手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。

到達目標

各トピックの基本的な問題点を理解し、様々に議論されてきた内容について知識を得る。また、現代的な視点から自己の主張を持ち、それを表現する力を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自分と他者(1)「人に認められたい」のは本能？
- 第3回 自分と他者(2)「本当の自分」はあるのか
- 第4回 自分と他者(3)人と人の関係性
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 平等と共生(1)誰もが信じられる正しさはあるか
- 第7回 平等と共生(2)環境は人の心にどう影響するのか
- 第8回 自由はあるのか——正しい自己決定のために
- 第9回 心と身体(1)人間である条件とは理性か
- 第10回 心と身体(1)心と体の関係性——脳死を考える
- 第11回 エンハンスメント(1)変化する「病」
- 第12回 エンハンスメント(2)「弱さ」を否定する社会
- 第13回 「空気」を意識する
- 第14回 責任(1)責任の範囲はどこまで？
- 第15回 責任(2)「何もしなかった」ことに責任は問われるか

評価方法

定期試験(60%)、ミニレポート(40%)に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。

使用教材

講義中にプリントを配布する。

授業外学習の内容

復習としてノート・資料を読み直し、ミニ・レポートを作成すること。

備考

本講義では知識の習得だけでなく、各自が「哲学する」ために、ミニ・レポートを課しているため、主体的に取り組んでほしい。

倫理学（人間理解）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

現代の医療をめぐる問題を取りあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。

到達目標

医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、自分の考えを表現することができる。また、自分と対立する考えについても理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション：生命倫理学について
- 第2回 不妊治療(1)人工授精
- 第3回 不妊治療(2)体外受精、代理母
- 第4回 遺伝子操作(1)ヒトゲノム計画
- 第5回 遺伝子操作(2)遺伝子診断技術と優生思想
- 第6回 人口妊娠中絶：パーソン論
- 第7回 遺伝子操作(3)クローン技術
- 第8回 遺伝子操作(4)幹細胞研究と将来世代のための倫理
- 第9回 終末期医療(1)告知をめぐる問題
- 第10回 終末期医療(2)インフォームド・コンセント
- 第11回 終末期医療(3)安楽死とホスピスケア
- 第12回 臓器移植(1)生体臓器移植
- 第13回 臓器移植(2)死後移植と臓器移植法改正
- 第14回 エンハンスメント：薬剤の使用をめぐる問題
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加とその態度(20%)、小テスト・期末レポート(80%)から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する。

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。予習は必ずしも求めないが、配布された資料を読み込むなど復習は必ず行うこと。

備考

講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んで欲しい。

心理学（人間理解）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。

【授業全体の内容の概要】

こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。

到達目標

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。

人の成長・発達と心理との関係について説明できる。

日常生活と心の健康との関係について説明できる。

心理的支援の方法と実際について説明できる。

講義内容と講義計画

第1回 こころのしくみの理解(1):心理学における主要な理論

第2回 こころのしくみの理解(2):心と脳/情動・情緒

第3回 こころのしくみの理解(3):欲求・動機づけと行動

第4回 こころのしくみの理解(4):感覚・知覚・認知

第5回 こころのしくみの理解(5):学習・記憶・思考/知能・創造性

第6回 こころのしくみの理解(6):人格・性格/自己概念・自己実現

第7回 こころのしくみの理解(7):集団

第8回 こころのしくみの理解(8):適応/人と環境

第9回 人の成長・発達と心理:発達の概念

第10回 日常生活と心の健康:ストレスとストレス

第11回 心理的支援の方法と実際(1):心理検査の概要

第12回 心理的支援の方法と実際(2):カウンセリングの概念と範囲

第13回 心理的支援の方法と実際(3):カウンセリングとソーシャルワークとの関係

第14回 心理的支援の方法と実際(4):心理療法の概要と実際

第15回 まとめ

評価方法

宿題 30%（復習課題 15%、予習課題 15%）、学期末テスト 50%、学期末レポート 20%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

使用教材

精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー「心理学ー心理学理論と心理的支援」へるす出版

授業外学習の内容

毎回、復習課題および予習課題を宿題として課すので、授業外での学習を怠らないこと。

宿題の提出はC-learningによる。

備考

文学と人間（人間理解）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

現代人の基礎教養として、日本の名作文学を朗読CDで味わうことで、音声表現による心のコミュニケーションを目的にする。

到達目標

視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることで、歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 二葉亭四迷・森鷗外の文学と人間像
- 第2回 樋口一葉・泉鏡花の文学と人間像
- 第3回 尾崎紅葉・徳富蘆花の文学と人間像
- 第4回 夏目漱石の文学と人間像
- 第5回 自然主義の文学と人間像
- 第6回 芥川龍之介の文学と人間像
- 第7回 白樺派の文学と人間像
- 第8回 学習の整理と展望(まとめのレポート①)
- 第9回 川端康成・小林多喜二の文学と人間像
- 第10回 林芙美子・山本有三の文学と人間像
- 第11回 谷崎潤一郎・堀辰雄の文学と人間像
- 第12回 宮沢賢治・中島敦の文学と人間像
- 第13回 井上靖・尾崎士郎の文学と人間像
- 第14回 太宰治・三島由紀夫の文学と人間像
- 第15回 学習の整理と展望(まとめのレポート②)

評価方法

まとめのレポート2回分を各50点で加算し、それに授業参加度を加味して総合評価する。

使用教材

小田切進『日本の名作』（中央公論新社）定価（本体720円＋税）

授業外学習の内容

授業では、視聴覚教材を活用して作品の梗概を理解させ、人物相関図の板書とテキストの読解から作品鑑賞を深める。これをきっかけに、さらに各自が興味・関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげる。

備考

芸術論（人間理解）

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

芸術とは人間の内面の表出です。すなわち人間の心を映し出す「鏡」といっても良いでしょう。その表出されたもの、すなわち芸術作品がいかなる思想に基づいて現われたかを知ることが、人間性そのものを知ることになります。講義は、西洋近代における芸術概念の成立、そして20世紀における芸術概念の変容を見ることを通して、芸術の起源と役割をめぐる問題について考察します。また様々な地域の視覚芸術を比較検討することで、私たち「現代人」の芸術思想を浮き彫りにして見ましょう。

到達目標

芸術概念及び芸術に関連するさまざまな概念の成立・受容・変容という観点から、特に西洋近代以降におけるメディアとしての芸術の歴史を展望することによって、芸術論及び芸術学についての理解を深めることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 芸術の起源①ギリシャ・ローマ
- 第3回 芸術と宗教②ヨーロッパ中世とキリスト教
- 第4回 芸術論のと神々宗教芸術概観
- 第5回 キリスト教芸術の特色①旧約聖書と芸術
- 第6回 キリスト教芸術の特色②新約聖書と芸術
- 第7回 芸術思想をめぐる①ルネサンスの芸術思想
- 第8回 芸術思想をめぐる②バウハウスの芸術思想
- 第9回 カントの芸術思想と感性学『判断力批判』概観
- 第10回 芸術観の変容と近代哲学の関係
- 第11回 仏教芸術をめぐる①仏の世界
- 第12回 仏教芸術をめぐる②極楽と地獄
- 第13回 現代芸術の美学①遠近法への懐疑
- 第14回 現代芸術の美学②中心の喪失
- 第15回 総復習と総括

評価方法

授業の参加状況と授業中のレポート、学期末試験を総合的に判断して評価する。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の授業のプリントを配布するので、専門用語等事前に予習しておくこと。
- ・ 今までの授業の理解度を確認するために小テストを行うのでよく復習しておくこと。

備考

興味・関心を持って積極的に参加して欲しい。質問は大歓迎

ボランティア・市民活動論（人間理解）

担当者

金井 敏

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

ボランティア・市民活動は、自主的な貢献活動として福祉分野に限らず環境や情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在となっている。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践することができる力を養成する。

到達目標

ボランティア・市民活動の実践例を理解するとともに、ボランティア・市民活動支援センターを活用し活動に参加し、活動ニーズを体得できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い
- 第2回 ボランティアニーズとボランティアセンターの役割
- 第3回 子どもの明日と子育てをサポートする
- 第4回 人々はどのようにボランティアに取り組んだか～欧米と日本の歴史
- 第5回 ボランティアとNPO～学生でも創れるNPO法人
- 第6回 障害スポーツ・レクリエーションのすすめ
- 第7回 小中高校の福祉教育・ボランティア学習はこれでいいか
- 第8回 バリアフリー社会と心のバリアフリー
- 第9回 新しい支え合いの必要性～20年後のあなたへ
- 第10回 動物は人間のパートナー～動物愛護協会の取り組み
- 第11回 被災地に届け！災害支援ボランティア活動
- 第12回 分かちあう寄付・贈与の文化で花咲く貢献社会（共同募金・地域通貨）
- 第13回 地域支えあいのボランティア～ふれあい・いきいきサロン～
- 第14回 行政に協力するボランティア～民生委員・児童委員の活躍～
- 第15回 ボランティア・市民活動から学べたこと

評価方法

- ・学期末に課すレポートによる評価(60点)
- ・ボランティア実践＝実践から得た成果など学習内容の報告書による評価(25点)
- ・毎回の授業のリアクションペーパーによる評価(15点)
- ・授業開講数の2/3以上の出席について、評価対象とする。15分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・私語などのため授業を妨げる場合は、退出およびマイナス評価をする場合がある。

使用教材

テキストは使用しない。レジュメ・関係資料は授業時に配布する。

授業外学習の内容

- ・上記のボランティア実践に取り組むこと。
- ・次回のテーマに沿ったボランティア・市民活動について予習しておくこと。

備考

■ボランティア・市民活動は、社会に関心をもつ学生が実際の社会と関わりを持つことができるとともに、自分自身の可能性にチャレンジすることができる、とても良い機会です。

■ボランティア実践では、社会が求めているニーズに応えることを通じて、人々の問題を把握するとともに、その解決策

を考えることもできます。このような体験は、将来の就職活動でも大いに活かすことができます。VSC を活用して参加すること。

■考えて行動する学生を目指して、一緒に学びましょう！

人権論（人間理解）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

人権ないし基本的人権は、制度的・最終的には、憲法を頂点として構築されている人権法制によって保障される。この授業では、この点に着目し、憲法に定められている諸々の人権条項を概説するほか、国際的な人権文書にも言及し、同時に、単にそれら条文の開設に留まることなく、それら法条に関連する裁判事件を取り上げながら人権感覚を磨くことにする。

到達目標

もっぱら法的な側面から人権を眺めるとともに、日常生活における種々の差別や人権侵害の問題を、実例ないし裁判事例を通して学び、人権感覚を鋭くして、社会における人権尊重とその現実化をめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的人権の沿革
- 第3回 明治憲法における人権保障
- 第4回 日本国憲法における人権保障
- 第5回 人権の主体
- 第6回 幸福追求権
- 第7回 法の下での平等
- 第8回 請願権と国家賠償法
- 第9回 思想及び良心の自由
- 第10回 信教の自由
- 第11回 表現の自由
- 第12回 学問の自由
- 第13回 両性の平等
- 第14回 生存権
- 第15回 まとめ

評価方法

3回の小テストに約70%、授業に対する貢献度等に約30%を配分し、これらを総合的に評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、途中で3回実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

この授業は、憲法に定める種々の人権条項を概観するものですが、単に条文を解説するだけでなく、それぞれの条文にまつわる裁判事件（人権裁判）を多く引用していきます。特に保育者・教育者をめざす学生諸君に有益だろうと考えます。豊かな人権間隔を養うことをめざして授業に臨んで下さい。

人間関係論（人間理解）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

「人間関係論」とはホーソン実験によって得られた発見をもとに、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その間の因果関係を体系化した理論である。当然のことながら、これらのことを講じるが、本科目においては、人間発達学部が保育者・教育者を養成する場であるということも鑑みて、子ども同士、保育者・教育者と子ども、保育者・教育者と保護者の関係についても焦点を当てる。また、子どもの相互のかかわりと関係作りなどについての理解を深めるなど、人間関係の発達の側面についても講じる。

到達目標

「人間関係論」の基礎的な知識を学ぶとともに、日常生活における人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各領域の基礎的な知見を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「人間関係論」の成立
- 第3回 職場と人間関係
- 第4回 社会的ジレンマ
- 第5回 乳幼児期の人間関係(1)
- 第6回 乳幼児期の人間関係(2)
- 第7回 乳幼児期の人間関係(3)
- 第8回 児童期の人間関係
- 第9回 青年期の人間関係
- 第10回 恋愛関係論(1)
- 第11回 恋愛関係論(2)
- 第12回 保育・教育現場の人間関係
- 第13回 差別と偏見
- 第14回 日本社会における人間関係:「空気を読む」ことについて
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。本科目では、いくつかの課題に取り組んでいただく予定ですので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

ジェンダー論（人間理解）

担当者

前田 由美子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

性別による社会の制度化を歴史的・文化的・社会的視点からとらえ直し、その制度化のもたらした問題を人権の問題として深く理解する。

到達目標

性別に関して存在する偏った社会の慣習や考え方によって妨げられている能力の発揮や、不自由な人生選択の実態を知り、その克服の方策を考えることで、自らの人生設計と社会創造に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体の説明
- 第 2 回 ジェンダーという概念
- 第 3 回 生き物としての性とその多様性
- 第 4 回 性的指向 セクシュアリティ
- 第 5 回 性役割と性規範
- 第 6 回 性的同一性（ジェンダー・アイデンティティ）
- 第 7 回 性別と経済社会
- 第 8 回 母親と子どもの関係
- 第 9 回 父親と子どもの関係
- 第10回 労働と性別秩序
- 第11回 過労問題 ワーク・ライフ・バランス
- 第12回 男性問題
- 第13回 セクシュアル・ハラスメント
- 第14回 ドメスティック・バイオレンス
- 第15回 まとめ

評価方法

講義日ごとに、ミニレポートを提出。約 25%ずつで 4 日間。

使用教材

プリント、映像資料、文献資料など

授業外学習の内容

配布された授業内容に関連する文献資料などをよく読み、課題にそってまとめること。

備考

共生の倫理（人間理解）

担当者

瓜巢 一美

開講学科と時期・単位

全学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

福祉論、国際理解教育などを基礎にして、多民族、多文化共生社会を身近なところから考える。

到達目標

多文的、分断的な社会生活状況の中で、学習を通して、すべての人間が共に生まれ、育ちあい、学びあい、働きあい、暮らしていることの認識を深め、実践する共生を自覚する。

講義内容と講義計画

- 第1回 学習（研究）の方針・文献紹介・評価等について
- 第2回 共生の倫理 1) 共生の概念 2) 共生と倫理
- 第3回 多文化社会と共生の広がり
- 第4回 社会生活と共生の課題
- 第5回 都市化における多文化社会生成
- 第6回 都市の生活における課題（多文化社会の現状）
- 第7回 地域と多文化社会（事例を通して）
- 第8回 教育に共生
- 第9回 障害者との共生の倫理
- 第10回 障害者との施設生活
- 第11回 高齢者との施設生活
- 第12回 共生のあり方・必要（家族・地域・職場）
- 第13回 多民族、多文化等の共生にむけて
- 第14回 学習のふりかえり・研究のあり方
- 第15回 学習のふりかえり

評価方法

筆記試験 60%、授業への参加 10%、小レポート 30%（テストの範囲は原則として事前に口頭で伝えたい）

使用教材

参考文献を指示し、小レポートのテーマとすることもある。講義の要点をメモにし、その要点を中心にレポートする。

授業外学習の内容

前回の授業に提起された課題を学習しておくこと。図書館や現地踏査などで学習を深めておく。

備考

チーム医療アプローチ論（人間理解）

担当者

全学科担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 1単位

講義目標

福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。

到達目標

1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。
2. 各専門職の役割と活動について理解できる。
3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。

講義内容と講義計画

- 第1回－チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について
- 第2回－チーム医療における診療情報管理士の役割と活動
- 第3回－チーム医療における社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割と活動
- 第4回－チーム医療における保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭の役割と活動
- 第5回－チーム医療における管理栄養士の役割と活動
- 第6回－チーム医療における薬剤師の役割と活動
- 第7回－チーム医療における理学療法士の役割と活動
- 第8回－チーム医療における看護師・保健師の役割と活動

評価方法

評価方法：授業参加への積極性（40点：欠席1回につき－5点）、レポート（60点）

*レポート－「他職種の役割と活動を理解し、チーム医療を促進するために自分が目指す専門職としての役割と課題」についてまとめる。

A4用紙 表紙1枚 内容2枚 6月24日（金）16：00までに各事務室に提出する。

使用教材

授業時に配布する資料

授業外学習の内容

自身が専攻する専門職の役割や活動およびチーム医療について事前に、自己学習を行うこと。

備考

健康・福祉・医療・教育のスペシャリストを目指している学生の皆さんは将来、人々の健康を維持・増進する役割を担います。各専門職が力を存分に発揮して協働して福祉・医療・教育を実践するチーム医療を推進することが求められます。他学科の学生と交流をしながら多職種の活動と役割を学習しましょう。

キーワード：専門職、チーム医療、チームアプローチ

国際医療事情（人間理解）

担当者

町田 修三、クリス・ターン

開講学科と時期・単位

全学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また、本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する。

到達目標

- ・ 諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の病医院について学び、日本との違いを説明できる。
- ・ 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 医療の国際化とは
- 第3回 日本の医療教育、医療制度、医療事情
- 第4回 日本の医療教育、医療制度、医療事情を英語で説明してみよう
- 第5回 先進国（アメリカ、イギリス、ドイツ）の医療教育
- 第6回 先進国の医療事情Ⅰ
- 第7回 先進国の医療事情Ⅱ
- 第8回 先進国の病院
- 第9回 その他の先進国（北欧、カナダ、オーストラリアなど）の医療事情Ⅰ
- 第10回 その他の先進国の医療事情Ⅱ
- 第11回 中進国（台湾、シンガポール、中国など）、途上国（ベトナム、インドネシア、タイなど）の医療教育
- 第12回 中進国、途上国の医療事情Ⅰ
- 第13回 中進国、途上国の医療事情Ⅱ
- 第14回 学生プレゼンテーション
- 第15回 学生プレゼンテーションとまとめ

評価方法

最終レポート（50%）、提出物（20%）、発表、討論など授業参加度（30%）。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中のパフォーマンス（40%）

使用教材

特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと。

授業外学習の内容

本講義では学生主体のリサーチと発表やディスカッションを多く取り入れる。毎回十分な準備をしていくこと。
海外研修に参加する者は、受身ではなく積極的な参加意欲を常に意識すること。

備考

Introduction to Healthcare Sciences (人間理解)

担当者

小澤 滯司、町田 修三、クリストファー・ターン、村上 孝、今井 純、長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

全学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

到達目標

- ・医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる。
- ・理解した内容について、第三者に説明できる。
- ・医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる。
- ・医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 Introduction of the course
- 第2回 Medical globalization and Japan's healthcare system
- 第3回 Healthcare system of foreign countries
- 第4回 U.S. healthcare in the media I
- 第5回 U.S. healthcare in the media II
- 第6回 Using Medline Plus to obtain medical information in English I
- 第7回 Using Medline Plus to obtain medical information in English II
- 第8回 Immunity and diseases I
- 第9回 Immunity and diseases II
- 第10回 Immunity and diseases III
- 第11回 Living environment and skin diseases
- 第12回 Genes and cancer : basic understanding of the disease
- 第13回 Mental health
- 第14回 Mental health and social skills
- 第15回 Summary and concluding remarks

評価方法

担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度や講義終了時に課す提出物または小レポートにより、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する。

使用教材

担当教員が授業中に配布する。

授業外学習の内容

教材は毎回次週のを前もって配布するので、理解度を担保するためにも必ず予習してくる。分からない単語は調べておくこと。

英語 I A (リテラシー)

担当者

キース・ベアリー

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

本講義の目的は学生の英語力を総合的に向上させることとともに学生の語彙力を高めることである。また、英語の本(多読教材)を読むことによって異文化理解や学生の教養を涵養する。英語を流暢に読めるように、読む速度を高めることに主眼を置く。具体的に、英語読本の「多読」を始め、語彙学習や速読訓練やリーディング・サークルでそれらについてグループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することが主である。

到達目標

1. 英語を読む速度が早くなる(一分間250語を目指す)。
2. グループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することができる。
3. 英単語の語彙力を200以上増やすこと。

講義内容と講義計画

- 第1回 Reading for Speed & Fluency 1; Vocabulary Test; Oxford Reading Level Test, Moodle Orientation
- 第2回 Reading for Speed & Fluency 2; Hand in Vocabulary Test & Oxford Reading Level Test Results
- 第3回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 3; Book Spot 1
- 第4回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 4; Reading Circle #1-1
- 第5回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 5; Reading Circle #1-2
- 第6回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 6; Book Spot 2
- 第7回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 7; Reading Circle #2-1
- 第8回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 8; Reading Circle #2-2
- 第9回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 9; Book Spot 3
- 第10回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 10; Reading Circle #3-1
- 第11回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 11; Reading Circle #3-2; Reading list for Final Test
- 第12回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 12; Book Spot 4
- 第13回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 13; Reading Circle #4-1; Sign-up for Final Test
- 第14回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 14; Reading Circle #4-2; Hand in Oxford Reading Level #2; Confirm Final Test
- 第15回 Reading for Speed & Fluency 15; Final Test & Reflection Paper

評価方法

多読プログラム 40%、平常点(単語小テスト、授業活動) 30%、期末テスト 20%、リフレクション・ペーパー 10%

使用教材

Reading for Speed & Fluency 1, 単語帳, 配布プリント

授業外学習の内容

リーディング・サークルの活動について、事前に読んでおいて、自らのディスカッションで発表する内容を責任もって発表すること。また、英語読本を授業時間以外にも読むこと。

備考

授業に単語帳や辞書必携。講義の妨害となる私語、お喋り、途中退席、等は厳禁。

英語 I B (リテラシー)

担当者

ジム・ヘイ

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

(1) 将来教育者になる学生が、幼児に英語会話の導入をするための援助をすること。
(2) 将来教育者になる学生が、安心して英語会話ができるようになる。
毎回の授業で学んだ過程は、そのまま保育園や幼稚園において幼児を教えるときに使用することが可能である。

到達目標

子どもたちに発音の仕方や読み方を教えることができる。英語を教える際に使う、簡単な単語や絵の描かれた教材カードを用いることができる。

講義内容と講義計画

第1回 Intro, rules, materials list, arrange room, CHURCH song
第2回 Assign and practice love/hate until no notes TEAPOT song
第3回 1/2 love/hate. Do 20 questions
第4回 1/2 love/hate. Do 20 questions
第5回 Learn word by teaching letter sounds(caaat=cat). JOE song
第6回 12 groups of 4 choose word to teach to kids. They choose teaching style (music, gesture, game, art, flashcards).
第7回 REVIEW greetings. Make word lesson and props
第8回 Make word Lesson and Props
第9回 Make word Lesson and Props (last day to work in class)
第10回 3 groups do word lessons, 10+ minutes each, ITSY BISTY SPIDER song, make copies
第11回 3 groups do word lessons, 10+ minutes each, BUS song, make copies
第12回 3 groups do word lessons, 10+ minutes each, HAPPY song, make copies
第13回 3 groups do word lessons, 10+ minutes each, make copies for next class
第14回 Folder and fill book, Song Review Day
第15回 Game Day Pictionary

評価方法

学生各自の進歩、授業への参加態度、試験、課題で評価する。

使用教材

授業用プリント (歌、ゲーム、新聞、絵)

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。

英語 I C (リテラシー)

担当者

アンドリュー・カズンズ

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

This class' s goal is to help students to enjoy basic conversational English for travel, work etc. Lessons consist of both written and spoken exercises. I don' t generally give the students homework, but I advise them to work though the extra exercises given at the back of the textbook.

到達目標

To acquire basic conversational skill in English.

講義内容と講義計画

第1回 Introduction, Unit 1 Please Call Me Beth.

第2回 Unit 2 What Do you Do?

第3回 Unit 3 How Much Is It?

第4回 Unit 4 I Really Like Hip-Hop.

第5回 Unit 5 I Come from a Big Famil

第6回 Unit 6 How Often Do You Exercise?

第7回 Unit 7 We Had a Great Time!

第8回 Unit 8 What' s Your Neighborhood Like?

第9回 Unit 9 What Does She Look Like?

第10回 Unit 10 Have You Ever Ridden a Camel?

第11回 Unit 11 It' s a Very Exciting Place!

第12回 Unit 12 It Really Works!

第13回 Unit 13 May I Take Your Order?

第14回 Unit 14 The Biggest and the Best!

第15回 Unit 15 I' m Going to a Soccer Match.

評価方法

Assessment will be via a written 60 minute exam on the 15th lesson, which is based on material students will have studied in units 1-12 of the text book.

使用教材

Jack C. Richard, Interchange 4th Edition Level 1, Cambridge UP.

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。授業外学習として、不明な単語は事前に調べておくこと。

英語ⅡA（リテラシー）

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

社会は急速にグローバル化しており、将来幼児教育に携わる学生にとっても英語でのコミュニケーションを避けて通ることのできない時代となっている。本講義では、こうした現状を踏まえ、保育や教育の現場における日常生活に関する題材を取り扱いながら、学生が4技能のレベルアップを行い、英語でコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。

到達目標

場面設定によりすぐさま英語でコミュニケーションがとれる英会話能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 Hi, I'm Yuri Tanaka.
- 第3回 Where Is the Multi-purpose Room?
- 第4回 Good Morning. How Are You Today?
- 第5回 What Color Do You Like?
- 第6回 There's a Ladybug on the Leaf.
- 第7回 Review(1)
- 第8回 Review(2)
- 第9回 It's Time to Play Outside.
- 第10回 She Is Allergic to Eggs.
- 第11回 You Should Go to the Bathroom.
- 第12回 We Made Masks Today.
- 第13回 If It Rains, What Happens?
- 第14回 Review(3)
- 第15回 Review(4)

評価方法

試験、授業内で課す課題の総合評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

土屋麻衣子, Happy English for Childcare, 金星堂, 2015

授業外学習の内容

課題は必ずやっておくこと

備考

辞書は必携

英語ⅡB（リテラシー）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

様々なアクティビティに取り組みながら、国際化が進む現代の保育の現場で役に立つ、保育英語について学ぶ。Reading, Writing, Listening, Speaking の4技能をバランスよく習得しつつ、実際に児童に関わる上で重要となる日常的な語彙や、保育英語の表現を身につけることが、この講義の目的である。

到達目標

国際化する保育現場において必要とされる基礎的な英語表現を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 インTRODakション：Please Speak More Slowly
- 第2回 Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka
- 第3回 Unit 2 Where is the Multi-purpose Room?
- 第4回 Unit 3 Good Morning. How Are You Today?
- 第5回 Unit 4 What Color Do You Like?
- 第6回 Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf
- 第7回 Unit 6 It's Time to Play Outside
- 第8回 Unit 7 She Is Allergic to Eggs
- 第9回 Unit 8 You Should Go to the Bathroom
- 第10回 Unit 9 We Made Masks Today
- 第11回 Unit 10 If it Rains, What Happens?
- 第12回 Unit 11 What Shall We Do Today?
- 第13回 Unit 12 I Feel Feverish
- 第14回 Unit 13 This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
- 第15回 Unit 14 Thank You Very Much for Everything

評価方法

授業参加度（10%）、課題・小テスト（40%）、期末試験（50%）の総合評価

使用教材

土屋麻衣子, *Happy English for Childcare* (金星堂, 2015年)

授業外学習の内容

毎回リスニングの小テストを行うので、かならず復習を行うこと。

備考

英和辞書は必携

英語ⅡC（リテラシー）

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

本授業では、保育・教育の現場で実践的な英語会話力が必要とされていることを考慮し、英語によるリスニング・会話練習に重点を置く。あわせて基本的な語彙、文法を確認しながら、英語のコミュニケーション能力を総合的に高める訓練を行う。

到達目標

基本的な教室英語を使えるようにし、英語で授業運営できる素地を身につけることを目標とする。そのため、授業では基本的に英語のみを使用することになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス・Warm-up
- 第2回 Unit 1: Meeting and Greeting
- 第3回 Unit 2: Family and Friends
- 第4回 Unit 3: Likes and Dislikes
- 第5回 Unit 4: Good Habits and Bad Habits
- 第6回 Unit 5: Summer and Fun
- 第7回 Unit 6: Here and There
- 第8回 Units 1-6 のまとめ
- 第9回 Unit 7: Giving and Receiving
- 第10回 Unit 8: Parties and Fashion
- 第11回 Unit 9: Physical Education and Health
- 第12回 Unit 10: Nursery School and Day Care
- 第13回 Unit 11: Educating and Caring
- 第14回 Unit 12: Bullying and Other Problems
- 第15回 Units 7-12 のまとめ

評価方法

授業への参加度、発表、課題（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。

使用教材

S. Williams & V. Morooka (2014). *Student Teacher: Introductory English for Education Majors*. 東京：南雲堂. 2,100円

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、英語を話す練習を毎日少しでも行うこと。なお、授業外学習においては、オンラインの授業支援システム CaLabo Bridge を使用する。

備考

授業への積極的な参加を望みます。辞書（電子辞書可）を持参してください。

英語Ⅲ A (リテラシー)

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

保育の現場にまつわる様々なテーマを扱う長文を読み英語で職場の状況を理解し、かつ子どもたちや保護者との英語での会話が行えるように口語表現を学ぶ。また、これらに関連する基礎的な文法や語彙も確認する。

到達目標

英文読解の基礎的なスキルと、現場での簡単な英会話の力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 The School Year Begins
- 第 3 回 Arrival
- 第 4 回 Playtime in the Classroom
- 第 5 回 In the Sandbox
- 第 6 回 In the playground
- 第 7 回 Grammar 1 一般動詞・be 動詞
- 第 8 回 Lunchtime
- 第 9 回 Changing Clothes and Story Time
- 第 10 回 Nap Time
- 第 11 回 Blowing Bubbles
- 第 12 回 A Sick Child
- 第 13 回 Grammar 2 疑問文・否定文・命令文
- 第 14 回 Review(1)
- 第 15 回 Review(2)

評価方法

試験、授業内で課す課題の総合評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

森田和子,新保育の英語,三修社,2010.

授業外学習の内容

課題は必ずやっておくこと。

備考

辞書は必携

英語ⅢB（リテラシー）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、ビデオ教材を用いながら場面に応じた実用表現を習得することを第一に、また学生の英語力(「読む」・「聞く」・「話す」能力)を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

国際化する現代日本において必要とされる日常的な英会話能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 Where Do I Get the Bus? ①
- 第3回 Chapter 1 Where Do I Get the Bus? ②
- 第4回 Chapter 2 Do You Have a Reservation, Ma'am? ①
- 第5回 Chapter 2 Do You Have a Reservation, Ma'am? ②
- 第6回 Chapter 3 Could You Repeat That? ①
- 第7回 Chapter 3 Could You Repeat That? ②
- 第8回 Chapter 4 I'll Take the Wrangler Convertible. ①
- 第9回 Chapter 4 I'll Take the Wrangler Convertible. ②
- 第10回 Chapter 5 Would You Like Soup or Salad? ①
- 第11回 Chapter 5 Would You Like Soup or Salad? ②
- 第12回 Chapter 6 Where's the Fitting Room? ①
- 第13回 Chapter 6 Where's the Fitting Room? ②
- 第14回 Chapter 7 Would You Mind Taking My Picture? ①
- 第15回 Chapter 7 Would You Mind Taking My Picture? ②

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト（30%）、期末試験（60%）

使用教材

大八木廣人/Timothy Kiggell 『Viva! San Francisco - Video Approach to Survival English』、マクミランランゲージハウス、1998年。

授業外学習の内容

最低限の予習として不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。PCの操作等について解説するため、初回は必ず出席すること。

英語ⅢC（リテラシー）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

教員を目指す学生向けのテキストを使用し、教育現場で必要とされる英語のスキルを身につける。とりわけ、小学校における外国語教育の機会が増える中、教育現場において、英語でコミュニケーションを図る力、授業を行う力が求められている状況に対応し、英語でのアクティビティやクラスルーム・イングリッシュなど、教育にまつわる実践的な英語力を獲得することを目的とする。

到達目標

教育現場における実践的な英語力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 Unit 1 ALT's First Visit to Minami Elementary School
- 第3回 Unit 2 Getting to Know Each Other
- 第4回 Unit 3 School Lunch
- 第5回 Unit 4 Play Time
- 第6回 Unit 5 The First English Class
- 第7回 Unit 6 Teaching Numbers 1
- 第8回 Unit 7 Teaching Numbers 2
- 第9回 Unit 8 Reflection
- 第10回 Unit 9 Activities at a Kindergarten
- 第11回 Unit 10 Growing Plants and Observing the Butterfly Lifecycle
- 第12回 Unit 11 Making Onigiri and Curry
- 第13回 Unit 12 Making a Town Map
- 第14回 Unit 13 Introducing Japanese Culture
- 第15回 Unit 14 Evacuation Drills

評価方法

試験(60%)、出席(10%)、授業内で課する課題(30%)の総合評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

相羽千州子他, *Hello, English: English for Teachers of Children* (成美堂, 2016年)

授業外学習の内容

毎回単語小テストを課すので復習を行うこと。また教員の指示に従って、e-learningに取り組むこと。

備考

英和辞書は必携

英語ⅣA（リテラシー）

担当者

未定

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

his courses goal is to help students to enjoy English for working with children, pleasure, and daily communication and media empowerment. Classes will be a mix of pair and group speaking and listening, reading and writing, and homework also, to get used to English and have fun building skills.

到達目標

For learners to feel more comfortable about using English in a variety of ways for their work life and own purposes.

講義内容と講義計画

第1回 Introductions; class goals and methods for skill-building. Pre-Unit 1: Meeting and learning about each other. First writing assignment.
第2回 Unit 1 Sharing our writing. “About Me.” English activities
第3回 Unit 2 and sharing English activities, Book Clubs
第4回 Unit 3 and English in the computer room; software and media resources
第5回 Unit 4 Children Just Like Me by Barnabas and Anabel Kindersley, and sharing English activities
第6回 Unit 5 and sharing English activities, Book Clubs
第7回 Unit 6 and sharing English activities
第8回 Unit 7 and sharing English activities
第9回 Unit 8 and English media on the Internet; finding out what you want to know
第10回 Unit 9 and sharing English activities, Book Clubs
第11回 Unit 10 and sharing English activities
第12回 Unit 11 and sharing English activities
第13回 Unit 12 and sharing English activities
第14回 Review, Book Clubs, and final assignments
第15回 Final: assignment portfolio submissions and role play performances, evaluations

評価方法

Attendance and participation 10%; many short quizzes of speaking English in classes 40%, also short graded assignments 20% and final exam 30%.

使用教材

未定

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

Please contact me at anna-isozaki@nifty.com for anything.

英語ⅣB（リテラシー）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

保育の現場にまつわる様々なテーマを扱うエッセイを読みながら、保育の現場における子どもたちや保護者との口語表現を中心に学ぶ。また、これに関連して基礎的な文法や語彙も確認する。

到達目標

保育にまつわる英文読解のスキルを獲得し、保育の現場に役立つ英語表現を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 1. The School Year Begins
- 第3回 2. Arrival
- 第4回 3. Playtime in the Classroom
- 第5回 4. In the Sandbox
- 第6回 5. In the Playground
- 第7回 6. Lunchtime
- 第8回 7. Changing Clothes and Story Time
- 第9回 8. Nap Time
- 第10回 9. Blowing Bubbles
- 第11回 10. A Sick Child
- 第12回 11. Preparation for the Sports Day
- 第13回 12. The Sports Day
- 第14回 13. Going for a Walk
- 第15回 14. Discovering Autumn

評価方法

授業参加度（10%）、課題・小テスト（40%）、期末試験（50%）の総合評価。

使用教材

森田和子『新・保育の英語』（三修社、2010年）

授業外学習の内容

毎回、小テストを行うので必ず復習して臨むこと。

備考

英和辞書は必携

英語ⅣC（リテラシー）

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

将来子どもの英語教育に携わる学生が、実際のコミュニケーションに役立つ発音の力を身につける。発音記号を正確に覚え、正しい発音の方法を系統的に学習し、動揺などを読むことで正確で自然な発音ができる力を身につける。

到達目標

英語コミュニケーション能力を身につけるために、英語の発音（主にアメリカ英語）やリズムとイントネーションに習熟する。

講義内容と講義計画

第1回 Lesson1 ([i:] [i])~Lesson2 ([e] [ei]), Nursery Rhymes1,2
第2回 Lesson3 ([æ])~Lesson4 ([ɑ:r]), Passage for Reading(1), NR 3,4
第3回 Lesson5 ([ɑ])~Lesson6 ([ʌ]), PR(2), NR5,6
第4回 Lesson7 ([ɔ:] [ou])~Lesson8 ([u:] [u]), NR7,8,9, Poem1,2
第5回 Lesson9 ([ə] [ər] [ə:r]), NR10, P3
第6回 Lesson10-(1) ([ai] [au] [ɔi] [iər] [iə]), NR11,12,13,14
第7回 Lesson10-(2) ([ɛər] [ɛə] [ɔər] [ɔə] [ɔ:r]), NR15,16, PR (3)
第8回 Review (1)
第9回 Lesson11 ([p] [b])~Lesson12 ([t] [d]), Tongue Twister1,
第10回 Lesson13 ([k] [g])~Lesson14 ([f] [v]), NR17,18,19
第11回 Lesson15 ([θ] [ð])~Lesson16 ([s] [z]), NR20,21
第12回 Lesson17 ([ʃ] [ʒ])~Lesson18 ([h]), TT2
第13回 Lesson19 ([tʃ] [dʒ])~Lesson20 ([r] [l]), NR22
第14回 Lesson21 ([m] [n] [ŋ])~Lesson22 ([w] [r] [j]), NR23,24,25,26
第15回 Review (2)

評価方法

試験、授業内で課す課題の総合評価。ただし、三分の一以上欠席すると不可となるので注意すること。

使用教材

小泉節子 杉森幹彦, English Pronunciation for Communication, 南雲堂, 2012

授業外学習の内容

課題を行うことが授業の基礎となるので、必ずやっておくこと。

備考

辞書は必携

Integrated English I (リテラシー)

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 1 単位

講義目標

本講義では、海外英語研修参加希望者を対象に、海外での生活における様々な場面を想定した英会話練習を行う。また、海外英語研修の事前準備についての説明も行う。但し、海外英語研修参加希望者以外も履修可。

到達目標

英語による日常会話レベルのコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 What is communication?
- 第 2 回 Cognitive Psychology: Get to know yourself
- 第 3 回 Social skills
- 第 4 回 The power of imagination and innovation
- 第 5 回 Learning to control a conversation
- 第 6 回 Listening strategies
- 第 7 回 Basic English: Self introduction and first steps for communicating in English
- 第 8 回 Creating your own English database
- 第 9 回 Meet a foreigner
- 第 10 回 Speech basics: Talking to an audience
- 第 11 回 Presentation 1 (power point)
- 第 12 回 Presentation 2 (power point)
- 第 13 回 Make your own textbook 1
- 第 14 回 Make your own textbook 2
- 第 15 回 Conclusion

評価方法

授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

毎回プレゼンテーションをしてもらうので、準備をしたうえで授業に臨むこと。

備考

Integrated English II (リテラシー)

担当者

真下 裕子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 1 単位

講義目標

実践問題演習を通して、TOEIC テストの全貌と特徴、傾向と対策をおさえるとともに、スコアアップのための受験のストラテジーも習得する。

到達目標

TOEIC テスト 500 点以上を目指す。

講義内容と講義計画

第 1 回 Introduction (TOEIC テストの概略説明と学習法)

第 2 回 Part 1

第 3 回 Part 2

第 4 回 Part 3

第 5 回 Part 4

第 6 回 Part 5

第 7 回 Part 6

第 8 回 Part 7

第 9 回 Part 1, 2

第10回 Part 3, 4

第11回 Part 5, 6

第12回 Part 7

第13回 模擬テスト (リスニング)

第14回 模擬テスト (リーディング)

第15回 模擬テスト解答と解説

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、模擬テスト (60%)。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行い、授業で学んだことの復習を徹底すること。

備考

必ず辞書とノートを持参すること。

ドイツ語（リテラシー）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

初習者がドイツ語に親しみ、講義終了後も学習を持続していくための足がかりを築く。

到達目標

ドイツ語を正確に発音し、聞き取ることができる。また、初級文法を用いて基本的な会話を行い、読み書きすることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーションー日常のなかのドイツ語と、ドイツ語のアルファベットー
- 第 2 回 Lektion1 ドイツ語の発音
- 第 3 回 ドイツ語の発音についての補足 (1)
- 第 4 回 ドイツ語の発音についての補足 (2)
- 第 5 回 Lektion2 一般動詞の人称変化 (1)
- 第 6 回 Lektion2 一般動詞の人称変化 (2)
- 第 7 回 Lektion3 sein と haben (ドイツ語の be 動詞と have) (1)
- 第 8 回 Lektion3 sein と haben (ドイツ語の be 動詞と have) (2)
- 第 9 回 Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある (1)
- 第10回 Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある (2)
- 第11回 Lektion5 助動詞を用いて表現の幅を広げる (1)
- 第12回 Lektion5 助動詞を用いて表現の幅を広げる (2)
- 第13回 夏の旅行会話
- 第14回 Lektion6 名詞の格変化 (1)
- 第15回 Lektion6 名詞の格変化 (2)

評価方法

授業への参加とその態度 (20%)、小テスト・期末テスト (80%) で評価する。

使用教材

羽根田知子・熊谷知実『ネコと学ぶドイツ語』、三修社。¥2,400

授業外学習の内容

予習は諸君の自主性に任せる。ただし、復習は必ず行うこと。

備考

特になし。

フランス語（リテラシー）

担当者

カディオンボ アナスタシー

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

フランス語に興味を持ってもらう

到達目標

初級文法を用いて基本的な会話を行ない、読み書きができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 アルファベットとつづり字記号、発音
- 第 2 回 リエゾンとアンシュヌマン
- 第 3 回 名詞（性）と冠詞
- 第 4 回 母音の発音
- 第 5 回 子音の発音
- 第 6 回 あいさつ表現
- 第 7 回 依頼の表現
- 第 8 回 be 動詞（être）
- 第 9 回 have（avoir）動詞
- 第 10 回 第 1 群規則動詞（-er 動詞）
- 第 11 回 否定文
- 第 12 回 時刻・年齢の表現
- 第 13 回 第 2 群規則動詞（-ir 動詞）
- 第 14 回 形容詞①
- 第 15 回 形容詞②

評価方法

筆記試験、授業参加度、ノート提出

使用教材

授業外学習の内容

時々、印刷したものを配布します

備考

ポルトガル語（リテラシー）

担当者

伊勢島セリア明美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

ポルトガル語の基礎文法を習得することを目標とします。

到達目標

初歩の会話ができるようになることを到達目標とします。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Meu nome é Maria. (アルファベット、挨拶、自己紹介のしかた)
- 第 2 回 Ela não é japonesa. (出身地等を伝える表現、否定文、疑問文、前置詞 de)
- 第 3 回 Meu pai é médico. (職業等の言い方、家族、所有形容詞)
- 第 4 回 Sua mãe é alta? (形状を表す表現、形容詞①、形容詞の変化)
- 第 5 回 Quantos anos você tem? (年齢等の表現、数詞①、名詞の性と数、動詞 ter)
- 第 6 回 O Japão é mais frio que o Brasil. (比較の表現、形容詞②、定冠詞)
- 第 7 回 Você gosta de música? (好みを伝える、動詞 gostar、動詞 preferir)
- 第 8 回 Ela quer descansar. (願望の表現、不定冠詞、動詞 querer)
- 第 9 回 Meu celular está na bolsa. (存在を表す表現、動詞 estar、前置詞 em)
- 第10 回 Eu vou ao banco. (行き先を伝える、動詞 ir、前置詞 a、前置詞 de)
- 第11 回 Você fala português? (時間の表現、数詞②、-ar 動詞)
- 第12 回 Eu corro todas os dias. (時の表現①、-er 動詞、前置詞 com)
- 第13 回 Quando eles partem? (曜日、-ir 動詞、前置詞 em)
- 第14 回 O que você fez ontem? (時の表現②、月の名前、完全過去形)
- 第15 回 まとめ

評価方法

ミニ会話の発表 (50%)、小テスト (50%)

使用教材

プリントを配布します。

授業外学習の内容

前回授業内容に係る会話の発表を実施しますので、復習をしておいて下さい。

備考

“頭”と“心”の柔軟性をもって学習に挑んで頂ければと思います。

中国語（リテラシー）

担当者

渡邊 賢

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な構文を身に付ける。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

到達目標

15回という限られた時間で最も基礎的かつ不可欠な事項を習得し、その後、継続して自力学習が可能な能力を育成することを目指す。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス：授業の展開の仕方、中国およびその言語に関する概略的な説。
- 第2回 発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。
- 第3回 発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌尖音・舌根音などを学習する。
- 第4回 発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。
- 第5回 発音の基礎Ⅳ：「轻声」および四声の組み合わせの学習。発音の基礎の総復習。
- 第6回 教科書基本編レッスン1・レッスン2：簡単なあいさつの学習。
- 第7回 教科書基本編レッスン3・レッスン4：名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習
- 第8回 教科書基本編レッスン5・レッスン6：指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習
- 第9回 教科書基本編レッスン7・レッスン8：中国語の主述構造（主謂構造）などについての学習。
- 第10回 教科書基本編レッスン9・レッスン10：疑問代詞、数詞などの学習。
- 第11回 教科書基本編レッスン11・レッスン12：数量や時刻を尋ねる疑問代詞などについての学習。
- 第12回 発音と語法の総復習Ⅰ
- 第13回 発音と語法の総復習Ⅱ
- 第14回 発音と語法の総復習Ⅲ
- 第15回 まとめ

評価方法

評価は、授業時毎回の小試験を50%、学期末筆記試験の成績を50%とする。

使用教材

小幡敏行「大学一年生のための合格る中国語」朝日出版社

授業外学習の内容

机に向かって学習するには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。また習慣的学習を身に着けたい。

備考

中国語の一語は、日本語の子音にあたる「声」と母音にあたる「韻」と、および高低のトーンである「調」とから構成され、この三者が正確に発音されなければ、相手に伝わる「コトバ」にはなり得ない。したがって授業は、最も基礎的な構文の徹底した反復学習によって中国語の発音ができる口を作ることに力点を置いて展開する。外国語の発音の習得は、困難なことでは決してないが、習慣的な学習の蓄積と、ある程度の忍耐が肝要である。履修者にはこの点を心得てほしい。

ハングル語（リテラシー）

担当者

河正一

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

本授業は、はじめて韓国語を勉強する学生を対象にし、韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きができることはもとより、基本文型を身に付けさせて簡単な日常会話ができることを目的とする。取り分け、初級レベルの韓国語運用能力を身につける。

到達目標

正確な発音、正確な文字表記を習得する。

韓国語の基本語彙・表現を習得する。

基本的な韓国語の4技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。

講義内容と講義計画

第1回 韓国語について（概論）

第2回 母音、子音

第3回 激音、濃音

第4回 パッチム

第5回 二重母音

第6回 発音の変化

第7回 私は韓アルムです。

第8回 それは何ですか。

第9回 アルムさんはお兄さんがいますか。

第10回 食堂はどこにありますか。

第11回 週末は主にどう過ごしますか。

第12回 1時限目は何時からですか。

第13回 お姉さんと故郷へ帰ります。

第14回 韓国料理は少し辛くありませんか。

第15回 まとめ

評価方法

宿題 30%、小テスト 20%、中間・期末試験 50%

使用教材

李淑炫（2011）『チェミナ韓国語—自然に身につく会話と文法 韓国語初級テキスト』白帝社

授業外学習の内容

必ず予習・復習を行うこと。

授業では、毎回小テストを行う。

授業が始まる前に前回の宿題を提出する。

備考

質問等がある場合は hajeong007@gmail.com までに連絡すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。

コンピュータ入門Ⅰ（リテラシー）

担当者

片山 豪、木幡 直樹

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

インターネット，電子メール，ワープロ，表計算，プレゼンテーション等各種ソフトウェアの基本的な操作方を身に付けさせる。

到達目標

保育所，幼稚園，小学校等の教育現場で校務を遂行するためのコンピュータの基本的な技術を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 学内コンピュータの利用法，電子メールの基本操作
- 第2回 Windowsの基本操作，インターネットの情報検索，情報セキュリティ
- 第3回 Word文書作成の基本操作・文字列の入力
- 第4回 Word文書の作成（1） 基本的な文書の作成，書式の設定
- 第5回 Word文書の作成（2） 文書の編集，文書の印刷
- 第6回 officeのフォトレタッチ機能
- 第7回 Word文書の作成（3） 表と図表の作成
- 第8回 Word課題，レポート作成
- 第9回 Excel基本操作(1) セルとワークシート
- 第10回 Excel基本操作(2) 集計表の作成
- 第11回 Excelの関数
- 第12回 Excelの便利な機能（条件付き書式，並び替え，フィルター）
- 第13回 PowerPoint プレゼンテーション作成の基本操作
- 第14回 PowerPoint 図形の描画
- 第15回 PowerPoint プレゼンテーション効果の活用，アニメーション

評価方法

課題に対する提出物（ファイル）の内容を総合的に評価する。

使用教材

30時間でマスターoffice2010（実教出版）。授業中において紹介。

授業外学習の内容

授業内容に関連した課題

備考

コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー）

担当者

片山 豪、木幡 直樹

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

インターネット，ワープロ，表計算ソフトの実践的な操作方法を身に付けさせる。また，データベースソフトや教育論文作成に便利なソフトの基本的な操作方法を身に付けさせる。

到達目標

コンピュータ入門Ⅰでの学習したソフトを用いて，教育現場で応用できる能力を身に付ける。また，データベースソフトや教育論文作成に便利なソフトの基本的な操作方法を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 HPの表のExcelでの利用，小学校の時間割の作成（Internet Explorer, Excel）
- 第2回 中学校の時間割の作成（Internet Explorer, Excel）
- 第3回 学級通信の作成（Word, Excel）
- 第4回 座席表の作成（Excel）
- 第5回 保護者あて文書の作成（Word, Excel）
- 第6回 タックシール印刷（Word, Excel）
- 第7回 差し込み印刷（Word, Excel）
- 第8回 データベースソフトの利用1：テーブルとクエリの作成（Access）
- 第9回 データベースソフトの利用2：フォームの作成（Access）
- 第10回 データベースソフトの利用3：レポートの作成（Access）
- 第11回 教育論文の作成と文書校正（Word）
- 第12回 文献管理ソフトの基本操作（Mendeley）
- 第13回 アンケート作成ソフトの基本操作（Form）
- 第14回 地理情報分析ソフトの基本操作（Mandara）
- 第15回 統計ソフトの基本操作（R）

評価方法

課題に対する提出物（ファイル）の内容を総合的に評価する。

使用教材

自作資料。授業中において紹介。

授業外学習の内容

授業内容に関連した課題

備考

コンピュータ実習 I (リテラシー)

担当者

片山 豪、木幡 直樹

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

アニメーション、画像、動画等の各種ソフトウェアの基本的な操作方法を身に付けさせる。

到達目標

保育所、幼稚園、小学校等の教育現場で効果的に校務を遂行するためのコンピュータの基本的な技術を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 Adobe Flash 基本操作
- 第2回 Adobe Flash 基本図形描画
- 第3回 Adobe Flash 図形編集
- 第4回 Adobe Flash キーフレームアニメーション
- 第5回 Adobe Flash クラシクトゥイーンアニメーション
- 第6回 Adobe Flash モーショントゥイーンアニメーション
- 第7回 Adobe Flash 自由な動線に沿ったトゥイーン
- 第8回 Adobe Flash シンボル内アニメとその活用
- 第9回 Adobe Flash 操作ボタンの設置 (ActionScript)
- 第10回 Adobe Flash オリジナル作品の作成
- 第11回 Adobe Photoshop Elements 基本操作
- 第12回 Adobe Photoshop Elements 画像のレタッチ・合成
- 第13回 Windows Movie Maker 基本操作
- 第14回 Windows Movie Maker 画像の編集
- 第15回 Adobe Premiere 基本操作

評価方法

課題に対する提出物（ファイル）の内容を総合的に評価する。

使用教材

自作資料。授業中において紹介。

授業外学習の内容

授業内容に関連した課題

備考

コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）

担当者

片山 豪、木幡 直樹

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

コンピュータ入門Ⅱでの学習をもとにして、保育、授業等の教育活動でのコンピュータの活用の技能を深化するために、各課題に応じた教材を作成し、発表する。

到達目標

良い授業をする能力やプレゼンテーション能力を養う。また、成績処理、HPの作成など教育現場で必要とされる人材になるための能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 考査(得点)の集計表(1) 表の概形の作成
- 第2回 考査(得点)の集計表(2) 男女別平均点 (SumIF・CountIF・AverageIF 関数)
- 第3回 考査(正解率)の集計表 得点別人数分布(CountIFs 関数)・セル(シート)の保護
- 第4回 中間考査・学力テスト・期末考査を含む集計表への拡張 (各種関数の再確認)
- 第5回 評定値を含む表への拡張とテスト別に重み付けのある場合の合計点の出し方
- 第6回 順位付けと評定基準に基づく評定値の決定 (Rank・IF 関数)
- 第7回 評定値の決定 (Vlookup 関数による方法) と入力規則の利用
- 第8回 通年集計表の作成
- 第9回 評定数と評定平均を含む表の作成
- 第10回 条件に該当する者を見つけるためのチェック欄の作成と条件付き書式
- 第11回 該当者一覧用シートの作成 (Vlookup・Match・Index 関数)
- 第12回 内申点・標準偏差を含む表の作成
- 第13回 マクロ(1) マクロ記録による操作の自動化
- 第14回 マクロ(2) VBA(Visual Basic for Applications)プログラミングの基礎
- 第15回 マクロ(3) VBAを用いた実用的マクロの作成

評価方法

課題に対する提出物（ファイル）の内容を総合的に評価する。

使用教材

自作資料。授業中において紹介。

授業外学習の内容

授業内容に関連した課題

備考

レクリエーション論（専門教養科目）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

レクリエーションという世界に関心・興味を持つ学生のための入門的な授業。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：レクリエーションの意義、歴史、使命、仕組み、制度、現代社会の課題を確認する。またそのうえでレクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解を深める。
- 2 思考・判断の観点：楽しさを原動力としたレクリエーション事業の類別ができる。
- 3 関心・意欲の観点：自らの経験を振り返りながらレクリエーション活動に積極的にに関わり、問題意識をもつことができる。
- 4 態度の観点：積極的にレクリエーション事業に取り組むことができる。
- 5 技能・表現の観点：レクリエーション事業の計画・実施・評価を考える上で必要な資料や情報を収集し、適切な方法で表現できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス、レクリエーションとは
- 第2回 レクリエーションの基礎理論
- 第3回 レクリエーションの意義
- 第4回 レクリエーション運動を支える制度
- 第5回 レクリエーション支援の理論
- 第6回 ライフスタイルとレクリエーション
- 第7回 少子高齢化社会の課題とレクリエーション
- 第8回 レクリエーション事業論
- 第9回 レクリエーション事業とは
- 第10回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業の作り方（1）
- 第11回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業の作り方（2）
- 第12回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業の作り方（1）
- 第13回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業の作り方（2）
- 第14回 安全管理
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート課題 50%、授業態度・授業への参加度 30%、授業内での発表 20%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

授業終了時に配布する課題についてレポートを作成すること。また、日頃から新聞やニュース、地域情報などをチェックし、学外のさまざまな分野で行われているレクリエーション活動に関心・興味をもつ。また、地元や身近な地域で開催されるレクリエーション事業に積極的に参加する。

備考

授業ごとの課題の配布、提出がある。授業を欠席した学生はその週のうちに課題を研究室まで取りに来ること。

(健康福祉学部 1 号館 3 階 302) また、積極的に **C-Learning** を活用する授業のため、ネット環境を整えておくこと。(無理な場合は大学 PC 室を利用してください) 受講上の注意：社会福祉学科の学生で「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格取得を希望者は必ず履修すること。

子どもと医療（専門教養科目）

担当者

田島 貞子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

子どもは、発熱やけいれん等突発的な症状を起こすことが多いので、その特性を学ぶ。
また、入院中の子どもやその保護者への支援の方法や、疾病を持ちながら社会生活を送っている子ども達がより快適に過ごすことができるための方策を考えるとともに、「命」について、「健康」についてを考える。

到達目標

1. 子どもに多い疾患とその対応について理解することができる。
2. 医療を必要とする子どもや保護者の気持ちを理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回オリエンテーション
- 第2回健康について考える
- 第3回病院の仕組み、用語の解説
- 第4回子どもに多い疾患についての理解(1)
- 第5回子どもに多い疾患についての理解(2)
- 第6回入院中の子ども達への理解と支援(1)
- 第7回入院中の子ども達への理解と支援(2)
- 第8回子どもの気持ち、家族の気持ち(1)
- 第9回子どもの気持ち、家族の気持ち(2)
- 第10回子どもの病気への対応(1)
- 第11回子どもの病気への対応(2)
- 第12回子どもへの支援、家族への支援
- 第13回医療を必要とする子ども達への施策(1)
- 第14回チーム医療の一員としての役割
- 第15回まとめ

評価方法

レポート 80%、授業参加度・学習態度 20%で評価する。

使用教材

必要により資料を配布する。

授業外学習の内容

- ・事前に配布する資料を読み、専門用語、特に医学用語について事前に調べておくこと。
- ・「電池が切れるまで」（角川書店）、「ダウン症のおともだち」（ミネルヴァ書房）、その他授業中に紹介する図書や「命」に関する図書を読むこと。

備考

病院の見学を考えていますので、必ず4.疾患(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)の抗体検査を受け、抗体価が低い場合には、授業開始までに予防接種を受けておいて下さい。

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

宗教と倫理（専門教養科目）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。

到達目標

講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 『聖書』の思想：一神教の系譜
- 第3回 善人とは何かー『旧約聖書』（『ヨブ記』）より（1）「応報主義」の論理
- 第4回 善人とは何かー『ヨブ記』より（2）生誕の災い
- 第5回 善人とは何かー『ヨブ記』より（3）自己の在り方を省みる
- 第6回 善人とは何かー『ヨブ記』より（4）現代の事例から考える
- 第7回 善人とは何かー『ヨブ記』より（5）「応報主義」を超えるもの
- 第8回 旧約から新約へ：イエスの教え
- 第9回 悪人とは何かー『歎異抄』より（1）『歎異抄』について
- 第10回 悪人とは何かー『歎異抄』より（2）罪の意識
- 第11回 悪人とは何かー『歎異抄』より（3）浄土思想の展開（1）
- 第12回 悪人とは何かー『歎異抄』より（4）浄土思想の展開（2）
- 第13回 悪人とは何かー『歎異抄』より（5）「悪人正機説」
- 第14回 悪人とは何かー『歎異抄』より（6）悪の不可避性とそれゆえの無力
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加とその態度（30%）、課題・期末レポート（70%）から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。特に予習は求めないが、配付された資料を読むなど復習は必ず行うこと。「宗教」は非日常的なものとして敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、私たちが日常を省みるためのもの機会を提供してくれる。自分が普段、どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。

備考

人間発達論（専門教養科目）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

人が心身や社会性などの発達過程に興味や関心を持ち、将来保育者や教育者を目指しての4年間の学習の基盤をつくることを目指す。

到達目標

- ・人の発達過程を理解できるようになる。
- ・人の発達過程が、自分を取りまく人たちとの共同作業で進められていることが理解できるようになる。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション -生涯発達を学ぶ理由-

第2回 発達の原理と発達を規定する要因

第3回 発達観の変遷と発達をとらえる方法

第4回 胎児期

第5回 新生児期・乳児期

第6回 幼児期

第7回 児童期

第8回 青年期

第9回 成人期・中年期

第10回 老年期

第11回 家族や地域社会と発達

第12回 心身の障害と発達

第13回 発達過程と学校教育

第14回 大人になるということ

第15回 まとめ

評価方法

評価は、個人ワーク課題の提出状況および期末試験などを総合しておこなう。

使用教材

テキストは使用しない。授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

常に予習復習を心掛けること。また、適時、個人ワークやレポートなどの加害課題を与えるので、真剣に取り組むこと。

備考

人間行動学（専門教養科目）

担当者

富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

人間は社会的な存在であり、日常場面では、様々なモノや情報とかかわりながら生活している。それでは、何が人間の行動を導いたり制約したりするのだろうか。本講義では、主に心理学と認知科学の視点から人間の行動について学ぶ。

到達目標

- ①人間の行動とモノや情報との関係について理解する。
- ②現代社会で生じている人間の行動に関する諸問題との関連について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 人間の行動を導くもの
- 第2回 世論と統計
- 第3回 社会調査
- 第4回 言説
- 第5回 データの誤解釈
- 第6回 データの解釈の歪み
- 第7回 動機と信念
- 第8回 伝聞情報
- 第9回 社会的承認
- 第10回 道具のデザイン
- 第11回 行為と思考
- 第12回 知識の所在
- 第13回 日常における制約
- 第14回 エラーとミステイク
- 第15回 まとめ

評価方法

試験（70%）、授業参画度（30%）

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

授業で扱える内容は限られているため配布資料や参考文献を使って理解を深めること。

備考

授業の進行や他の学生の学習を妨げたりする者は受講を認めない。

音楽基礎 I (幼・保) (専門教養科目)

担当者

岡本 拓子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 1単位

講義目標

保育士、幼稚園および小学校の教員に必要な、音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には、音楽の基礎理論と技術、読譜力、ソルフェージュ力、及びピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌いの習得をめざす。

到達目標

- ① 音符、リズムと拍、音階、調号、和声等、音楽に関する基礎知識について理解する。
- ② 保育士、幼稚園および小学校で学ぶ歌唱教材の伴奏を習得する。
- ③ 場奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 楽譜の基本① 高音部譜表、音名、音符
- 第3回 楽譜の基本② リズムと拍、音階
- 第4回 楽譜の基本③ 調号、和声
- 第5回 スケールとカデンツの演奏法
- 第6回 コード譜の読み方と演奏法
- 第7回 歌唱教材の伴奏① ベースとメロディ唱
- 第8回 歌唱教材の伴奏② コード奏とメロディ唱
- 第9回 歌唱教材の伴奏③ アルペジオ
- 第10回 中間発表
- 第11回 弾き歌い① 季節の歌
- 第12回 弾き歌い② 生活の歌
- 第13回 弾き歌い③ 自然の歌
- 第14回 弾き歌い④ 様々な遊び歌
- 第15回 総合発表

評価方法

筆記試験 30%、実技発表 30%、毎回の授業課題 40%を総合する

使用教材

井戸和秀編『こどものうた 100』チャイルド本社、石川良子著『はじめての楽譜の読み方』ケイ・エム・ピー、そのほか資料を配布する

授業外学習の内容

- ・「ピアノ課題は毎日練習して授業に臨むこと」
- ・「楽譜を読み、リズムや音取りをする練習をできるだけ多く取ること」
- ・「練習では必ず歌いながら弾くこと」

備考

・集団レッスンのため、欠席すると課題に遅れが生じる。欠席の場合は必ず課題を入手して次の授業に臨むこと。

音楽基礎 I (小学校) (専門教養科目)

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 1単位

講義目標

小学校の音楽指導に必要な基礎的知識及び技能を習得する。

到達目標

音楽の基礎的知識について理解できる。

合唱の楽しさを味わうことができる。

ピアノ初心者はピアノの基礎的な技術を習得できる。中級者は弾き歌いの基礎を理解し、演奏できる。上級者は、伴奏法の理論を理解し、演奏できる。

講義内容と講義計画

ピアノは、初級者、中級者、上級者に応じて毎時課題を出す。合唱は発声法も含め、2部合唱の楽しさを味わう。楽典は小学校低・中学年の指導内容を理解する。

第1回 1) オリエンテーション 2) 鍵盤楽器の構造、歴史 3) 楽譜の知識①高音部譜表、音名、音符
4) 奏法の基礎①運指

第2回 1) 電子ピアノの機能と奏法 2) 楽譜の知識②低音部譜表、拍子、音の長さ

第3回 1) 音階 2) コード譜の読み方と演奏法

第4回 1) 長調と短調、マイナーとメジャーコード 2) 第1回検定

第5回 1) 全音と半音 全音音階と半音階

第6回 カデンツの機能

第7回 カデンツの実際：カデンツからみる子どもの歌

第8回 1) 弾き歌い①前奏、間奏 2) 第2回検定

第9回 弾き歌い②ベースとメロディ唱

第10回 弾き歌い③コード伴奏とメロディ唱

第11回 弾き歌い④ベースとメロディ奏、メロディ唱

第12回 1) 弾き歌い⑤アルペジオ 3) 第3回検定

第13回 いろいろな記譜法 (含日本の伝統音楽)

第14回 音によるコミュニケーション アンサンブル

第15回 聞き手に伝える表現：実技発表と相互評価

評価方法

実技発表及び検定 50%、筆記試験 20% 毎回の授業課題 30%を総合する。

使用教材

資料を配布する

授業外学習の内容

ピアノ課題は、毎日練習して授業に臨むこと。

備考

当該科目未履修者は、音楽検定合格を実習要件とする。課題曲は検定1ヶ月前に発表する。

音楽基礎Ⅱ（幼・保）（専門教養科目）

担当者

岡本 拓子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

本授業では音楽基礎Ⅰに引き続き、保育士や幼稚園および小学校の教員に必要な、音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得することを目的とする。具体的には音楽の基礎理論と技術、読譜力やソルフェージュ力、およびピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌いの習得をめざす。

到達目標

- ①音程、音階、調号、和声・コードおよびリズム等、音楽に関する基礎知識について理解する。
- ②新曲視唱、リズム奏等のソルフェージュ力を習得する。
- ③習熟度に応じ、ピアノ等の楽器演奏技法を習得する。
- ③伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回:リエンションと習熟度判定(音楽理論に関する小テスト, 新曲視唱)
- 第2回:音程と音階
- 第3回:近親調と遠隔調
- 第4回:移調
- 第5回:調判定
- 第6回:検定試験①(理論に関する知識)
- 第7回:和声
- 第8回:コード・ネーム
- 第9回:コード奏法
- 第10回:検定試験②(コード伴奏)
- 第11回:視唱とリズム奏
- 第12回:子どもの歌の伴奏法
- 第13回:子どもに聴かせたいピアノ曲
- 第14回:検定試験③(新曲視唱, 伴奏法)
- 第15回:総合発表

評価方法

筆記試験 30%、実技発表 30%、毎回の授業課題 40%を総合する。

使用教材

井戸和秀編『こどものうた 100』チャイルド本社、石川良子著『はじめての楽譜の読み方』ケイ・エム・ピー、そのほか資料を配布する。

授業外学習の内容

- ・「ピアノ課題は毎日練習して授業に臨むこと」
- ・「楽譜を読み、リズムや音取りをする練習をできるだけ多く取ること。」
- ・「練習では必ず歌いながら弾くこと」

備考

集団レッスンのため、欠席すると課題に遅れが生じる。欠席の場合は必ず課題を入手して次の授業に臨むこと。

音楽基礎Ⅱ（小学校）（専門教養科目）

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

音楽基礎ⅠBに引き続き、さらに小学校の音楽指導に必要な知識及び技能を習得する。合唱、ピアノに加えて、リコーダーの演奏技術及び指導技術を習得する。小学校音楽鑑賞教材の理解をする。

到達目標

1. 合唱の楽しさを味わうことができる。
2. ピアノは、中級者は習得した伴奏法を小学校教材の伴奏に応用できる。コード進行を理解し、メロディを見て伴奏ができる。上級者は、子どもの歌いやすい音域に移調して弾ける。様々な伴奏法でアレンジができる。
3. リコーダーや鍵盤ハーモニカの特性を理解し、音の美しさを生かしたアンサンブルが出来る。
4. 小学校鑑賞教材の理解を深めることが出来る。

講義内容と講義計画

ピアノは、初級者、中級者、上級者に応じて毎時課題を出す。輪唱・合唱の楽しさを味わう。楽典は小学校高学年の指導内容を理解する。

第1回 低学年の音楽活動「ラデツキー行進曲」

第2回 低学年の音楽活動「シンコペティドクロック」

第3回 リコーダーの鑑賞曲

第4回 音の色：管楽器の鑑賞曲 第1回検定

第5回 旋律の重なり

第6回 二重唱

第7回 弦楽器の響き

第8回 ラテン音楽と打楽器 第2回検定

第9回 物語と音楽

第10回 オーケストラの響き

第11回 合唱曲

第12回 日本の伝統音楽

第13回 自然と音楽 第3回検定

第14回 音を創る

第15回 実技発表と相互評価

評価方法

実技発表及び検定 50%、筆記試験 20% 毎回の授業課題 30%を総合する。

使用教材

資料を配布する

授業外学習の内容

ピアノ課題は、毎日練習して授業に臨むこと。

備考

当該科目未履修者は、音楽検定合格を実習要件とする。課題曲は検定1ヶ月前に発表する。

現代教育論 I (幼・保) (専門教養科目)

担当者

保育・教育コース教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

幼児教育や保育活動に関連した専門的な知識や技術は、常に新しい内容が追加されている。また、保育者や教育者は、関連領域の知見を逐次取り入れて、それらと幼児教育や保育の専門知識や技術とを結び付けて活動することが望まれる。本講座では、主として、幼児教育、保育や社会福祉の視点から、今日の教育を取りまく諸問題を扱っていく。

到達目標

- ・主として、幼児教育、保育や社会福祉の視点から、今日の教育を取りまく諸問題について問題意識を持てるようになる。
- ・教育者や保育者を目指すものとしての自覚をより一層高めていく。

講義内容と講義計画

- 第1回 子ども理解と教育活動
- 第2回 保育・教育活動と安全への配慮
- 第3回 生涯学習社会における教育
- 第4回 子どもの権利と教育-
- 第5回 家族と教育
- 第6回 子育て支援と教育の問題
- 第7回 心身の発達過程と教育制度
- 第8回 子どもと学び
- 第9回 教育者や保育者の資質の問題
- 第10回 社会的養護を必要とする子どもたちと教育の問題
- 第11回 特別な支援を必要とする子どもたちと教育の問題
- 第12回 知的発達に遅れのある子どもたちと教育の問題
- 第13回 生活環境と教育の問題1
- 第14回 生活環境と教育の問題2
- 第15回 生活環境と教育の問題3

評価方法

評価は、各回で実施する小テストや課題を総合しておこなう。

使用教材

開講時に指示する。この他に、適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

予習復習を心掛けること

備考

現代教育論 I (小・中) (専門教養科目)

担当者

教員養成コース教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 1単位

講義目標

主に現代教育をめぐる諸問題を、人文・社会・自然との関連で取り上げる。関係する専門の教員複数名が輪番で担当し、それぞれの観点から現代教育の状況や課題等について説く。毎回授業の冒頭に、現代教育に関する学生報告を行う。

到達目標

学校教育に携わる者として有しておくべきと思われる現代教育の新たな動向や諸相を明確に認識するとともに、学生各人が広い一般知識と視野を身につけることができるよう、自覚と興味を抱くことを促す。

講義内容と講義計画

- 第1回 現代教育と文字
- 第2回 現代教育と文学
- 第3回 現代教育と読解・鑑賞
- 第4回 現代教育と倫理
- 第5回 現代教育と英語表現 (英文)
- 第6回 現代教育と英語表現 (会話)
- 第7回 現代教育と英語表現 (文字)
- 第8回 現代教育と音楽
- 第9回 現代教育と美術
- 第10回 現代教育と体育
- 第11回 現代教育と歴史・地理
- 第12回 現代教育と政治・経済
- 第13回 現代教育と数学
- 第14回 現代教育と生物・化学・物理・地学
- 第15回 現代教育と情報リテラシー

評価方法

毎回提出する課題文および授業への貢献度等を総合して評価する。

使用教材

各教員による自作のプリント等

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、配布されたプリントや問題集をしっかりと復習しておくこと。毎時間の報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

現代日本の教育は極めて難しい状況にあります。この授業では、そうした状況を認識するとともに、将来教師となるに必要な一般的知見・問題発見能力・判断力等を養うことをめざします。緊張感を持って授業に臨むよう期待します。

現代教育論Ⅱ（幼・保）（専門教養科目）

担当者

保育・教育コース教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

幼児教育や保育活動に関連した専門的な知識や技術は、常に新しい内容が追加されている。また、保育者や教育者は、関連領域の知見を逐次取り入れて、それらと幼児教育や保育の専門知識や技術とを結び付けて活動することが望まれる。本講座では、現代教育論ⅠAを受けて、実際的な幼児教育や保育場面に関連する今日の教育の諸問題を扱っていく。

到達目標

- ・ 実際的な幼児教育や保育場面に関連する今日の教育を取りまく諸問題について問題意識を持てるようになる。
- ・ 教育者や保育者を目指すものとしての自覚をより一層高めていく。

講義内容と講義計画

- 第1回 子どもの遊びと教育活動1-
- 第2回 子どもの遊びと教育活動2
- 第3回 子どもの遊びと教育活動3
- 第4回 心身の健康づくりと教育1
- 第5回 心身の健康づくりと教育2
- 第6回 心身の健康づくりと教育3
- 第7回 音楽表現活動と教育1
- 第8回 音楽表現活動と教育2
- 第9回 音楽表現活動と教育3
- 第10回 造形表現活動と教育1
- 第11回 造形表現活動と教育2
- 第12回 造形表現活動と教育3
- 第13回 幼児教育活動と地域社会1
- 第14回 幼児教育活動と地域社会2
- 第15回 幼児教育活動と地域社会3

評価方法

評価は、各回で実施する小テストや課題を総合しておこなう。

使用教材

開講時に指示する。この他に、適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

予習復習を心掛けること

備考

現代教育論Ⅱ（小・中）（専門教養科目）

担当者

教員養成コース教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 1単位

講義目標

主に現代教育をめぐる諸問題を、人文・社会・自然・教職との関連で取り上げる。関係する専門の教員複数名が輪番で担当し、それぞれの観点から現代教育の状況や課題等について説く。毎回授業の冒頭に、現代教育に関する学生報告を行う。

到達目標

学校教育に携わる者として有しておくべきと思われる現代教育の新たな動向や諸相を明確に認識するとともに、学生各人が広い一般知識と視野を身につけることができるよう、自覚と興味を抱くことを促す。

講義内容と講義計画

- 第1回 教育の意義・目的
- 第2回 学校教育制度と生涯教育制度
- 第3回 学習指導要領
- 第4回 障害児の理解
- 第5回 特別支援教育
- 第6回 近世・近代西洋教育史
- 第7回 近現代西洋教育史
- 第8回 近世・近代日本教育史
- 第9回 近現代日本教育史
- 第10回 教育心理
- 第11回 発達と学習
- 第12回 憲法・教育基本法・学校教育法
- 第13回 教育行政・教職員等に関する法令
- 第14回 道德教育・特別活動・生徒指導
- 第15回 現代教育と教育時事

評価方法

毎回提出する課題文および授業への貢献度等を総合して評価する。

使用教材

各教員による自作のプリント等

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、配布されたプリントや問題集をしっかり復習しておくこと。毎時間の報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。報告に当たった場合は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

現代日本の教育は極めて難しい状況にあります。この授業では、そうした状況を認識するとともに、将来教師となるに必要な専門的知見・問題発見能力・判断力等を養うことをめざします。緊張感を持って授業に臨むよう期待します。

世界と子ども（専門教養科目）

担当者

世界と子ども担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

学部の専任教員が輪番で、それぞれの専門分野に基づいて子どもと子どもを取り巻く世界について話題を提供し、学生の問題意識と興味を喚起するような授業を行う。毎回、課題文を書いて提出させる。

到達目標

子どもと子どもを取り巻く世界について、保育・教育の各専門分野の視点から考察を加え、学生が子ども・保育・教育に対する関心を高めることを目標とする。この授業を契機として、大学における学生各自の学修の方向性を明確にすることを目指す。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション(森部英生)
- 第2回 文学の中の子どもたち(原 善)
- 第3回 子どもと科学(片山豪)
- 第4回 子どもと数(木幡直樹)
- 第5回 子どもと英語(中村博生)
- 第6回 子どもと音楽(岡本拓子)
- 第7回 子どもと美術(石原綱成)
- 第8回 子どもと運動(山西加織)
- 第9回 子どもと健康(田島貞子)
- 第10回 子どもと生活(今井邦枝)
- 第11回 子どもと家族(千葉千恵美)
- 第12回 子どものこころ(板津裕己)
- 第13回 子どもと人権(新任予定)
- 第14回 乳幼児の保育(富田純喜)
- 第15回 子どもと生命(松田直)

評価方法

毎回提出する課題文及び授業への貢献度を総合して評価する。

使用教材

キストはないが、必要に応じて資料を教員が配布する。

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、配布されたプリント類をしっかり復習しておくこと。また、毎回課されるレポートについては、返却後に読み返し、事後点検すること。

備考

この授業を契機として、子どもと子どもを取り巻く世界・環境について、関心を深め、問題意識を整理してほしい。

特別支援教育入門（専門教養科目）

担当者

松田 直 五十嵐 一徳 村田 美和

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 2単位

講義目標

学生が特別支援教育の概念・システム・専門職に求められること等の骨格について理解すること。

到達目標

学生が就学前の保育における特別支援、就学後の教育における特別支援において求められる基本的知識を修得すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 この授業の目標、進め方、評価の仕方について
- 第2回 特別支援教育とは
- 第3回 特別な支援が必要な子どもとは
- 第4回 就学前の特別支援教育の場と保育者の役割
- 第5回 保護者への対応について
- 第6回 就学前の特別支援教育で大切なこと
- 第7回 義務教育に進む際の手順や配慮について
- 第8回 義務教育段階の特別支援教育の場について
- 第9回 「障害の種別と程度」について
- 第10回 特別支援教育のカリキュラムについて
- 第11回 特別支援教育の内容・方法について
- 第12回 高等部における特別支援教育と卒後の進路について
- 第13回 特別支援教育にかかわる教員の役割について
- 第14回 インクルーシブ教育の理念と日本の現状
- 第15回 まとめ

評価方法

毎回のコメント(30%)と試験(70%)を総合して評価する。

使用教材

教科書「はじめての特別支援教育」(柘植・渡部・二宮・納富)有斐閣、配布資料

授業外学習の内容

新聞、テレビ、インターネット等に出てくる特別支援教育関連のニュースに注目し、理解を深めていくこと。特に、自分ならどうするかということ意識していくこと。教科書や配布資料の予習・復習を確実にすること。

備考

保育原理（保育・教育の原理）

担当者

富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

本講義では、保育の基本的な概念や歴史、理論について学ぶ。また、保育について多角的な視野で考察する力の習得を目指す。世間一般の保育に関する語りは、偏った見方によるものが多い。そこで、現代の保育がどのように成立したのか、なぜ保育が必要なのか、という根本的な問いを検討する。

到達目標

- ①保育の基本的な概念や歴史、理論を理解する。
- ②保育について多角的な視野で考察する力を習得する。
- ③上記の学習を基盤に、自分の言葉で保育について説明ができるようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回 保育原理を学ぶ意義
- 第2回 保育とはなにか① 教育との違い
- 第3回 保育とはなにか② 養護と教育の一体的な営み
- 第4回 子ども観の変遷と社会的背景① 保育の対象となる子どもとは？
- 第5回 子ども観の変遷と社会的背景② 子どもの権利と保育
- 第6回 日本の保育の制度史① 戦前～児童福祉法成立まで
- 第7回 日本の保育の制度史② 戦後保育二元体制の確立
- 第8回 保育所保育指針の基本的な考え方
- 第9回 発達過程に応じた保育とは？
- 第10回 遊びとその援助
- 第11回 環境構成とはなにか
- 第12回 保育計画と記録
- 第13回 保育の思想史① フレーベル、モンテッソーリ
- 第14回 保育の思想史② 倉橋惣三、城戸幡太郎
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート（50%）、授業内課題（30%）、授業参画度（20%）

使用教材

『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）

授業外学習の内容

授業内で扱える内容は限られているため、授業で紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

備考

授業の進行や他の学生の学習を妨げたりする者は受講を認めない。

教育原理（保育・教育の原理）

担当者

内田 祥子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

この科目ではまず、講義を通じて、教育の意義・目的、教育の原理、思想と歴史的変遷を体系的に学び、教育活動の本質についての理解を踏まえる。さらに、実際の教育現場の事例に触れながら、幼児教育の場の特徴や内容について学び、保育者の専門性である。また、こどもの教育の成長を促すためにはこどもとの信頼関係を構築することがいかに大切であるかを学ぶとともに、能力を導き出すという観点から保育者の役割や援助について学ぶ。

到達目標

- ①教育活動の本質を、思想・歴史的変遷から学ぶ
- ②教育活動の内容を踏まえ、計画・評価の方法と意義について学ぶ
- ③幼児期に固有の発達課題にふさわしい教育の制度や援助の仕方について学ぶ
- ④教育者に求められる資質と任務は何かを知る

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育の意義・目的
- 第3回 教育の原理・本質
- 第4回 西洋教育の歴史
- 第5回 日本教育の歴史
- 第6回 西洋教育の思想
- 第7回 日本教育の思想
- 第8回 教育的場の構造的特徴
- 第9回 教育内容の理解
- 第10回 教育計画の意義
- 第11回 教育評価の意義
- 第12回 幼児の発達段階を踏まえた教育
- 第13回 教育環境の意義
- 第14回 幼児の遊び活動の理解
- 第15回 まとめ

評価方法

受講態度・提出物・学期末の試験の結果等を踏まえ総合的に評価する

使用教材

①「幼稚園教育要領解説」②「保育所保育指針解説書」③「幼児教育の原理」（岸井勇雄 他監修 同文書院）

授業外学習の内容

予習復習をしっかりとしておくこと。（定期的に小テスト実施）

備考

教育基礎論 A (保育・教育の原理)

担当者

森部 英生 小西 尚之 松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

本講義は、教育学の基礎的な知識となる、教育の原理、歴史、思想、教育制度、様々な現代的問題や様々な教育実践について学び、教職に携わる者に求められる基礎的な資質の獲得を目指す。特に、近・現代の公教育の歴史を学ぶことや、教育の原点と言われる障害児教育の実践から学ぶこと、さらには教育に関わる様々な事象を社会問題として認識する方法を学ぶことを通して、教育の現代的問題について、歴史や社会構造の観点を含んで考察できる力の獲得を目指す。

到達目標

教職に携わる者に求められる教育学に関する基礎的な知識と、教育実践を行うに必要となる基礎的な資質を身につけること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育の意義・目的・理念
- 第3回 近代西洋教育思想 (ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイ等)
- 第4回 近代日本公教育の成立
- 第5回 現代日本公教育の展開
- 第6回 教育と社会
- 第7回 教育の理論と実践
- 第8回 教育における自由と統制
- 第9回 教職の専門性
- 第10回 教師と児童生徒
- 第11回 教育と職業・進路選択
- 第12回 現代日本の障害児教育
- 第13回 教育の公共性と教師の問題
- 第14回 「能力」の問題
- 第15回 障害児の教育実践から見た教育のあり方

評価方法

学生に対する評価：授業中に行う3回の小テスト (約70%)、授業への参加・貢献度など平常点 (約30%) を総合して評価する。

使用教材

授業担当者の作成資料による。

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、途中で実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

教育に携わろうとする者は、教育に冠する確かで豊富な知識を身につけておくことが最低限要求されます。この授業は、教員になろうとする学生が、それにふさわしい知見を得るためのものです。教職の重要性を十分自覚して授業に参加することを望みます。

教育制度論 A（保育・教育の原理）

担当者

森部 英生 小西 尚之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択必修 2単位

講義目標

わが国の教育制度を的確に理解しておくことは、いずれは学校経営に携わる者として、教師をめざす者にとっては不可欠の事項であるところ、本授業は、明治以来の教育制度の歩みを、主に法制を中心に、現在に至るまでの動きを踏まえながらとらえ、「教育裁判」をも素材に加えながら、この国の教育制度を考え、学校経営のための諸条件を認識させる。

到達目標

教育が法的に制度化されているものであること、・明治初期から教育制度が整えられたこと、・戦後の教育制度の再建と定着、・教育行政の機構と作用、等のテーマのもと、明治以来現在に至るわが国教育制度について学生が理解し、そうした教育制度の中で学校がどのように経営されるかについて自覚を持つことをめざす。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 日本における公教育制度の成立
- 第 3 回 学校制度
- 第 4 回 教員制度
- 第 5 回 中央の教育行政制度
- 第 6 回 地方の教育行政制度
- 第 7 回 教育と法
- 第 8 回 教育を受ける権利の保障
- 第 9 回 教育の政治的中立性
- 第 10 回 教育の宗教的中立性
- 第 11 回 教科書制度
- 第 12 回 社会教育制度
- 第 13 回 世界の学校制度（欧米）
- 第 14 回 世界の学校制度（アジア）
- 第 15 回 教育改革

評価方法

期間中行う 3 回の小テストに約 70%、授業に対する貢献度等に約 30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、途中で実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

学校教育をはじめとする公教育は、法令によってその基盤が整えられており、これはわが国では明治初年に始まる。この授業は、わが国の公教育に関する法制度を概観するもので、種々の法令を扱うが、同時にそれら教育法令をめぐる裁判事件をも紹介するものです。堅苦しくなりがちな法令を、実際に起きた事件との関連で理解しようと思います。この国の学校で何が起きているかを知ろうとする学生諸君は、ぜひどうぞ。

地域教育社会論（保育・教育の原理）

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択必修 2単位

講義目標

幼稚園・小学校・中学校は、子どもの教育を受ける権利を保障する学校であり、地域住民や保護者との社会的な連携協力なしには円滑に教育活動ができない。この点に鑑み、その具体的な連携協力のあり方を、幼稚園・小学校・中学校と地域・保護者との望ましい関係、また、地域住民・保護者から寄せられるさまざまなクレーム、さらにはトラブルにまで発展してしまったケースなどを提示して、その対応と解決を考え、相互のあるべき連携協力関係を実践的に構想できるようにする。

到達目標

地域住民や保護者たちとどのように連携協力していくか、教育にあたる上での基本的事項が理解できることを目標とする。また、幼稚園・小学校・中学校が地域社会の中でどのような制度的位置を占めているかを理解し、地域住民や保護者たちとどのように連携協力していけば活性化するか等につき、地域住民・保護者と幼稚園・小学校・中学校で生じるトラブル事例などを素材にしながら考え、地域社会における教育実践力をつける。

講義内容と講義計画

- 第1回 子どもの教育を受ける権利と学校制度
- 第2回 学校教育・教師と地域社会
- 第3回 学校教育・教師と保護者
- 第4回 障害のある子どもの教育を受ける権利
- 第5回 学校・地域・保護者の連携協力関係 第1回小テスト
- 第6回 学校・教師に対する地域住民・保護者のクレーム
- 第7回 学校・教師と地域住民・保護者との間のトラブル
- 第8回 教育内容・方法をめぐる苦情とその対応
- 第9回 教育環境をめぐる問題
- 第10回 教育評価をめぐる問題 第2回小テスト
- 第11回 入園・入学をめぐる裁判事例
- 第12回 送迎をめぐる裁判事例
- 第13回 教育施設をめぐる裁判事例
- 第14回 プール事故をめぐる裁判事例
- 第15回 保護者・地域の連携協力 第3回小テスト

評価方法

授業中に行う3回の小テストに70%、授業貢献度に30%を配分して総合的に評価する。

使用教材

授業中に資料を配布する

授業外学習の内容

教育・保育の問題やトラブルに関するニュースに目を配り、新聞記事等を収集しておくこと。

備考

交渉術、仲裁のロールプレイがある。意欲的に授業に参加すること。

児童家庭福祉Ⅰ（保育・教育の原理）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷保育との関連性や児童の人権について考え、理解し深めて学ぶ。

到達目標

児童家庭福祉の現状と課題について理解し、今後の児童家庭福祉の動向についても理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 児童福祉の理念と概念歴史的変遷
- 第3回 現代社会の児童福祉と保育について
- 第4回 児童の人権擁護と児童家庭福祉
- 第5回 児童家庭福祉の制度、法体系、財政と実施期間
- 第6回 児童家庭福祉施設について
- 第7回 児童家庭福祉の専門職と支援者について
- 第8回 少子化と子育て支援サービス
- 第9回 母子保健と健全育成
- 第10回 多様な保育ニーズへの対応
- 第11回 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス
- 第12回 社会的養護(要保護児童・障害への対応)
- 第13回 社会的養護(非行への対応、諸外国の動向)
- 第14回 保育・教育・療育・保健・医療等の連携ネットワーク
- 第15回 まとめ

評価方法

授業前の予習、授業への積極的な参加、授業後の感想、試験を総合的に評価する

使用教材

流石智子監修編著 浦田雅夫 知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉 保育出版社 2014 2刷

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返しを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的な授業参加後の感想などを記述し児童家庭福祉について理解を深めてほしい。授業で学んだ内容については復習し理解を更に深めること。次回の授業に向け予習準備をしておくこと

児童家庭福祉Ⅱ（保育・教育の原理）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

児童家庭福祉Ⅰを基盤とした学習内容及び支援方法を更に学び、保育現場にて、具体的な場面で知識を技術を総合的に応用できるようロールプレイや事例検討を行い、問題解決にむけた支援方法の実践力を深める

到達目標

児童家庭福祉Ⅰで学んだ児童家庭福祉の現状と課題を基盤に、具体的な支援方法について理解し、専門職としての関わり、他機関連携、社会資源の活用など地域ネットワークについて理解することができる

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子ども家庭福祉の専門性
- 第3回 専門職の資格と養成
- 第4回 専門職の研修の必要性和あり方
- 第5回 子ども家庭福祉機関における専門職の役割
- 第6回 専門職の役割(医療分野・教育分野・警察関連)
- 第7回 子ども家庭福祉とボランティア NPO 法人、民間団体
- 第8回 子ども家庭福祉に向けたソーシャルワーク実践1(総論)
- 第9回 子ども家庭福祉にむけたソーシャルワーク実践2(個別援助技術)
- 第10回 子ども家庭福祉にむけたソーシャルワーク実践3(集団援助技術)
- 第11回 子ども家庭福祉にむけたソーシャルワーク実践4(地域援助技術)
- 第12回 個別援助技術・集団援助技術事例検討(ロールプレイ)
- 第13回 心理治療・家族療法の面接例(ロールプレイ)
- 第14回 地域子育て支援センターの活動
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への取り組みや毎回の提出する授業後の感想及び試験を総合的に判断する

使用教材

千葉千恵美著「保育ソーシャルワークと子育て支援」久美株式会社 2011

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的な授業参加と実践（ロールプレイや実践）を体験してほしい。また体験後の自らの意見を述べるなど事例検討を深く理解してほしい。特に毎回授業後の感想をまとめるなど、この授業を通じて自分の実践力にしてほしい。授業で学んだ内容については復習し理解を更に深めること。次回の授業に向けて予習し事前に学習準備をしておくこと。

障害者福祉論（保育・教育の原理）

担当者

野田 敦史

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

現代は障害児者の施設や特別支援学校・学級に限らず、小中学校・幼稚園・保育所にも障害をもった子どもが多く在籍しており、障害児者の福祉に関する基礎知識は保育者・教育者には必要かつ重要である。障害者福祉の理念や国内外の歴史、障害の概念や障害者の実態、障害者に関する法律や制度・サービス内容について理解し、必要な体系的知識を身につける。特に身体・知的・精神の3障害と発達障害に関する知識、障害者自立支援法は必須項目である。また、障害者の心理を学ぶ一助として体験型学習も取り入れる。

到達目標

社会福祉全体の中で障害者福祉が占める位置について述べることができ、それを踏まえて障害者福祉の現状と問題点について、要点を説明することができる。また、障害者福祉の現場にかかわりのある各種の専門職の役割について具体的に述べるができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害の概念と障害者の生活実態
- 第3回 障害者福祉思想と支援の歴史
- 第4回 障害者支援の体系
- 第5回 障害者支援サービス
- 第6回 生活環境の改善と所得保障
- 第7回 就労支援
- 第8回 特別支援教育
- 第9回 専門職の役割と関連領域の連携
- 第10回 障害者と社会環境
- 第11回 ブラインドウォーキング、車椅子体験
- 第12回 点字学習
- 第13回 手話学習①
- 第14回 手話学習②
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末試験により総合的に評価する。

使用教材

小澤 温 編「よくわかる障害者福祉」ミネルヴァ書房。その他、適宜プリント配布。ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲（テキスト）を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

社会福祉（保育・教育の原理）

担当者

野田 敦史

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

現代社会における社会福祉の意義と国内外の歴史的変遷について理解し、社会福祉と児童家庭福祉及び児童の人権や家庭支援との関連について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、今後の動向と課題について考える。そのために身近な事例やビデオ教材などを用いて基礎を理解してから諸問題をについて考えていくようにする。ほかに保育所や児童福祉施設などで働く専門職の具体的な支援がわかるビデオも視聴する。

到達目標

社会福祉における主な理念、歴史、法律、制度について概略を述べるができる。また、児童福祉施設における保育士の仕事内容、特に援助の概要について説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 社会福祉の理念①ノーマライゼーション、ニーズ
- 第2回 社会福祉の理念②社会参加、自立
- 第3回 社会福祉の意義と歴史①貧困問題
- 第4回 社会福祉の意義と歴史②平等とは
- 第5回 社会福祉の対象①福祉を利用する人
- 第6回 社会福祉の対象②福祉の実施主体と協同
- 第7回 福祉を支える法律と財政
- 第8回 社会保険と国民の生活
- 第9回 第三者評価と利用者の保護
- 第10回 社会福祉援助技術(個別援助技術)
- 第11回 社会福祉援助技術(集団援助技術)
- 第12回 社会福祉援助技術(地域援助技術)
- 第13回 社会福祉を支える資格
- 第14回 社会福祉の動向
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末試験により総合的に評価する。

使用教材

新保育士養成講座第4巻「社会福祉」全国社会福祉協議会。その他、適宜プリントを配布する。ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲（テキスト）を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

社会的養護（保育・教育の原理）

担当者

野田 敦史

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

社会福祉の授業内容を踏まえて、現代社会における社会的養護の意義や国内外の歴史の変遷について理解する。社会的養護の制度や仕組み、実践体系について学ぶ。また、施設養護の実際について、その原理や社会的養護との関連、施設養護の実際について、テキストのほかに施設の様子わかるビデオを視聴し、理解する。さらに児童家庭福祉との関連性や児童の権利擁護について考える。そのために児童の権利に関する条約などの紹介・解説を行い、身近な事例についても考える。

到達目標

児童福祉施設の種別や役割、児童養護の歴史、施設の形態、里親制度についての概要を説明できる。
児童福祉施設の保育士の1日の流れや役割を詳しく述べるができる。
施設養護の基本原則を挙げて詳しく説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 児童養護の基本的な考え方
- 第3回 児童養護の歴史
- 第4回 児童養護の制度・体系と課題
- 第5回 児童養護の内容とその実践①乳児院
- 第6回 児童養護の内容とその実践②児童養護施設
- 第7回 児童養護の内容とその実践③児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設
- 第8回 児童養護の内容とその実践④障害児入所施設
- 第9回 家庭養護のあり方（里親・ファミリーホーム）
- 第10回 日常生活援助と社会福祉援助技術
- 第11回 職員研修・養成のあり方
- 第12回 施設運営・管理上の課題①
- 第13回 施設運営・管理上の課題②
- 第14回 地域福祉と施設養護・家庭養護
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末試験により総合的に評価する。

使用教材

新保育士養成講座第5巻「社会的養護」全国社会福祉協議会。その他、適宜プリントを配布する。ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲（テキスト）を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

子どもの保健 I (保育・教育の原理)

担当者

田島 貞子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

子どもの心身の健康増進を図ることは、保育活動において最も重要である。子どもの成長・発達及び生理機能を学ぶと共に、子どもの健康状態を把握できるようにしていく。また、子どもに多い疾患、特に感染症とその予防方法について学ぶ。

到達目標

1. 児童の成長、発達の状況を確認することができる。
2. 子どもに流行しやすい感染症について、その感染経路・潜伏期間・症状・出席停止の基準・予防方法等を説明できる。
3. 子どもの健康状態を把握する方策を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの保健の意義
- 第3回 子どもの健康とは(健康観察の重要性)
- 第4回 子どもに多い感染症とその予防(1)
- 第5回 子どもに多い感染症とその予防(2)
- 第6回 予防接種の意義
- 第7回 子どもの身体発育と保健
- 第8回 子どもの生理機能の発達と保健
- 第9回 子どもの運動機能の発達と保健
- 第10回 子どもの精神機能の発達と保健
- 第11回 ビデオで学ぶ健康な乳幼児の発育
- 第12回 症状とその対応
- 第13回 自分自身のからだを知ろう「自分と相手を大切にすると?」(ビデオで学ぶ)
- 第14回 保育所保育指針第5章「健康及び安全」
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験(90%)と毎回の授業終了時に提出するまとめ及び質問・感想等(10%)を総合して評価する。

使用教材

「保育保健の基礎知識」監修：巷野悟郎編集：日本保育園保健協議会日本小児医事出版社、「保育所保育指針解説書」厚生労働省編フレーベル館、「子どもの保健と支援」平山宗宏編日本小児医事出版社、その他必要により、資料配布する。

授業外学習の内容

第1回に配布する授業計画に記載されている教科書の該当する項目を事前に読んでおくこと。

備考

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

子どもの保健Ⅱ（保育・教育の原理）

担当者

田島 貞子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

幼稚園及び児童福祉施設等での子どもの健康管理の重要性を理解し、現場における実践的活動の基礎を学び、保育に生かすことを目指す。

子どもの精神保健についての重要性を理解する。また、保育環境の整備や事故防止対策について学ぶ。

地域の母子保健活動にはどのようなものがあるかを学ぶと共に、保育者自身の健康づくりを学び、実践できるようにする。

到達目標

1. 子どもに多い疾患についてその症状とその対処の仕方を実践できるようにする。
2. その地域の保健活動情報を保護者に伝えることができる。
3. 自分自身の健康管理として、健康診断等を積極的に受け、心身ともに健康な状態で保育に携わることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの疾患の基礎知識(アレルギー性疾患、けいれん等)
- 第3回 子どもの疾患の基礎知識(小児がん、心臓病、川崎病等)
- 第4回 子どもの疾患の基礎知識(低体重児、脳性まひ、先天性疾患等)
- 第5回 子どもの疾患の基礎知識(消化器系疾患、視聴覚関連の疾患等)
- 第6回 子どもの精神保健(1)
- 第7回 子どもの精神保健(2)
- 第8回 疾患を持っている子ども達への支援
- 第9回 保育環境整備と保健
- 第10回 保育現場における事故予防と安全対策及び危機管理
- 第11回 わが国の母子保健対策と地域との連携
- 第12回 これからの健康づくり
- 第13回 心身の健康を目指して
- 第14回 最近のこどもの保健をめぐる話題
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験(90%)と毎回の授業終了時に提出する授業のまとめ及び質問・感想等(10%)を総合して評価する。

使用教材

「保育保健の基礎知識」監修：巷野悟郎編集：日本保育園保健協議会日本小児医事出版社、「保育所保育指針解説書」厚生労働省編フレーベル館
必要により資料を配布する。

授業外学習の内容

第1回に配布する授業計画に記載されている教科書の該当する項目を事前に読んでおくこと。

子どもの保健に関する情報（新聞、テレビ等）に関心を持ち、情報収集すること。

備考

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

子どもの保健Ⅲ（保育・教育の原理）

担当者

田島 貞子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。子どもにとっての健康増進とは何か。生活習慣と心身の健康との関係について理解する。また、体調不良や傷害が発生した場合の適切な対応方法について、理解し実践できるようにする。

到達目標

1. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。
2. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。
3. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的な方策を学び、実践できるようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育所保育指針第5章健康と安全
- 第3回 子どもの発育を知る（身体計測と評価、体温・呼吸測定等）
- 第4回 子どもの衣服の着脱とおむつ交換
- 第5回 子どもの身体の清潔（沐浴の実習）
- 第6回 救急処置及び蘇生法
- 第7回 事故防止及び健康安全管理(1)
- 第8回 事故防止及び健康安全管理(2)
- 第9回 保健活動の計画及び評価(1)
- 第10回 保健活動の計画及び評価(2)
- 第11回 子どもの疾病とその処置及び予防方法(1)
- 第12回 子どもの疾病とその処置及び予防方法(2)
- 第13回 これからの健康づくり
- 第14回 心とからだの健康づくりと地域保健活動
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験(50%)と提出物(30%)授業態度、毎回の授業終了時に提出する授業のまとめ及び質問・感想等(20%)を総合して評価する。

使用教材

「改訂子どもの保健演習ガイド」高内正子編著 建帛社 2,200円+税。必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

第1回に配布する授業計画に記載されている教科書の該当する項目を事前に読んでおくこと。
新聞等で子どもの保健に関する記事を読むこと。

備考

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

教育心理学（保育・教育の原理）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 必修 2単位

講義目標

人が社会生活を営んでいくためには、学ぶよろこびや知る楽しみの経験を通して、自分自身で問題解決できる能力が求められる。このような能力を育てていくために、そして、人間関係能力の育成を促進するために教育心理学領域などで見いだされた研究成果を学ぶ。

到達目標

- ・ 幼児、児童や生徒にとって経験することが大切な学習の機会であることを理解できるようになる。
- ・ 「学習」は楽しい経験であることを、学生自身が理解できるようになる。子どもたちに伝えられるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 心理学と教育心理学
- 第2回 人間について
- 第3回 子ども観、教育観、保育観を持つこと
- 第4回 学ぶということ
- 第5回 学習意欲と動機づけ
- 第6回 思考と記憶
- 第7回 知識と学習、問題解決
- 第8回 教授学習の理論
- 第9回 学習と人間関係
- 第10回 共感性
- 第11回 パーソナリティと適応
- 第12回 特別支援
- 第13回 学校教育での評価1
- 第14回 学校教育での評価2
 - 1)教育における評価することの意味と目的/ 2)幼児の評価/ 3)児童や生徒の評価
- 第15回 まとめ 1)教育場面における評価倫理/ 2)カリキュラム

評価方法

評価は、個人ワーク課題の提出状況及び期末試験を総合しておこなう。

使用教材

テキストは使用しない。授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

常に予習復習を心掛けること。また、適時、個人ワークやレポートなどの加害課題を与えるので、真剣に取り組むこと。

備考

発達心理学（保育・教育の原理）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

保育者は、子どもたちがその可能性を発揮し、安心して自分を活かしていく環境を構成していくためには、子どもたちの発達の過程をしっかりと学んでいく必要がある。本演習では、乳幼児期の発達過程を概観するとともに、これと保育実践との結びつきについて考えていく。

到達目標

- ・乳幼児期の発達過程や主要な発達理論の概要について理解できるようになる。
- ・乳幼児の発達過程理解が保育実践にどのように生かされているのかについて問題意識をもって学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション -子どもを知ること、子どもの権利-
- 第2回 心理学から見る子ども
- 第3回 からだの発達
- 第4回 感情の発達
- 第5回 言葉とコミュニケーションの発達
- 第6回 自分自身のとらえ方の発達
- 第7回 社会性の発達
- 第8回 ピアジェの認知発達理論と社会構成的発達理論
- 第9回 乳幼児と養育者との関係
- 第10回 発達障害児の保育
- 第11回 個人差や発達過程に応じた保育
- 第12回 子どもの発達と保育環境
- 第13回 保護者の保育者観や期待
- 第14回 乳幼児保育の実践事例検討
- 第15回 まとめ

評価方法

評価は、個人ワーク課題及び期末試験などを総合しておこなう。

使用教材

加藤紀子（編著）保育の心理学1 大学図書出版。このほかに、適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

常に予習復習を心掛けること。また、適時、個人ワークやレポートなどの加害課題を与えるので、真剣に取り組むこと。

備考

乳幼児心理学（保育・教育の原理）

担当者

富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

本講義では、乳幼児期の各年齢における一般的な発達の特徴について学ぶ。そのうえで、保育実践と関連づけながら現状と課題について考察する。

到達目標

- ①0歳から6歳までの一般的な発達について理解する。
- ②一般的な発達の特徴と保育実践の現状と課題について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 乳幼児心理学を学ぶ意義
- 第2回 発達初期の「こころ」の理解
- 第3回 乳幼児理解と保育実践の評価
- 第4回 身体・運動の発達
- 第5回 知覚・認知の発達
- 第6回 感情の発達
- 第7回 言語の発達
- 第8回 社会性の発達
- 第9回 親子相互作用とアタッチメント
- 第10回 対人関係の成り立ちと道徳性
- 第11回 基本的生活習慣の獲得
- 第12回 子どもの遊びと発達
- 第13回 発達の地図
- 第14回 気になる子どもへの対応
- 第15回 まとめ

評価方法

試験（60%）、授業参画度（40%）

使用教材

河合優年・中野茂（編）『保育の心理学』ミネルヴァ書房、2013年

授業外学習の内容

指定したテキストを事前に読んでおくこと。また、授業で扱える内容は限られているためテキスト、参考文献を使って理解を深めること。

備考

授業の進行や他の学生の学習を妨げたりする者は受講を認めない。

臨床心理学（保育・教育の原理）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

本科目においては、諸個人の心の理解とその援助についての説明をおこない、それらを可能な限り体験的に学ぶ。まず、「心の理解」であるが、「心」を取り出して直接に観察することはできない。そこで、人間の種々の行動から解釈することによって理解せざるを得ないために、人間の心に迫る、この種の方法を学ぶ必要がある。これらの幾つかの方法を実際に受講者自らが体験しながら学べるように配慮する。これらの体験に基づきながら、種々の心の状態を推測していきながら、心理的な諸問題を抱えて生きる他者への援助についても学ぶ。

到達目標

多様な状況に置かれた諸個人が抱える内面の問題を理解し、その個人に対して援助ができるための専門的知識を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 臨床心理学の基礎(1):臨床心理学の成立
- 第3回 臨床心理学の基礎(2):臨床心理学の基本的なものの見方
- 第4回 心の理解の方法(1):観察
- 第5回 心の理解の方法(2):心理検査
- 第6回 心の理解の方法(3):面接
- 第7回 現代社会におけるカウンセリング
- 第8回 心理臨床のフィールド
- 第9回 問題を抱えながら生きるということ(1):事故・災害
- 第10回 問題を抱えながら生きるということ(2):学校・職場
- 第11回 問題を抱えながら生きるということ(3):家庭
- 第12回 問題を抱えながら生きるということへの援助(1):国外の方法
- 第13回 問題を抱えながら生きるということへの援助(2):国内の方法
- 第14回 臨床心理学と性の問題
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

川瀬正裕ほか「心とかかわる臨床心理 [第3版]」ナカニシヤ出版 2015年 2,200円+税

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。

遊びの指導（保育・教育の原理）

担当者

内田 祥子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

幼児教育の原理を踏まえ、遊びによる総合的な指導と教師の役割について理解できるようにする。

到達目標

- ・遊びによる総合的な指導について理解し説明ができる
- ・遊びにおける教師の役割について理解し説明ができる
- ・遊びごとの特徴を踏まえ指導のポイントについて説明できる
- ・幼児の発達特性を踏まえ指導のポイントについて説明できる

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼児教育の原理：遊びとは何か
- 第3回 幼児教育の原理：生活と遊び
- 第4回 幼児教育の原理：総合的な指導とは何か
- 第5回 教師の役割：心のよりどころとしての保育者
- 第6回 教師の役割：遊びの援助者としての保育者
- 第7回 遊びの指導と発達：3歳児
- 第8回 遊びの指導と発達：4歳児
- 第9回 遊びの指導と発達：5歳児
- 第10回 ごっこ遊びの指導
- 第11回 ルール遊びの指導
- 第12回 砂遊びの指導
- 第13回 表現活動の指導
- 第14回 現代の幼児の遊びをめぐる状況と課題
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度・提出物・課題への取り組み・試験等を総合的に評価する

使用教材

テキスト：幼稚園教育要領解説

参考：「遊び保育論」小川博久 萌文書林 「遊びを中心とした保育」川邊貴子 萌文書林

授業外学習の内容

予習復習をしっかりと行い授業に臨むこと

備考

保育者論（保育・教育の原理）

担当者

高梨 瑠子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

幼稚園や保育所（園）で保育に携わる保育者の役割を知り、その在り方が乳幼児の人格形成の基盤をつくる上で重要であることを学ぶ。

到達目標

- 保育者の仕事と役割について理解をする。
- 保育者の専門性とは何か、職業人としての保育者に求められるものは何かを知る。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス 15回の学習の見通しをもつ
- 第2回 保育者の役割～保育者の1日～
- 第3回 保育者の役割～免許・資格、倫理観～
- 第4回 保育者の専門性～子どもに寄り添える保育者～
- 第5回 保育者の専門性～環境を構成する力～
- 第6回 保育者の専門性～遊びの意味～
- 第7回 専門性を高める保育研究
- 第8回 計画・実践・評価の意味と実際
- 第9回 組織の一員としての意識と協働～自分の役割～
- 第10回 組織の一員としての意識と協働～保護者との関係づくり～
- 第11回 様々な課題～特別な支援を要する子どもとともに～
- 第12回 様々な課題～小学校教育へのつなぎ～
- 第13回 保育者に求められる資質～ライフステージに応じた役割～
- 第14回 保育者に求められる資質～これからの自分～
- 第15回 まとめ（レポート作成・提出）

評価方法

- 授業参加の姿勢（積極性・発言・提出物の期限厳守など）
- 提出物の充実度（最終レポート50% 小テスト30%、授業参加の姿勢20%）
- 講義初回に詳しく説明をする。

使用教材

- 「保育者論」 岡上直子・高梨瑠子編著 光生館 2012年初版 1900円＋税
第1回のガイダンスで、講義計画に沿っての教科書の使用について説明をする。
- その他、必要に応じてプリント等を配布

授業外学習の内容

- 不定期に小テストを行うので復習と自分の思考の深化に努める。
- 専門用語について各自ノートを作成し、収録していくことを課題とする。第1回のガイダンスで説明をする。

備考

特になし

教師論 A (保育・教育の原理)

担当者

森部 英生 吉田 恵子 小西 尚之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校・中学校及び特別支援学校における教職の意義と役割を学ぶ。さらに、さまざまな課題が山積しうる教育現場の現状に鑑み、学校教育における教師のあり方や求められる教師像について、歴史的及び実践的に考察する。さらに、学生が授業を通して自らの適性を考え、将来に対する展望を持つべく、進路選択の機会を提供する。

到達目標

教師の社会的責任や教師の任務・職務及び教師としての生き方を考え、いかにして教師の力量及び人間性を高めて子どもたちに接していくべきかを、学生自ら主体的に学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 近代学校の成立と教師
- 第3回 教職の意義と教員の役割
- 第4回 教師の種類・職務・倫理、教師像
- 第5回 教員のサービスと身分保障
- 第6回 教師と教育方法・技術
- 第7回 小学校と教師 戦前・戦後の教育実践
- 第8回 中学校と教師 戦前・戦後の教育実践
- 第9回 教員免許と資格・研修
- 第10回 専門職としての教師
- 第11回 学校運営:校務分掌、生徒指導など
- 第12回 学校運営:特別支援教育、安全教育、健康指導など
- 第13回 教員の資質・適格性
- 第14回 教師をめぐるトラブル
- 第15回 教職への展望・課題

評価方法

授業中に行う小テストに約70%、授業貢献度に約30%を配分して総合的に評価する。

使用教材

資料を配布

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、途中で実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

学校教育において決定的に重要な役割を果たす教師のあり方について学びます。現代日本の教育の厳しさを十分自覚して、緊張感を持って授業に臨んで下さるよう希望します。

青年心理学（保育・教育の原理）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

昨今の青少年たちに生じる諸問題などを通して、こころが「大人・おとな」になることとはどのようなことなのかを、参加学生とともに考えていく。さらに、上記の問題について考えていくことで、履修学生が真の意味での「大人・おとな」になる総仕上げをしてほしい。

到達目標

- ・生涯発達の視点から青年期の位置づけを理解できるようになる。
- ・青年期に生じやすい心理身体的諸問題に対して問題意識を持てるようになる。
- ・青年期の発達課題を自分自身の問題として考えられるようになる。

講義内容と講義計画

I 発達過程と青年期

- 第1回 オリエンテーション、発達過程の復習
- 第2回 児童期
- 第3回 青年期の課題、思春期・青年期と自己、アイデンティティの問題
- 第4回 人間関係の拡大 ―注意したい人との係わり―
- 第5回 青年期の心理身体的問題の概観

II 青年期に係わる諸問題

- 第6回 いじめの問題
- 第7回 不登校・学校不適應やスチューデント・アパシー
- 第8回 非行・反社会的行動
- 第9回 引きこもりや家庭内暴力
- 第10回 情報化社会やメディアが青少年におよぼす影響
- 第11回 青年期と身体意識
- 第12回 青年期といのちの問題
- 第13回 学校不適應や社会不適應傾向にある人たちなどの自立支援
- 第14回 20代頃までに考えておきたいこと、やっておきたいこと
- 第15回 青年期以降の身体・こころ・社会性の発達、まとめ

評価方法

評価は、個人ワークなどの提出状況および期末試験などを総合しておこなう。

使用教材

テキストは使用しない。授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

日頃から、青年期に生じそうな諸問題に関心を持ち、自分なりに問題の所在や改善策を考えるようにすること。

備考

グループワークなどで得た情報のプライバシー保持をすること。

こころの健康（保育・教育の原理）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

社会では、多くの人が支えあい協力し合って生活している。本講義では、将来、責任ある社会人として活動していくために、自分自身を見つめなおし、自分の周囲にいる人の気持ちを察知して、適切な対応が取れるような自己学習やグループ学習をおこなう。

到達目標

- ・こころの健康の大切さを自覚できるようになる。
- ・セルフマネジメント能力を向上させる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション -こころの健康とは-
- 第2回 こころの健康の要件
- 第3階 人間らしいこころの働き1 -適応、自己実現の欲求-
- 第4回 人間らしいこころの働き2 -適応に関わるこころの働き-
- 第5回 人間関係とこころの健康
- 第6回 ストレス
- 第7回 ストレス・マネジメント
- 第8回 より良い人間関係をつくっていく方法
- 第9回 健康なパーソナリティ像
- 第10回 自己受容の心理学1 -自己受容の発達過程-
- 第11回 自己受容の心理学2 -自己受容している人の行動特徴-
- 第12回 学校や施設での生活とこころの健康
- 第13回 こころの健康を促進させる教育活動
- 第14回 大人の発達障害
- 第15回 「生きること」と「死」についての教育

評価方法

評価は、個人ワークやグループワーク課題の提出状況および期末試験などを総合しておこなう。

使用教材

拙著 こころの健康の基礎理解 教育新聞社 2007、授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

人間（自分自身や周囲にいる人など）に関心を持つようにすること。

備考

グループワークなどで得た情報のプライバシー保持をすること。

保育内容総論（保育・教育の内容）

担当者

今井 麻美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

保育内容の全体構造を学び、保育内容5領域を保育実践に即して総合的に捉える視点を身に付ける。

到達目標

- ・保育内容5領域を総合的に捉える視点が持てる。
- ・保育内容5領域を総合的に展開する保育実践について考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション：授業の概要と進め方
- 第2回 保育内容とは何か
- 第3回 子ども理解から始まる保育内容①（遊びを通した子どもの心情の理解）
- 第4回 子ども理解から始まる保育内容②（子どもの心情に即した保育内容の展開）
- 第5回 保育内容のねらいと内容（心情・意欲・態度とは）
- 第6回 保育内容5領域の総合的な理解（領域とは）
- 第7回 保育実践にみる5領域①（遊びの場面から）
- 第8回 保育実践にみる5領域②（グループディスカッション）
- 第9回 保育実践にみる5領域③（遊び以外の場面から）
- 第10回 保育実践にみる5領域④（グループディスカッション）
- 第11回 子どもの発達過程に応じた保育内容の展開（3歳未満児の保育実践から）
- 第12回 子どもの発達過程に応じた保育内容の展開（3歳以上児の保育実践から）
- 第13回 保育内容と保育者の専門性
- 第14回 保育内容の歴史的変遷
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、課題への取り組み、学期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、そのほかは適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

教科書の指定箇所を事前に読んでおく。

備考

なし

保育内容健康（保育・教育の内容）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

子どもの健康、発育発達について理解を深め、子どもに必要な体験とは何かを学ぶ。また、園生活をとおして子どもたちが心と体の健康を培っていくために、保育者はどのような役割を果たし援助していけばよいのかを考えていく。

到達目標

領域「健康」のねらい及び内容を理解することができる。
乳幼児期の発達を知り、保育者の具体的な援助と関連付けることができる。
子どもの健康をめぐる現代的課題に関心をもち、その背景と改善策を説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 子どもの健康とは
- 第2回 領域「健康」のねらいと内容
- 第3回 乳幼児期の身体の発達
- 第4回 乳幼児期の運動発達
- 第5回 子どもの運動能力
- 第6回 健康な生活習慣の形成
- 第7回 子どもの安全への配慮
- 第8回 子どもの健康をめぐる現代的課題
- 第9回 領域「健康」と保育の実際 (1)運動遊びの指導のポイント
- 第10回 領域「健康」と保育の実際 (2)0～2歳児の生活・遊び
- 第11回 領域「健康」と保育の実際 (3)3歳児の遊び(指導案作成と模擬授業)
- 第12回 領域「健康」と保育の実際 (4)4歳児の遊び(指導案作成と模擬授業)
- 第13回 領域「健康」と保育の実際 (5)5歳児の遊び(指導案作成と模擬授業)
- 第14回 領域「健康」における保育者の役割
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加度 20%、グループワークや発表への貢献度 10%、課題 10%、筆記試験 60%

使用教材

「新版保育内容健康」宮下恭子編著、大学図書出版

授業外学習の内容

教科書の領域「健康」のねらいと内容を事前に読んでおくこと。授業内容に関して、適宜確認テストを実施するので、復習しておくこと。

備考

保育内容人間関係（保育・教育の内容）

担当者

内田 祥子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

乳幼児期における対人関係の発達について理解し、子どもの実態に即した保育内容について考えを深める。また、保育内容「人間関係」のねらいおよび内容について理解し、保育者の役割や指導のあり方について学ぶ。

到達目標

- ①乳幼児の様々な場面において「人とのかかわり」の育ちについて理解を深めることができる。
- ②具体的な援助について、自分なりの考えや思いをもつことができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保育内容と領域「人間関係」
- 第2回 乳幼児期の発達と領域「人間関係」
- 第3回 領域「人間関係」のねらいと内容
- 第4回 人とのかかわりの発達①乳児期
- 第5回 人とのかかわりの発達②幼児期前期
- 第6回 人とのかかわりの発達③幼児期後期(指導案の作成と模擬授業)
- 第7回 遊びの中で育つ人とのかかわり①乳児期
- 第8回 遊びの中で育つ人とのかかわり②幼児期
- 第9回 生活を通して育つ人とのかかわり①乳児期
- 第10回 生活を通して育つ人とのかかわり②幼児期
- 第11回 個と集団の育ち①幼児期前期
- 第12回 個と集団の育ち②幼児期後期(指導案の作成と模擬授業)
- 第13回 人とのかかわりを育てる保育者の役割①環境構成
- 第14回 人とのかかわりを育てる保育者の役割②直接的援助と間接的援助(指導案の作成と模擬授業)
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、課題への取り組み方、試験を総合的に評価する。

使用教材

「演習 保育内容人間関係」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」

授業外学習の内容

前回の授業内容を振り返り、予習をして次の授業にのぞむこと。

備考

保育内容環境（保育・教育の内容）

担当者

高梨 珪子 今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

保育における「環境」の意味を理解し、その内容や保育における方法を多角的に学びながら、実際に保育者として環境を構成でき、そこで展開する保育の実際を講義・演習を通して具体的に学ぶ。

到達目標

保育内容『環境』を中心に、「環境を通して行う教育」の意味とその実践者としての様々な内容や方法を学び、保育者としての資質を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、保育内容「環境」とは
- 第2回 「幼稚園教育要領」の中の「環境」を読む
- 第3回 事例で考える
- 第4回 子どもの遊びについて考える
- 第5回 子どもにとっての環境としての様々な内容を理解する
- 第6回 環境としての「もの」について考える
- 第7回 環境としての「自然」について考える
- 第8回 環境としての「地域・社会」について考える
- 第9回 環境としての「文化(財)」について考える
- 第10回 環境としての「状況・情報」について考える
- 第11回 環境としての「ひと」について考える
- 第12回 環境を通して保育を進める保育者の役割を知る(指導案の作成と模擬授業)
- 第13回 環境を構成し保育の計画を立てる(指導案の作成と模擬授業)
- 第14回 グループ協議で深める(指導案の作成と模擬授業)
- 第15回 前時の全体化とまとめをする

評価方法

授業への取り組み全てが評価される。(発表、試験、取り組み)

使用教材

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

授業外学習の内容

毎回授業の終わりに次回の授業内容を説明するので、事前に教材を読んでおくこと。毎回授業の初めに前回の内容の確認をするので、事後に復習すること。身近な植物や昆虫・幼児のあそび等に興味関心を持って欲しい。

備考

保育内容言葉（保育・教育の内容）

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

言葉とは、子どもの発達全般の全てに影響し、特に人間関係を作るコミュニケーションツールとして重要なものであること等を理解する。また、保育における領域「言葉」において、生活や遊びを通して指導していくという基本的な考えを理解する。そして、保育者として言葉を援助していく時に必要な基礎的な知識と指導法を身に付ける。

到達目標

- ・乳幼児期の言葉の発達について学び、保育におけるコミュニケーション力の育ちを理解する。
- ・遊びや生活場面の具体的な事例を通して、保育者の役割や援助の方法を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 幼児教育の基本と領域「言葉」
- 第2回 乳幼児期の発達と言葉の発達
- 第3回 言葉の機能と言葉の発達
- 第4回 保育者の役割と援助
- 第5回 乳児の言葉を育てる環境
- 第6回 話し言葉を育てる環境
- 第7回 書き言葉(文字)への興味や関心を育てる環境
- 第8回 コミュニケーションとしての言葉の役割
- 第9回 言葉の指導における小学校教育との関連
- 第10回 指導計画について
- 第11回 指導計画案作成①…ことば遊びに関する指導計画案
- 第12回 指導案の検討Ⅰ…ねらい・内容について
- 第13回 指導案の検討Ⅱ…教材について
- 第14回 指導案の検討Ⅲ…援助について
- 第15回 指導計画案作成②…見直し、まとめ

評価方法

試験 50%、課題 40%、平常点 10%

使用教材

「事例で学ぶ保育内容領域言葉」無藤隆監修 高濱裕子編（萌文書林）

授業外学習の内容

・第1回の授業で15回の全体の学習計画を把握したうえで、「保育内容言葉」に関する自己課題を設定して、授業と並行しながら自分自分でそれを追及し、最終的にレポート作成をします。

備考

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」を使用するので準備しておくこと。

保育内容表現（保育・教育の内容）

担当者

岡本 拓子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

- ①領域「表現」のねらいおよび内容について理解する。
- ②実践事例を通して、子どもの表現過程について読み取りができるようにする。
- ③子どもの表現を育むための環境構成や援助について具体的に学ぶ。

到達目標

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするという保育内容「表現」の本質、および保育におけるさまざまな活動の場での子どもの表現方法についての基礎知識を深めながら、その理解と援助の方法について具体的・実践的に学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 保育の基本と領域「表現」について
- 第2回 他の領域と領域「表現」との関係について
- 第3回 保育内容「表現」の歴史の変遷について
- 第4回 豊かな感性と表現を育むための環境について
- 第5回 諸感覚を通しての感性と表現(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)
- 第6回 生命に対する感性と表現
- 第7回 事例を通して考える①音・音楽に対する感性と表現
- 第8回 事例を通して考える②造形に対する感性と表現
- 第9回 事例を通して考える③身体と表現
- 第10回 事例を通して考える④言葉と表現
- 第11回 園環境が育む感性と表現①時間・空間(指導案の作成と模擬保育)
- 第12回 園環境が育む感性と表現②人・モノ(指導案の作成と模擬保育)
- 第13回 子どもの感性と表現を育むための保育者の役割①環境構成のあり方(指導案の作成と模擬保育)
- 第14回 子どもの感性と表現を育むための保育者の役割②援助のあり方(指導案の作成と模擬保育)
- 第15回 まとめ-保育内容表現の課題

評価方法

課題への取り組みと期末試験により総合的に評価する。

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

毎時課題を課すので、個人あるいはグループで取り組むこと。

備考

受講にあたっては、毎時課される課題を必ず行うこと。

子どもの食と栄養 I (保育・教育の内容)

担当者

阿部 雅子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

子どもの発育発達と栄養との関係及び食品の種類と成分特性などについて、理解を深める。また、子どもの食生活に関する様々な要因について整理しながら、食育基本法の趣旨や食に関する家庭・地域・教育機関等との連携について論じ理解を深める。

到達目標

子どもの健全な育成には食生活が深く関わっている。食育基本法の趣旨を理解し、乳児期、幼児期、学童期、思春期における適切な食生活と食教育について基本的知識を習得することで、子どもの指導者として食に関しても保護者の育児を支援できる力を養う。具体的な到達目標を以下に示す。

- ・栄養素の機能と代謝について理解し、食育に取り入れることができる。
- ・小児期の食生活における特徴について、ステージごとに説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 子どもの健康と食生活の意義
- 第2回 子どもの発育・発達と栄養状態の評価
- 第3回 栄養に関する基本的知識(1)(栄養素の種類と機能)
- 第4回 栄養に関する基本的知識(2)(食事摂取基準、食事構成、献立作成)
- 第5回 栄養に関する基本的知識(3)(食品の成分と機能・調理の基本)
- 第6回 妊婦・授乳婦の栄養
- 第7回 乳児期の栄養(母乳栄養)
- 第8回 乳児期の栄養(人工栄養)
- 第9回 離乳期の栄養
- 第10回 幼児期の栄養
- 第11回 学童期・思春期の栄養
- 第12回 食育の基本と内容
- 第13回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
- 第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1)(食物アレルギー)
- 第15回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2)(障がいがある子どもへの対応)

評価方法

筆記試験

使用教材

堤ちはる編『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』(萌文書林)

授業外学習の内容

- ・指定した教科書の章を毎授業前によく読んでおくこと。
- ・授業時に理解度を確認するための小テストを実施するので、授業終了後復習をしておくこと。

備考

担当者メールアドレス:mabe@takasaki-u.ac.jp

子どもの食と栄養Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

阿部 雅子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

子どもの身体発育と精神的特長を理解した上で、保育者が実生活や保育の場面で展開できるような、子どもの発達段階に適した食品の調理方法や調理技術を実践とともに養う。また食育の事例などを取り上げ、食生活の面からも保護者を援助・指導する手法について検討する。

到達目標

食育基本法の趣旨を理解した上で、指導者として必要な乳児期、幼児期、学童期、思春期における適切な食品の調理方法や調理技術を身につける。また教育要領に基づく食育のための指導計画の立て方、実践の手法、評価方法などを学び実践力を身につける。具体的な目標を以下に示す。

- ・基本的な調理作業が一人で行える。
- ・無菌操作法による調乳ができる。
- ・衛生的な方法で離乳食を作ることができる。
- ・乳児期、幼児期、学童期の一食分の適量が分かる。

講義内容と講義計画

- 第1回 献立作成と栄養価計算方法①(献立作成)
- 第2回 // ②(栄養価計算)
- 第3回 成人女子及び妊娠期の食事①(実習)
- 第4回 // ②(演習)
- 第5回 調乳・離乳期の食事①(実習)
- 第6回 // ②(演習)
- 第7回 幼児期の間食①(実習)
- 第8回 // ②(演習)
- 第9回 幼児期の弁当①(実習)
- 第10回 // ②(演習)
- 第11回 保育所給食①(実習)
- 第12回 // ②(演習)
- 第13回 食育の計画と評価①(指導計画)
- 第14回 // ②(実践と評価)
- 第15回 総括

評価方法

レポートによる評価

使用教材

随時プリントを配布

授業外学習の内容

日常生活の中で調理する機会を積極的に設け、調理に慣れておくこと。

備考

担当者メールアドレス:mabe@takasaki-u.ac.jp

乳児保育 I (保育・教育の内容)

担当者

今井 麻美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

1. 乳児の発達を知り、発達に即した生活や遊びについて理解を深める。
2. 発達に即した保育環境やその安全性について理解する。

到達目標

乳児の発達をふまえ、発達に即した生活や遊びについて考えることができる

講義内容と講義計画

- 第1回 乳児保育の基本
- 第2回 乳児保育の必要性と意義
- 第3回 0歳児の発達と保育①
- 第4回 0歳児の発達と保育②
- 第5回 0歳児の発達と保育③
- 第6回 1歳児の発達と保育①
- 第7回 1歳児の発達と保育②
- 第8回 2歳児の発達と保育①
- 第9回 2歳児の発達と保育②
- 第10回 乳児の生活と遊び①
- 第11回 乳児の生活と遊び②
- 第12回 乳児期の食事
- 第13回 排泄と睡眠
- 第14回 自立への欲求
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、試験の結果を総合的に評価する。

使用教材

なし

授業外学習の内容

予習・復習をすること。特に、発達について理解を深めておくこと。

備考

乳児保育Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

今井 麻美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

1. 低年齢児との望ましいかかわり方について考える。
2. 低年齢児における集団保育について、実践方法を知る。

到達目標

低年齢児における仲間との関わりをつなぐ援助について理解を深めることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 子ども同士のかかわり①
- 第2回 子ども同士のかかわり②
- 第3回 子ども同士のかかわり③
- 第4回 教材研究①
- 第5回 教材研究②
- 第6回 保育計画・指導計画作成の実際①
- 第7回 保育計画・指導計画作成の実際②
- 第8回 保育の記録①
- 第9回 保育の記録②
- 第10回 保護者対応
- 第11回 地域への対応
- 第12回 育児相談①
- 第13回 育児相談②
- 第14回 乳児保育の今日的な課題
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、試験の結果を総合的に評価する

使用教材

なし

授業外学習の内容

復習をする中で、子ども理解や子どもへの援助について、再考すること。

備考

障害児保育 I (保育・教育の内容)

担当者

野田 敦史

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

現代は、幼稚園・保育所にも必ずと言ってよいほど障害を持った乳幼児が在籍している。その子どもに対して保育者は個別的にもクラス集団の中でも十分な保育の対応ができなければならない。まず、障害児保育を支える理念や歴史の変遷を理解し、障害児保育の実際について学ぶ。次に、身体障害、知的障害、発達障害など様々な障害について知り、その特性を理解する。そして一人ひとりに合った援助の方法や環境構成について考えていく。さらに障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。

到達目標

まずは障害児保育を支える理念について理解する。次に様々な障害の特性と支援の方法について理解する。さらに、統合保育を行うにあたっての支援の方法を理解する。ほかにも家族の心理の理解と支援のあり方について、また、他機関との連携など多角的な子どもへの支援について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本における障害児保育の歩み
- 第3回 障害児保育の現状と課題
- 第4回 障害とは
- 第5回 早期発見の手がかり
- 第6回 子どもの発達とは
- 第7回 子どもの理解と保育
- 第8回 障害児保育の形態
- 第9回 分離保育と統合保育
- 第10回 統合保育の意義と問題
- 第11回 身体障害児の理解と支援
- 第12回 知的障害児の理解と支援
- 第13回 重症心身障害児の理解と支援
- 第14回 発達障害児の理解と支援
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

尾崎康子 他編「よくわかる障害児保育」ミネルヴァ書房
プリントも適宜配布し、ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲(テキスト)を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

障害児保育Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

野田 敦史

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

障害児保育Ⅰで学んだことを基に、さらに特別支援教育の目標の一つである健常児と障害児の統合保育のあり方やその具体的なシステム、支援方法について学ぶ。特に発達障害児への理解と支援について掘り下げ、生活面・学習面・言語面についての有効な指導法を探り、また、教材についても実際に考えて作成していく。身体障害児に対する支援については、テキスト以外にも実際に体験型の授業や手話、ブラインドウォーキング、点字の実習なども入れていく。

到達目標

各障害についての原因と特徴について述べる事が出来、それぞれに合った対応の仕方を論述できる。統合保育について、その環境づくりやシステムについて述べる事ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス 障害児保育Ⅱの演習方法
- 第2回 個人ワーク 研究計画書の作成
- 第3回 グループ研究①研究目的・方法
- 第4回 グループ研究②文献レビュー
- 第5回 グループ研究③発表資料作成
- 第6回 グループ発表および討議①
- 第7回 グループ発表および討議②
- 第8回 グループ発表および討議③
- 第9回 統合保育場面におけるケース・スタディ①知的障害
- 第10回 統合保育場面におけるケース・スタディ②肢体不自由
- 第11回 統合保育場面におけるケース・スタディ③発達障害（自閉症）
- 第12回 統合保育場面におけるケース・スタディ④発達障害（AD/HD）
- 第13回 点字体験
- 第14回 手話体験
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、提出物、期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

障害児保育Ⅰのテキストを使用する。また、適宜プリントを配布し、ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次の授業範囲（テキスト）を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

社会的養護内容（保育・教育の内容）

担当者

野田 敦史

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 1単位

講義目標

演習によって児童福祉関連施設で活用可能な技術の習得と、実践における留意事項を学ぶ。

到達目標

演習活動を通して児童養護施設などを利用している児童の立場に立った生活や援助者の関わり理解、および児童観や養護観を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション演習の概要と進め方
- 第2回 児童養護施設の暮らし
- 第3回 乳児院と母子生活支援施設の暮らし
- 第4回 児童自立支援施設と情緒障害児短期治療施設の暮らし
- 第5回 重症心身障害児施設と肢体不自由児施設の暮らし
- 第6回 入所時支援と基本的な日常生活支援
- 第7回 子ども達のこころのケア
- 第8回 親子関係の調整
- 第9回 学校や地域との調整
- 第10回 リービングケアとアフターケア
- 第11回 子どもの最善の利益とは
- 第12回 生存と発達保障
- 第13回 子どもの権利を守るしくみ
- 第14回 支援者の資質と倫理
- 第15回 まとめ

評価方法

授業内での小課題や演習発表および筆記試験を総合して評価する。

使用教材

吉田眞理著「演習 社会的養護内容」萌文書林、その他プリントも適宜配布する。ビデオも視聴する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲(テキスト)を予習し、専門用語の意味を把握しておくこと。

備考

国語（保育・教育の内容）

担当者

原 善

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校の国語教師としての確かな国語力と指導力を身につけるためにも、学習指導要領が掲げる「国語」の内容への理解を確かなものにするとともに、自身の言語表現力・言語理解力・言語知識の向上を目指す。

到達目標

「国語」の内容である「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべての領域についての知識・技術を高めることで、小学校の「国語の教師」としての実践力の基礎を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス（学ぶこと／教えることの意義）
- 第2回 「話すこと・聞くこと」（自己紹介・スピーチ）について
- 第3回 国語表現について/言葉の力
- 第4回 「国語の特質に関する事項」（話し言葉と書き言葉の違い）について
- 第5回 「国語の特質に関する事項」（オノマトペの功罪）について
- 第6回 「国語の特質に関する事項」（修飾語の順序）について
- 第7回 「国語の特質に関する事項」（格助詞「は」と「が」の違いなど）について
- 第8回 「伝統的な言語文化に関する事項」（短歌）について
- 第9回 「話すこと・聞くこと」（新しい視座の獲得）について
- 第10回 「読むこと」の意義
- 第11回 「読むこと」（くらべ読み）の方法
- 第12回 「国語の特質に関する事項」（比喩の種類）について
- 第13回 「書くこと」（論理的な文章の書き方）について
- 第14回 書写の原理・原則
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験の点数50%に、毎回の授業での課題取り組み等の平常点を加味して評価を決める。

使用教材

小学校学習指導要領。その他、毎回印刷資料（教材）を配付する（第15回授業終了時まで、それまでに配布された資料（教材）を、各自手元に保存しておくこと）。

授業外学習の内容

次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

社会（保育・教育の内容）

担当者

影山 清四郎

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

社会認識にかかわる教科の指導内容の特色と性格を自然認識との比較しながら考察し、社会科の指導内容の配列及びその指導内容の背景を日常的事例と結びつけ理解させる。

到達目標

- ① 具体的事例に即して社会認識の特色を自然認識と比較しながら説明できる。
- ② 社会科の指導内容の配列と指導内容の背景を日常的・具体的事例説明できるようにする。
- ③ その過程で、新聞や資料の読み取り、多面的な解釈と表現力の向上をうながす。

講義内容と講義計画

- 第1回 私の社会科授業体験・友だちの体験から自己の体験の相対化。
- 第2回 社会科と立場・価値。自然認識との相違。
- 第3回 身近な商店を取り上げ、いかなる社会的条件に支えられているか考察。（社会的関連性）
- 第4回 NIE とは何か。新聞を用いた学習。（社会事象への関心）
- 第5回 学習指導要領とは何か。
- 第6回 社会科の教科目標と学年目標の分析。
- 第7回 公民的資質とは何か。
- 第8回 学習指導要領についてのミニテストと学習の振り返り。
- 第9回 私たちの社会研究－廃棄物処理や農業の直面する問題についての研究。
- 第10回 教科書と地域教材（教材の地域性と普遍性）
- 第11回 教科書内容とその背景についての研究発表（中学年）
- 第12回 同上（第5学年）
- 第13回 同上（第6学年）
- 第14回 環境、人権、平和などの現代的課題と社会科の教科内容。
- 第15回 学習のまとめ。

評価方法

出席・授業参加の意欲：40%、ミニテスト及び研究発表：20%、定期試験：40%

使用教材

テキスト：「小学校学習指導要領解説社会科編」（平成20年、文部科学省）、教員作成プリント。

授業外学習の内容

毎回新聞記事紹介を行うので、各自新聞を読んでおくこと。年度当初に紹介する新書等を読むこと。

備考

算数（保育・教育の内容）

担当者

村崎 武明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

算数・数学は数の概念を基盤にしているにも関わらず、その誕生や発展の経緯については知らないでいる場合が多い。そこから学び始めて、算数の面白さまで伝えられる教師を目指す。

到達目標

算数の進化形が数学である。そのことを見通しながら算数を指導出来る力量を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 数学と学校数学
- 第2回 数の表記
- 第3回 数学の誕生
- 第4回 量と数
- 第5回 計算の背景
- 第6回 分数の概念
- 第7回 分数の四則(加法と減法)
- 第8回 分数の四則(乗法と除法)
- 第9回 0の概念
- 第10回 体系としての数概念
- 第11回 問題と立式
- 第12回 式計算の工夫
- 第13回 平面の図形
- 第14回 立体模型の作成
- 第15回 まとめ

評価方法

小テスト、レポート、期末試験の結果、さらに授業での貢献度を総合的に判断する。

使用教材

講義の中で適宜指示する。

授業外学習の内容

毎回授業の最初に、前回授業に係る質問を受ける時間を設けるので、復習して質問内容を整理しておくこと。

備考

理科（保育・教育の内容）

担当者

片山 豪

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校理科に関連した物質、エネルギー、生命、地球に関わる発展的な内容を取り上げ、観察・実験を通じて科学的リテラシーを学習させる。また、小学校理科の実験を学生に計画させることで、科学的な見方や考え方を育成するとともに、小学校理科実験の指導に関する汎用的な能力を育成する。

到達目標

理科を総合的に学習することで科学的な見方や考え方を身に付け、小学校で理科を教えるにあたっての基本的な知識、観察及び実験の技能を習得する。そして、自ら調べ、教材を開発する能力を養う。また、小学校理科の後に、どのように理科が発展するのか、サイエンスとしてどのような背景があるのか学習する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、学習指導案について
- 第2回 実験レポートのまとめ方、模擬実験の方法
- 第3回 生物の分類、植物標本の作り方
- 第4回 物質に関する講義
- 第5回 物質に関する観察・実験Ⅰ（薬品調整）
- 第6回 エネルギーに関する講義
- 第7回 エネルギーに関する観察・実験Ⅰ（速度・エネルギー）
- 第8回 生命に関する講義
- 第9回 生命に関する観察・実験Ⅰ（動物のからだづくり）
- 第10回 地球に関する講義
- 第11回 地球に関する観察・実験Ⅰ（星の観察）
- 第12回 物質に関する観察・実験Ⅱ（物質の分析）
- 第13回 エネルギーに関する観察・実験Ⅱ（光と波）
- 第14回 生命に関する観察・実験Ⅱ（顕微鏡の使い方・微生物の観察）
- 第15回 地球に関する観察・実験Ⅱ（実体顕微鏡の使い方、火山灰の観察）

評価方法

期末試験、レポート及び課題を総合的に判断する

使用教材

小学校学習指導要領解説理科編、小学校理科教科書

授業外学習の内容

実験レポートを作成する。模擬実験の計画（実験ワークシート、指導案作成）をする。

備考

講義は2コマ連続で行う。
授業の冒頭で学生による模擬実験（小学校理科）がある。

生活（保育・教育の内容）

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 必修 2単位

講義目標

小学校教育における「生活科」について、その意義や目的、具体的な教育方法や教育内容について基本的な理解を図る。生活科は幼稚園教育との共通点も多く、幼少連携の関連からも考えていく。

到達目標

- ・「生活科」が設置された歴史的経緯、その趣旨について理解する。
- ・学習指導要領「生活」における目標や内容について理解する。
- ・具体的な事例を検討する中で、「生活科」の目的や方法が幼稚園教育の基本的な考え方と結びついていること、そして、子どもの本来の学ぶ姿であるということを理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 生活科の基本的性格と目的
- 第2回 生活科成立の背景
- 第3回 生活科の教科目標
- 第4回 具体的な事例から生活科を考える
- 第5回 学年の目標
- 第6回 生活科の内容
- 第7回 生活科における教師の役割
- 第8回 グループ活動とは
- 第9回 生活科の具体的な教育内容について①（教科書分析：基本的な視点から）
- 第10回 生活科の具体的な教育内容について②（教科書分析：具体的な視点から）
- 第11回 生活科の具体的な教育内容について③（教科書分析：学習活動・学習対象から）
- 第12回 生活科の具体的な教育内容について④（グループ発表）
- 第13回 生活科の評価の観点とその方法（自己評価について）
- 第14回 生活科の評価の観点とその方法（活動の評価について）
- 第15回 幼稚園教育と生活科の関連について、まとめ

評価方法

試験（70%）、課題（20%）、平常点（10%）

使用教材

文部科学省「小学校学習指導要領解説生活編」日本文教出版

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業内容にかかわる確認テストを実施するので、授業のポイントについて復習をしておくこと。

備考

家庭（保育・教育の内容）

担当者

内田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校家庭科の内容を構成する衣生活・食生活・家庭生活・消費生活の基礎的な事項について講義する。

到達目標

小学校家庭科で取り扱う学習内容について各々の構成要素と相互の関係を理解し、小学校家庭科の指導に必要な基礎的な知識を得る。

講義内容と講義計画

- 第1回 衣生活:衣服の働きと快適な着方の工夫
- 第2回 衣生活:衣服の手入れ
- 第3回 衣生活:環境と衣服
- 第4回 衣生活:被服実習
- 第5回 食生活:食事の意義
- 第6回 食生活:栄養素の種類とその働き
- 第7回 食生活:献立作成と食事調査
- 第8回 食生活:実習
- 第9回 家庭生活:子どもと家族
- 第10回 家庭生活:金銭の管理と活用
- 第11回 家庭生活:消費生活と消費者問題
- 第12回 家庭生活:実習・演習
- 第13回 住生活:快適な住まい
- 第14回 家庭経済(物やお金の使い方を考えよう)
- 第15回 家庭・地域・環境かかわりを考える。

評価方法

学習状況とレポート、課題の達成度、定期試験により総合的に評価する。

使用教材

小学校家庭科検定済教科書。必要なプリントを配布する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習しておくこと。

備考

uchida@takasaki-u.ac.jp

音楽（保育・教育の内容）

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校における児童の音楽活動を豊かに展開する為の、音楽表現の知識や技術を習得することを目的とする。

到達目標

①生活や遊びの中での音楽表現の実際 ②楽器遊びや楽器作り、器楽を中心とした表現活動とその展開の方法
③音楽的な環境の構成 さらに、これらの活動を通して、子どもたちの自発的な表現を促すための打楽器・鍵盤楽器等の表現力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活や遊びの中での音楽表現
- 第3回 音遊びと自然 レポート課題提示
- 第4回 楽器作りと音遊び① 叩いたりこすったりして音を出す楽器
- 第5回 楽器作りと音遊び② 吹いたり吸ったりして音を出す楽器
- 第6回 楽器遊びを中心とした表現活動
- 第7回 手作り楽器を用いたアンサンブル
- 第8回 鍵盤楽器とその奏法、 レポート提出
- 第9回 打楽器とその奏法① 太鼓、他
- 第10回 打楽器とその奏法② シロフォン、他
- 第11回 打楽器による即興表現
- 第12回 日本の伝統音楽の表現
- 第13回 マーチングの指導 ①楽器の構成、フォーメーション
- 第14回 マーチングの指導 ②マーチング発表
- 第15回 器楽発表会

評価方法

レポート 30%、発表 30%、毎回の授業課題・授業の貢献度 40%を総合する

使用教材

資料を配布する

授業外学習の内容

演奏課題は、毎日練習して授業に臨むこと。

備考

ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカを準備すること。

図画工作（保育・教育の内容）

担当者

富澤 秀文

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 必修 2単位

講義目標

小学校の図画工作は、造形遊びによる活動、絵や立体や工作の制作活動の他、鑑賞の活動が加わり編成される。この教科は児童の感性に働きかけ、創造的に作りだす喜びを体験させることを特質とする。それゆえに指導者自身も制作力を保持していることが求められる。これらの技能の修得と共に造形領域の見識を確かなものにする。

到達目標

描くことと作ることの造形活動に関わる識見を確かなものにし、実践的応用力を高めるための基礎的能力の形成をはかる。

講義内容と講義計画

- 第1回 小学校図画工作科内容の解説
- 第2回 描画材料の解説
- 第3回 鉛筆による静物写生
- 第4回 クレヨン・パス類による試作
- 第5回 水彩絵具による制作・下図と彩色
- 第6回 水彩絵具による制作・重ねによる彩色
- 第7回 紙版画の制作・下図
- 第8回 紙版画の制作・貼り込み
- 第9回 紙版画の制作・摺り
- 第10回 色彩論と色彩教材の解説
- 第11回 斜交式組紙の制作・台紙の作成
- 第12回 斜交式組紙の制作・右方からの差し込み
- 第13回 斜交式組紙の制作・左方からの差し込み
- 第14回 粘土教材の解説
- 第15回 まとめ

評価方法

試験(筆記・実技)40%、課題作品 60%の比率で判定

使用教材

水性絵具一式、画用紙、B4 トーナルカラー、カッターマット、カッターナイフ、直定規、工作用セメダイン、版画用紙、版画絵具、絵具ローラー

授業外学習の内容

配布資料は小テストで確認するので復習しておくこと。
課題制作の進行が遅れた場合には、自主的に時間を工面して調整すること。

備考

TEL : 08013868517

体育（保育・教育の内容）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 必修 2単位

講義目標

幼稚園や小学校における運動遊びや体育科学習領域の内容について、さまざまな身体運動や遊びの実践をとおして理解を深めていく。それぞれの身体運動や遊びの特性を理解するとともに、子どもの発達段階に応じた教材の工夫や援助・指導の方法について学習する。

到達目標

幼児期から児童期までの運動発達の特徴を説明することができる。
各運動の基本的技術を身につけることができる。
発達に適した教材を選択し、工夫することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼児の運動遊び (1)遊具を用いた運動遊び
- 第3回 幼児の運動遊び (2)表現遊び
- 第4回 幼児の運動遊び (3)ゲーム
- 第5回 児童の体づくり運動 (1)体ほぐしの運動
- 第6回 児童の体づくり運動 (2)多様な動きをつくる運動・運動遊び
- 第7回 児童の体づくり運動 (3)体力を高める運動
- 第8回 児童の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動
- 第9回 児童の走・跳の運動遊びと陸上運動
- 第10回 児童のゲーム
- 第11回 児童のボール運動
- 第12回 児童の表現リズム遊びと表現運動
- 第13回 教材研究 (1)幼児の運動遊び
- 第14回 教材研究 (2)児童の運動・運動遊び
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加度と授業態度 60%、グループワークへの貢献度 10%、レポート課題 30%

使用教材

「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省。「幼稚園教育要領解説」文部科学省。必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

各運動・運動遊びに関して、レポートを作成すること。レポート内容については、初回に説明する。器械運動や水泳等、基本的な運動技術を身につけておくこと。

備考

実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ（体育館用、外履き用）を必ず着用すること。

外国語活動（保育・教育の内容）

担当者

中村 博生 嶋田 和成 松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

外国語活動としての英語教育に携わるために、小学校での英語指導に必要な知識や技術を学ぶ。特に、本授業では、教材の作成・提示方法や絵本を活用した指導の方法、効果的な教育機器の活用を学ぶことに主眼を置く。

到達目標

外国語活動に関する基本的な知識と指導技術を身につけることを目標とする。また、小学校における英語授業の指導方法を *Hi, friends!* の活用を基本として、指導案の作成から指導の実際を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス・外国語活動としての英語教育について（嶋田）
- 第2回 関連分野から見る外国語活動の意義と方向性（嶋田）
- 第3回 教材・テキストの構成と内容 (1): *Hi, friends! 1* について（嶋田）
- 第4回 教材・テキストの構成と内容 (2): *Hi, friends! 2* について（嶋田）
- 第5回 評価のあり方、進め方（嶋田）
- 第6回 教材研究 (1): うた・チャンツ（松田）
- 第7回 教材研究 (2): クイズ、ゲーム（松田）
- 第8回 教材研究 (3): 絵本（松田）
- 第9回 コミュニケーション活動のためのアイデア（松田）
- 第10回 グループ・ワーク/ペア・ワークのためのアイデア（松田）
- 第11回 リスニング・スピーキングの指導方法（中村）
- 第12回 リーディング・ライティングの指導方法（中村）
- 第13回 子どもの多様性に応じた学習指導案（中村）
- 第14回 授業演習 (1): 日本人教師による単独授業（中村）
- 第15回 授業演習 (2): 外国人英語指導助手とのティーム・ティーチング（中村）

評価方法

レポート、授業演習、授業内の貢献度を総合的に考慮して評価する。

使用教材

- 樋口忠彦他. (2013). 『小学校英語教育法入門』. 東京：研究社. 2,000 円
- 文部科学省. (2008). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』. 東京：東洋館出版社. 75 円
- 文部科学省. (2014). *Hi, friends! 1*. 東京：東京書籍. 95 円
- 文部科学省. (2014). *Hi, friends! 2*. 東京：東京書籍. 95 円

授業外学習の内容

英語の4技能を身につける学習を継続的に行うこと、学習指導案の書き方を学習すること。

備考

辞書必携。

英語学概論（保育・教育の内容）

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

英語学分野における主なテーマや問題について、異文化コミュニケーションの視点から考察し、国際共通語である英語に対する理解を深める。そのため授業では、様々な英語の用例を検討しながら、コミュニケーションでどのような役割を果たすのかを議論することに重点を置く。

到達目標

英語の構造と機能を分析しながら、英語という言語の特徴を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス・英語学とは何か
- 第2回 さまざまな英語（母語、第二言語、外国語としての英語）
- 第3回 母語英語の特徴（イギリス英語、オーストラリア英語）
- 第4回 母語英語の特徴（アメリカ英語、カナダ英語）
- 第5回 英語と社会的属性
- 第6回 語用論と対人コミュニケーション
- 第7回 英語の発話行為
- 第8回 第1回～第7回のまとめ
- 第9回 英語のポライトネスと談話分析
- 第10回 英語文化とコミュニケーション・スタイル
- 第11回 英語の非言語コミュニケーション
- 第12回 語彙からみる英語らしさ
- 第13回 文法からみる英語らしさ
- 第14回 音韻からみる英語らしさ
- 第15回 第9回～第14回のまとめ

評価方法

授業への参加度、発表（50%）、期末レポート課題（50%）で総合的に評価する。

使用教材

平賀正子. (2016). 『ベーシック新しい英語学概論』. 東京：ひつじ書房. 1,700円

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

授業への積極的な参加を望みます。辞書（電子辞書可）を持参してください。

学校英文法論（保育・教育の内容）

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

英語教育に携わるために必要な英語の文法に関する知識を習得し、学習者に分かりやすく英語の基本的な文法の現象を説明できることを目標とする。

到達目標

テキストに沿って英語の文、品詞、準動詞、関係詞、構文、修飾語句などについて、発表したり議論したりして、文法の知識を広めかつ深めて学習者の疑問に答えることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 英語教育と文法
- 第2回 文
- 第3回 品詞(1)名詞、代名詞、形容詞
- 第4回 品詞(2)冠詞、副詞、動詞
- 第5回 品詞(3)助動詞、接続詞、前置詞
- 第6回 準動詞
- 第7回 関係詞
- 第8回 構文(1)時制
- 第9回 構文(2)態
- 第10回 構文(3)仮定法・話法
- 第11回 構文(4)比較
- 第12回 構文(5)動詞、名詞、形容詞を中心とする構文
- 第13回 構文(6)一致
- 第14回 修飾語句(1)形容詞的修飾語句、副詞的修飾語句
- 第15回 修飾語句(2)副詞節と副詞句

評価方法

小テスト、発表、授業内の貢献度を総合的に考慮して評価する。

使用教材

『改訂版 英文法総覧』安井稔、開拓者、2011年、2,476円+税

授業外学習の内容

発表や小テストのための予習と復習、テキストの熟読

備考

辞書必携、中村 (nakamura-h@takasaki-u.ac.jp)

現代英語学の理論と応用 I (保育・教育の内容)

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

英語学分野における主なテーマや問題について、関連する文献を英語で読み、実際の教育現場でどのように英語学の知識が活かせるのかを検討する。この授業を通して、英語の読解力を高める訓練を行いながら、英語の構造と機能を分析する力をつけることを目的とする。

到達目標

英語学の領域のうち、特に形態論、統語論についての知識を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス・Why Study English Linguistics (1): What is English Linguistics?
- 第2回 Why Study English Linguistics (2): How English Has Been Studied
- 第3回 How English Has Changed over the Centuries (1): The Old and Middle English Period
- 第4回 How English Has Changed over the Centuries (2): The Modern English Period
- 第5回 How Words Are Made (1): Morphology
- 第6回 How Words Are Made (2): Derivation, Conversion, and Inflection
- 第7回 形態論 (Morphology) のまとめ
- 第8回 How English Phrases Are Formed (1): What Is Syntax?
- 第9回 How English Phrases Are Formed (2): Complements and Adjuncts
- 第10回 How English Phrases Are Formed (3): Labeled Bracketing and Tree Diagrams
- 第11回 How English Sentences Are Formed (1): VP-deletion
- 第12回 How English Sentences Are Formed (2): T-to-C movement
- 第13回 How English Sentences Are Formed (3): *wh*-movement
- 第14回 統語論 (Syntax) のまとめ
- 第15回 本学期のまとめ、復習

評価方法

授業への参加度、発表、課題 (50%)、期末試験 (50%) で総合的に評価する。

使用教材

影山太郎他. (2004). *First Steps in English Linguistics* (2nd ed.). 東京: くろしお出版. 1,600円

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

授業への積極的な参加を望みます。辞書 (電子辞書可) を持参してください。

現代英語学の理論と応用Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

「現代英語学の理論と応用Ⅰ」に引き続き、英語学分野における主なテーマや問題について、関連する文献を英語で読み、実際の教育現場でどのように英語学の知識が活かせるのかを検討する。この授業を通して、英語の読解力を高める訓練を行いながら、英語の構造と機能を分析する力をつけることを目的とする。

到達目標

英語学の領域のうち、特に語用論、音韻論、意味論、社会言語学、応用言語学についての知識を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス・形態論と統語論の復習
- 第2回 How to Communicate with Other People (1): What is Pragmatics?
- 第3回 How to Communicate with Other People (2): Conversational Implicature
- 第4回 The Sound of English (1): Phonetics
- 第5回 The Sound of English (2): Phonology
- 第6回 Regional Varieties of English (1): Intranational Variation
- 第7回 Regional Varieties of English (2): International Variation
- 第8回 第2回～第7回のまとめ
- 第9回 English in Society (1): Grammatical Variation
- 第10回 English in Society (2): Phonological Variation
- 第11回 How Words Mean (1): Kinds of Meaning
- 第12回 How Words Mean (2): Semantic Networks
- 第13回 How English as a Second/Foreign Language Is Acquired (1): Theories of Language Acquisition
- 第14回 How English as a Second/Foreign Language Is Acquired (2): Applied Linguistics
- 第15回 第9回～第14回のまとめ、復習

評価方法

授業への参加度、発表、課題（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。

使用教材

影山太郎他. (2004). *First Steps in English Linguistics* (2nd ed.). 東京：くろしお出版. 1,600円

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

授業への積極的な参加を望みます。辞書（電子辞書可）を持参してください。

英米文学入門（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

英米文学が、いかに構築されてきたのかについて、社会的・歴史的なコンテキストを踏まえながら概観する。とりわけ、各時代における代表的なテキストを原文で確認し、その特徴をとらえながら、イギリス・アメリカにおいて、どのように文学が文化的・社会的な意味をもってきたのかについて考える。

到達目標

文学テキストの社会的・歴史的・文化的な意味について理解し、文学テキストを通して英語に親しむ。

講義内容と講義計画

- 第1回 インTRODクシヨン：英米文学とは何か
- 第2回 中英語チョーサー『カンタベリー物語』
- 第3回 ルネサンスの詩と演劇：宮廷・民衆・劇場
- 第4回 シェイクスピア作品の概観
- 第5回 シェイクスピアを読む：『ハムレット』
- 第6回 王政復古期の演劇と詩：内乱・政治・社会の変容
- 第7回 18世紀における小説の登場：デフォー『ロビンソン・クルーソー』
- 第8回 Sentimental の時代：リチャードソン『パメラ』
- 第9回 18世紀における小説の成熟：オースティン『高慢と偏見』
- 第10回 ゴシック小説と恐怖
- 第11回 ロマン主義の到来とロマン派詩人（ブレイク、ワーズワス、シェリー）
- 第12回 ヴィクトリア朝の社会と文学：ダーウィニズム・都市化・帝国主義
- 第13回 ヴィクトリア朝の小説：ディケンズ、トマス・ハーディ、キプリング
- 第14回 20世紀の小説：ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 第15回 現代まで

評価方法

授業への参加度（10%）、リアクション・ペーパー（40%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。

使用教材

清宮倫子、清宮協子『よくわかるイギリスの文学：The Poetry and Prose of British Literature』（南雲堂、2012年）

授業外学習の内容

指定箇所については、必ず事前に訳して来ること。

備考

辞書（電子辞書可）を必ず持参すること。

英米文学批評（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

文学を論じる際に必要となる、文学理論について学ぶ。理解力・思考力・プレゼン能力を高めるため、担当者には、指定テキスト担当箇所についてのまとめと発表を課す。担当者は必ずハンドアウトを用意すること。また、テキスト終了後は、それらの文学理論を用いて、主に19世紀に書かれた英米の小説を毎時間読み、それについてディスカッションを行う。英米文学を出来るだけ多く読み、また実践的に英文学を論じる能力を得ることがこの授業の目的である。

到達目標

文学テキストの社会的・歴史的・文化的な意味について理解し、文学テキストを通して英語に親しむ。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、担当の決定
- 第2回 英文学はどこから来たか
- 第3回 批評的態度とは何か
- 第4回 精神分析批評
- 第5回 ジェンダー批評
- 第6回 新歴史主義
- 第7回 ポスト・コロニアリズム
- 第8回 Conrad, "The Disturber of Traffic"を読む①
- 第9回 Conrad, "The Disturber of Traffic"を読む②
- 第10回 Stevenson, "The Bottle Imp"を読む ①
- 第11回 Stevenson, "The Bottle Imp"を読む ②
- 第12回 Hardy, "Barbara of the House of Grebe"を読む ①
- 第13回 Hardy, "Barbara of the House of Grebe"を読む ②
- 第14回 Dickens, "A Madman's Manuscript"を読む①
- 第15回 Dickens, "A Madman's Manuscript"を読む②

評価方法

授業参加度（10%）、授業での発表（40%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。

使用教材

ピーター・バリー『文学理論講義』高橋和久訳（ミネルヴァ書房、2014年） *プリントで配布する

授業外学習の内容

担当箇所については、準備した上でまとめ、発表すること。

備考

辞書（電子辞書可）を必ず持参すること。

英米文学論（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

シェイクスピアの『マクベス』を英語で鑑賞、精読する。読解の補助として、日本語訳を用いてもかまわない。また、『マクベス』に関する批評を読み、批評的観点から作品を読み解く方法についても学ぶ。

到達目標

シェイクスピアの『マクベス』を英語で読み、イギリス・ルネサンス演劇読解の基礎を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 イギリス・ルネサンス演劇とシェイクスピアの悲劇
- 第3回 『マクベス』1幕1場～1幕3場
- 第4回 『マクベス』1幕4場～1幕7場
- 第5回 『マクベス』2幕1場～2幕2場
- 第6回 『マクベス』2幕3場～2幕4場
- 第7回 『マクベス』3幕1場～3幕3場
- 第8回 『マクベス』3幕4場～3幕6場
- 第9回 『マクベス』4幕1場～4幕2場
- 第10回 『マクベス』5幕1場～5幕4場
- 第11回 『マクベス』5幕5場～5幕8場
- 第12回 『マクベス』5幕9場～5幕11場
- 第13回 『マクベス』受容の歴史
- 第14回 『マクベス』批評の概観
- 第15回 まとめ

評価方法

授業参加度（10%）、授業への貢献度（30%）、期末課題（60%）で総合的に評価する。

使用教材

ウィリアム・シェイクスピア『マクベス』今西雅章編注（大修館、1987年）

授業外学習の内容

指定箇所については、必ず事前に訳して来ること。

備考

辞書（電子辞書可）を必ず持参すること。

英米児童文学論（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

英米児童文学の誕生と発展を、トピックに沿って理解する。適宜テキストを参照しつつ、描かれた子供の表象を確認することで、近代社会の中で理想とされる子供像がいかに形成されてきたのかを確認する。最終的に、何らかの児童文学作品について論じることができるようになることが、本授業の目的である。また、後半は作品の解説を学生自身が行う。

到達目標

英米児童文学のテキストを通して、英語に親しむとともに、欧米の子どもにまつわる文化について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 〈子ども〉の発見と児童文学の誕生
- 第3回 教育と児童文学：乳母・学校・教師
- 第4回 『トム・ブラウン』（1857）と『チョコレート戦争』（1974）
- 第5回 家族と児童文学
- 第6回 『小公子』（1886）、『小公女』（1888）、『若草物語』（1868）
- 第7回 社会問題と児童文学：孤児・労働・貧困
- 第8回 『水の子』（1863）と『赤毛のアン』（1908）
- 第9回 ファンタジーと児童文学
- 第10回 『柳に吹く風』（1911）と『ホビット』（1937）
- 第11回 メアリー・ノートン『床下の小人たち』①
- 第12回 メアリー・ノートン『床下の小人たち』②
- 第13回 『借り暮らしのアリエッティ』をみる
- 第14回 『床下の小人たち』まとめ
- 第15回 まとめ：現代の児童文学

評価方法

授業参加度（10%）、授業への貢献度（30%）、期末課題（60%）で総合的に評価する。

使用教材

特に定めない。

授業外学習の内容

指定箇所については、必ず事前に訳して来ること。

備考

辞書（電子辞書可）を必ず持参すること。

英語教育学 I (保育・教育の内容)

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

英語教育学分野における主なテーマや問題について、これまでの英語教育・教授法の流れを概観しながら、俯瞰的に捉える力を養う。その上で、授業では、第二言語習得研究の知見に基づいた、新しい英語教育のアプローチである「フォーカス・オン・フォーム (FonF)」の理解を深めることを目標とする。また授業では、講義だけでなく、受講生による発表や討論も行う。

到達目標

伝統的教授法、コミュニカティブ言語教授法、フォーカス・オン・フォームの特徴を学び、受講生がこれまで受けてきた英語教育を振り返りながら、日本の英語教育の現場でこれらのアプローチをどのように活用すればよいのかを検討できる力を養う。

講義内容と講義計画

第1回 ガイダンス・英語教育観と第二言語習得研究

第2回 伝統的教授法 (1): 教え方

第3回 伝統的教授法 (2): 限界と問題点

第4回 コミュニカティブ言語教授法 (1): 内容中心教授法の特徴

第5回 コミュニカティブ言語教授法 (2): 内容中心教授法の課題

第6回 コミュニカティブ言語教授法 (3): タスク中心教授法の特徴

第7回 コミュニカティブ言語教授法 (4): タスク中心教授法の課題

第8回 第1回～第7回のまとめ

第9回 フォーカス・オン・フォーム (1): FonF の特徴

第10回 フォーカス・オン・フォーム (2): 内容中心教授法と FonF

第11回 フォーカス・オン・フォーム (3): タスク中心教授法と FonF

第12回 フォーカス・オン・フォーム (4): FonF の課題

第13回 これからの日本の英語教育 (1): 理解可能なインプットからアウトプットへどう結び付けるか

第14回 これからの日本の英語教育 (2): 学習者、学習環境、カリキュラムと教授法の間を考える

第15回 第9回～第14回のまとめ

評価方法

授業への参加度、発表 (50%)、期末レポート課題 (50%) で総合的に評価する。

使用教材

和泉伸一. (2009). 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』. 東京: 大修館書店. 2,200円

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

授業への積極的な参加を望みます。辞書 (電子辞書可) を持参してください。

英語教育学Ⅱ（保育・教育の内容）

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

英語教育の基盤となる理論的背景や指導技術を学び、自立して英語を学び続ける力を育み、時代のニーズに応えられる英語教師を目指すことを目標とする。

到達目標

各分野の理論的背景から英語の4技能を指導する理論や原理を学び、学習者のニーズに応えられる英語学習指導を展開することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 外国語としての英語教育の目的
- 第2回 小学校と中学校の英語教育
- 第3回 現代の指導法
- 第4回 評価論
- 第5回 聞くことの指導原理
- 第6回 話すことの指導原理
- 第7回 読むことの指導原理
- 第8回 書くことの指導原理
- 第9回 コミュニケーション能力の基礎を養う指導原理
- 第10回 英語教育と情報技能
- 第11回 授業論
- 第12回 国際理解教育
- 第13回 早期英語教育
- 第14回 英語教育と教育機器・教材・教具
- 第15回 英語教育研究法

評価方法

小テスト、発表、レポート、授業内の貢献度を総合的に考慮して評価する。

使用教材

『新・英語教育学概論』高梨康雄、高橋正夫、金星堂、2012年、3,078円

授業外学習の内容

4技能の理論的背景と習得方法を実践的に学ぶ。

備考

辞書必携、中村 (nakamura-h@takasaki-u.ac.jp)

Communicative Classroom English I (保育・教育の方法技術)

担当者

クリス・ターン

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

このコースでは、学習と練習によって受講者の内的小および外的コミュニケーションスキルを向上させ、小・中学校それぞれの現場で、英語を用いて授業を行う基礎力を養う。内的コミュニケーションスキルとは、コミュニケーションを取る際の心の持ちかたに関するスキル。外的コミュニケーションスキルとは、考えたこと思ったことを直接に表現するスキル。これらのスキルを修得するために、独自に考案した situationpractice とトレーニングを行う。

到達目標

オーラルコミュニケーションと教室英語の基礎的スキルを身につける。初対面の人とも必要レベルのコミュニケーションを取ることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 InternalCommunication:OurBeliefSystemandEmotions(内的コミュニケーション I:私たちの信念システムと情緒)
- 第2回 ExternalCommunicationSkills(外的コミュニケーションスキル)
- 第3回 ExternalCommunicationToolsI, II, III(内的コミュニケーションツール)
- 第4回 IncorporatingLanguage:English, Globish, OtherLanguages(言語を組み込む)
- 第5回 IntegratingSkills(練習とトレーニング)
- 第6回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:旅行)
- 第7回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:レストラン)
- 第8回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:駅)
- 第9回 SocializingandtheSocialFactor(社交の場と社会的スキル)
- 第10回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:ホテル)
- 第11回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:ショッピング)
- 第12回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング:医療機関)
- 第13回 SpeechSkillsandPublicSpeaking(スピーチスキル)
- 第14回 Review(レビュー)
- 第15回 OralPresentation(プレゼンテーションスキル)

評価方法

それぞれの授業で行われる situationpractice やトレーニングへの参加度、達成度を見て学生を評価する。

使用教材

OralCommunicationI(ChrisTarn)

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

辞書は必携。

Communicative Classroom English II (保育・教育の方法技術)

担当者

クリス・ターン

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

本講義は **Communicative Classroom English I** に続くもので、I で身につけたスキルを小・中学校それぞれの現場で、どのように生徒たちに教えていくか、そのメソッドを教授する。英語のみならず、他の言語も用いて、将来英語教員になる学生たちのコミュニケーション能力を高めたい。

到達目標

オーラルコミュニケーションスキルを身につける PartII。
教員となる学生たちにコミュニケーションスキルを効果的に教授する。

講義内容と講義計画

- 第1回 InternalCommunicationII:OurBeliefSystemandEmotions(内的コミュニケーションII:私たちの信念システムと情緒)
- 第2回 ExternalCommunicationSkills(外的コミュニケーションスキル)
- 第3回 ExternalCommunicationToolsI, II, III(内的コミュニケーションツール)
- 第4回 IncorporatingLanguage:English, Globish, OtherLanguages(言語を組み込む)
- 第5回 SituationalPracticeandTrainingSPT(練習とトレーニング)
- 第6回 SocializingandSocialSkills(社交の場にと社会的スキル)
- 第7回 Speech(スピーチをする)
- 第8回 PublicSpeaking(パブリックスピーチ)
- 第9回 OralCommunicationSkillsIntegration(コミュニケーションツールの統合)
- 第10回 HowtoTeachStudentstheaboveCommunicationSkills(学校の生徒にコミュニケーションスキルを教える)
- 第11回 SituationalPracticeandTrainingSPT(会話練習:旅行)
- 第12回 SituationalPracticeandTrainingSPT(会話練習:レストラン)
- 第13回 SituationalPracticeandTrainingSPT(会話練習:駅)
- 第14回 SituationalPracticeandTrainingSPT(会話練習:ホテル)
- 第15回 ReviewandOralPresentation(レビューと口頭発表)

評価方法

それぞれの授業で行われる **situationpractice** への参加度、目標達成度を見て学生を評価する。

使用教材

OralCommunicationbooklet(ChrisTarn)

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

辞書は必携。

Writing for English Teaching (保育・教育の方法技術)

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

英作文に役立つさまざまな英語の表現を身につけ、パラグラフの構成に必要な知識を学び、パラグラフ・ライティングを習得し、英語の指導に応用することを目標とする。

到達目標

モデルのパラグラフを分析してパラグラフ構成の知識を学び、身につけたさまざまな英語表現を使って、パラグラフ・ライティングができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 A short paragraph (Self introduction)
- 第2回 A longer paragraph (Past memories)
- 第3回 Write about only one thing (My daily life)
- 第4回 Topic sentence (My beliefs)
- 第5回 Major supporting sentences (My future profession)
- 第6回 Minor supporting sentences (People I respect)
- 第7回 Concluding sentence (Things I treasure)
- 第8回 Paragraph writing 1
- 第9回 Descriptive paragraph (Places worth visiting)
- 第10回 Illustration paragraph ((Un)pleasant thing)
- 第11回 Narrative paragraph (Writing a story)
- 第12回 Definition paragraph (Words in my vocabulary)
- 第13回 Classification paragraph (Talking about “Types”)
- 第14回 Cause and Effect paragraph (Pitfalls for youngsters)
- 第15回 Paragraph writing 2

評価方法

レポート、発表、授業内の貢献度を総合的に考慮して評価する

使用教材

“A Passage to Paragraph Writing” 遠藤巧樹、センテージラーニング、2011年、2,000円+税

授業外学習の内容

予習、復習は必ず行い、課題のレポートは毎回提出する。

備考

辞書必携 中村 (nakamura-h@takasaki-u.ac.jp)

Speech Workshop（保育・教育の方法技術）

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

本授業では、口頭での英語発信力を高めるため、英語によるプレゼンテーション、ディスカッション練習を行う。また、基本的な会話・作文練習も行い、英語のコミュニケーション能力を総合的に強化することを目標とする。

到達目標

自分の伝えたいことをわかりやすく英語で発信できる力をつける。そのため、授業では基本的に英語のみを使用することになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 Warm-up, Unit 1: Posture and Eye Contact
- 第2回 Speech Preparation (1): Informative Speech
- 第3回 Speech Performance (1): Informative Speech
- 第4回 Unit 2: Gestures
- 第5回 Speech Preparation (2): Layout Speech
- 第6回 Speech Performance (2): Layout Speech
- 第7回 Unit 3: Voice Inflection
- 第8回 Speech Preparation (3): Demonstration Speech
- 第9回 Speech Performance (3): Demonstration Speech
- 第10回 Unit 4: Effective Visuals
- 第11回 Speech Preparation (4): Explaining Visuals
- 第12回 Speech Performance (4): Explaining Visuals
- 第13回 Unit 5: Story Message
- 第14回 Final Performance (1)
- 第15回 Final Performance (2) and Peer Evaluation

評価方法

授業への参加度、課題（50%）、プレゼンテーションのパフォーマンス（50%）で総合的に評価する。

使用教材

D. Harrington & C. LeBeau. (2009). *Speaking of Speech* (New ed). 東京：Macmillan. 2,625円

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、英語を話す練習を毎日少しでも行うこと。なお、授業外学習においては、オンラインの授業支援システム CaLabo Bridge を使用する。

備考

授業への積極的な参加を望みます。辞書（電子辞書可）を持参してください。

異文化コミュニケーション論（保育・教育の内容）

担当者

松田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

異文化について理解するための英文エッセイを参照しつつ、「文化とは何か」、「見える文化」と「見えない文化」、ステレオタイプ、集団主義と個人主義、外国語の学習、交渉力など、異文化間コミュニケーションにおける基本的な事項について学ぶ。国際化しつつある現代の教育現場において必要とされる異文化についての理解、コミュニケーション・スキルを得ることが、この講義の目的である。

到達目標

教育現場において必要とされる実践的な異文化コミュニケーション・スキルを身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文化って何だろう
- 第3回 見える文化と見えない文化
- 第4回 カルチャーショック
- 第5回 ステレオタイプ
- 第6回 価値観の違い
- 第7回 間の取り方と話し手の交代
- 第8回 文脈の重要性
- 第9回 集団主義と個人主義
- 第10回 異文化に触れる
- 第11回 差異を楽しむ
- 第12回 外国語の学習
- 第13回 聞く力と伝える力
- 第14回 交渉する力
- 第15回 異文化コミュニケーション・スキル

評価方法

授業への参加度（10%）、リアクション・ペーパー（50%）、期末課題（60%）で総合的に評価する。

使用教材

中村良廣『自発学習型 異文化コミュニケーション入門ワークブック』（松柏社、2014年）

授業外学習の内容

授業の際に扱うテキストについては事前に配布するので、毎回必ず読んで授業に参加すること。

備考

辞書（電子辞書可）を必ず持参すること。

ヨーロッパ思想と多文化理解（保育・教育の内容）

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

子どもたちが、いかに教育されてきたかを、歴史、文化、社会と通して概観する。それによって、現代の教育をめぐる諸問題に対し、多角的に理解できるようにする。各時代の子どもの姿を浮き彫りにし、現代の教育問題を考える。

到達目標

教育とはその時代、地域、歴史などによって大きく変化する。すなわちどのような人格が求められるか、その価値観が如実に表れる。それは教育思想としてその時代が求める「価値観」となる。その「価値観」を理解するためには「相対的」に理解がもとめられる。現在の教育はどのような思想を経て確立したかを考察しなければならない。この講義の目標は、異文化の思想を理解することで、教育者に必要な深い知識と広い教養を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ヨーロッパ思想の源流①ギリシャ・ローマ
- 第3回 ヨーロッパ思想の源流②ヨーロッパ中世とキリスト教
- 第4回 近代の成立と家族観の変遷
- 第5回 アリエスの子どもの発見をめぐって①不完全な大人とは
- 第6回 アリエスの子どもの発見をめぐって②近代の子ども観の成立
- 第7回 近代の思想家をめぐって①ロックの教育思想
- 第8回 近代の思想家をめぐって②ルソーの「エミール」の成立背景
- 第9回 キリスト教美術にみる子どもの表現①クピドの変遷
- 第10回 キリスト教美術にみる子どもの表現②死の舞踏に現われる子ども
- 第11回 子どもの教育思想を再考する
- 第12回 ヨーロッパと日本①日本の近代思想と教育
- 第13回 ヨーロッパと日本②戦前と戦後の教育思想を考える
- 第14回 各時代、各地域の教育思想を比較する
- 第15回 総復習と総括

評価方法

基本的には筆記試験をおこなうが、出席点やレポート等も評価に加える。

使用教材

特にないが、参考文献は逐次紹介する。

授業外学習の内容

- ・ 次回の授業のプリントを配布するので、専門用語、時代背景などよく予習しておくこと。
- ・ 今までの授業の理解度を確認するために小テストを行うのでよく復習しておくこと。

備考

積極的な参加を期待する。授業中の良い質問は講義に反映させる。尚、学生の興味・関心によりシラバスを変更することがある。

表現演習（保育・教育の内容）

担当者

岡本 拓子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 1単位

講義目標

子どもを対象とした人形劇やミュージカル等の舞台制作について、企画、台本制作、演出、舞台装置や衣装制作等を行い、さらにそれらを演じる技術を習得し発表する。また、保育・教育現場において子どもが発表会等で行う表現活動の指導方法についても実践を通して学ぶ。

到達目標

子どもを対象とした人形劇、ミュージカル等の舞台制作および発表を通して、保育士・教師に必要な表現力を総合的に習得するとともに、子どもの表現活動の指導方法についても実践的に学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 授業の概要説明。1グループ10名程度にグループ分けを行い、演目検討。
- 第2回 台本制作、演出、舞台装置、衣装制作、出演者等の役割ごとの作業確認と準備
- 第3回 各グループの演目について発表し、意見交換を行い内容についての再検討。
- 第4回 音楽練習使用楽曲の選曲、パート練習
- 第5回 立ち稽古①実際に演じながら練習および演技指導
- 第6回 中間発表各グループの演目を発表し、意見交換、演技指導。
- 第7回 立ち稽古②中間発表を踏まえての修正、演技指導
- 第8回 通しリハーサル①照明、衣装、舞台装置等確認
- 第9回 通しリハーサル②最終リハーサル
- 第10回 舞台発表
- 第11回 発表後の振り返り反省と評価
- 第12回 子どもの発表会における表現活動の指導方法について、模擬保育の内容検討
- 第13回 表現活動の指導について、指導案を作成する。
- 第14回 模擬保育:グループごとに発表し相互に評価しあう。
- 第15回 まとめ

評価方法

課題への取り組み、発表時の取り組みおよび期末試験により総合的に評価する。

使用教材

なし

授業外学習の内容

毎時課されるグループワークなどの課題に取り組むこと。

備考

絵本論（保育・教育の内容）

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 1単位

講義目標

保育の現場において絵本は、多く使われている児童文化材の一つであり、子どもたちが楽しむことができる媒体である。この講義では多くの絵本に触れ、絵本の特性や種類などについて理解を深める。次に実際に子どもに読み聞かせをする際の絵本の選択の仕方、絵本の読み聞かせに関する方法を習得する。

到達目標

- ・児童文化材の一つである絵本についての種類や特性を理解する。
- ・保育教材として絵本を捉え、保育現場での活用法や活動の展開方法などを学び、実践力を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 児童文化材としての絵本
- 第2回 保育教材としての絵本
- 第3回 絵本の種類①:赤ちゃん絵本
- 第4回 絵本の種類②:創作・物語絵本
- 第5回 絵本の種類③:昔話・民話絵本
- 第6回 絵本の種類④:知識絵本(科学絵本、図鑑絵本、数の絵本)
- 第7回 絵本の種類⑤:言葉の絵本、文字のない絵本、写真絵本
- 第8回 絵本の種類⑥:しかけ絵本
- 第10回 保育現場での絵本の展開
- 第11回 絵本分析方法論
- 第12回 絵本分析①(構造分析)
- 第13回 絵本分析②(ストーリー分析)
- 第14回 絵本分析③(教材分析)
- 第15回 読み聞かせの実践方法、まとめ

評価方法

試験(70%)、課題(20%)、平常点(10%)

使用教材

必要に応じてプリントを配布する。

授業外学習の内容

さまざまな絵本を読み、絵本シートを作成すること。

備考

第3回～7回までは、図書館で授業を行う時がある。

家庭教育と幼児教育（保育・教育の内容）

担当者

今井 麻美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

家庭教育と幼児教育の関係の在り方に関する議論を歴史的に学ぶ。その後、現在、家庭教育は幼児教育との関係の中でどのように語られているのかについて学ぶ。最後に、ディスカッションを通して、両者のそれぞれの役割、意義について総合的に考えを深める。

到達目標

広い視野で家庭教育と幼児教育との関係を捉える視点を持つ。幼児教育、家庭支援、子育て支援に関するこれまでの学びを総合的に深める。

講義内容と講義計画

授業計画

- 第1回 オリエンテーション:授業の概要と進め方
- 第2回 家庭教育と幼児教育の関係の在り方に関する議論(1):幼児教育の誕生
- 第3回 家庭教育と幼児教育の関係の在り方に関する議論(2):両者の対等性
- 第4回 家庭教育と幼児教育の関係の在り方に関する議論(3):現在の問題と課題
- 第5回 海外の家庭教育と幼児教育
- 第6回 現代日本の家庭教育関係施策
- 第7回 行政文書から捉える「家庭教育」
- 第8回 メディアから捉える「家庭教育」
- 第9回 「家庭教育」言説から捉える子ども像、親像
- 第10回 家庭から幼児教育への移行:親子にとっての変化
- 第11回 家庭から幼児教育への移行:親子が保育者と関わることの意味
- 第12回 親-子ども関係と保育者-子ども関係
- 第13回 家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義:グループディスカッション
- 第14回 家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義:グループ 同士のディスカッション
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、課題への取り組み、学期末レポートにより総合的に評価する。

使用教材

適宜プリントを配布する

授業外学習の内容

随時配布する文献、資料等を授業の予習として読んでくること。予習範囲については、授業内で指定する。

備考

なし

パーソナリティの心理学（保育・教育の内容）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

自他のパーソナリティ理解は、心理学の最も基本的かつ重要な課題の1つである。本講義では、これまでに提示されてきたパーソナリティ理論などの学習を通して、自分自身や周囲にいる人たちの人間理解に役立てる。

到達目標

- ・行動規定因の1つである自己に対して問題意識を持って向き合えるようになる。
- ・将来、教育者や保育者として、向き合う人の個性を尊重することの大切さが自覚できるようになる。
- ・3年前期に配当されている「心理学検査法」の基礎学習として、心理学的なパーソナリティ理論の基礎が理解できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション -個性の存在と個性の大切さ-
- 第2回 パーソナリティとは
- 第3回 個性理解の歴史概観
- 第4回 コンフリクト、フラストレーション、防衛機制
- 第5回 類型や特性といった観点からのパーソナリティ理解
- 第6回 精神分析的なパーソナリティ理解1 -概観、フロイト-
- 第7回 精神分析的なパーソナリティ理解2 -アドラーとユング-/ 唯識学
- 第8回 精神分析的なパーソナリティ理解3 -フロムとエリック・バーンのパーソナリティ観-
- 第9回 現象学的アプローチからのパーソナリティ理解 -オルポートやロジャースのパーソナリティ観ほか-
- 第10回 実存心理学からのアプローチ -フランクルのパーソナリティ観-
- 第11回 パーソナリティと欲求 -マズローのパーソナリティ観ほか-
- 第12回 向性の問題
- 第13回 双生児
- 第14回 知的能力と 創造性
- 第15回 人間理解と教育活動、対人支援活動、まとめ

評価方法

評価は、個人ワーク課題の提出状況および期末試験などを総合しておこなう。

使用教材

テキストは使用しない。授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

- ・人間（自分自身や周囲にいる人など）に関心を持つようにすること。

備考

音楽と表現 I (保育・教育の方法技術)

担当者

岡本 拓子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

歌唱表現を中心に子どもの音楽的発達を理解し、保育士・教師に必要な発声のメカニズムの基本および歌唱法に関する知識と技術を習得する。

到達目標

「歌」を中心とした保育内容・小学校音楽科の授業内容を理解し、子どもの遊びや音楽活動を豊かに展開するために必要な保育士・教師の歌唱表現の知識と技術を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 子どもの発達と音楽表現の基本について理解する。
- 第2回 幼児, 児童の声帯と発声および歌唱表現の発達について理解する。
- 第3回 保育内容における音楽表現と, 小学校音楽科における授業内容について理解する。
- 第4回 基本的な発声法の習得発声のメカニズム、姿勢、呼吸法を習得し、発声練習を行う。
- 第5回 ソルフェージュ①リズム練習を行う。
- 第6回 ソルフェージュ②コーリユーブンゲン・コンコーネから抜粋し発声法を習得する。
- 第7回 歌唱教材①手遊び歌に関する知識と技術を習得する。
- 第8回 歌唱教材②乳幼児の歌唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第9回 歌唱教材③小学校低学年の歌唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第10回 歌唱教材④小学校高学年の歌唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第11回 歌唱教材⑤独唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第12回 歌唱教材⑥輪唱, 合唱曲に関する知識と技術を習得する。
- 第13回 歌唱教材⑦子どもの歌唱曲と伴奏法に関する知識と技術を習得する。
- 第14回 歌唱教材⑧歌唱教材について楽曲分析を行い、歌唱曲を構造的に理解する。
- 第15回 まとめ

評価方法

課題への取り組み, 発表時の取り組みおよび期末試験により総合的に評価する。

使用教材

こどもの歌 100 (チャイルド社)、続こどもの歌 200 (チャイルド社)、その他資料を配布する。

授業外学習の内容

授業で学んだ発声法や歌唱法については、授業外でも毎日自分で学習すること。

備考

音楽と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

岡本 拡子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

①生活や遊びの中での音楽表現の実際②楽器遊びや楽器作り、器楽を中心とした表現活動とその展開の方法③音楽的な環境の構成さらに、これらの活動を通して、子どもたちの自発的な表現を促すための打楽器・鍵盤楽器等の表現力を身につける。

到達目標

「音楽と表現Ⅰ」に引き続き、子どもの遊びや音楽活動を豊かに展開する為の、特に器楽を中心とした音楽表現の知識や技術を習得することを目的とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活や遊びの中での音楽表現
- 第3回 音遊びと自然
- 第4回 楽器作りと音遊び①叩いたりこすったりして音を出す楽器
- 第5回 楽器作りと音遊び②吹いたり吸ったりして音を出す楽器
- 第6回 楽器遊びを中心とした表現活動
- 第7回 手作り楽器の製作
- 第8回 手作り楽器のアンサンブル
- 第9回 打楽器とその奏法①太鼓、他
- 第10回 打楽器とその奏法②ソフォラ、他
- 第11回 打楽器による即興表現
- 第12回 器楽合奏① 楽器の構成
- 第13回 器楽合奏② グループワーク
- 第14回 器楽合奏③ 発表
- 第15回 子どもの音楽表現を引き出す環境構成

評価方法

課題 30%、発表 30%、毎回の授業課題・授業の参加度 40%を総合する

使用教材

資料を配布する

授業外学習の内容

配布楽譜の楽器パートは、授業内ですぐアンサンブルできるように各自練習して、授業に臨むこと

備考

授業での参加度を重視します。意欲的に活動に取り組んでください。
・鍵盤ハーモニカ、リコーダー、カスタネットは各自で用意する。

造形と表現 I (保育・教育の方法技術)

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

児童の創作活動における基礎的な能力や豊かな情操を養うために、実践的に関る。
また、制作過程を理解するために、授業で制作した作品は全て課題として提出する。

到達目標

児童の造形表現を豊かに養うために、その技術と方法を理解して、豊かな創造活動への造詣を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス授業の進め方、教材等の説明
- 第2回 子どもの絵画の世界を理解する
- 第3回 子どもの絵画の法則を知る
- 第4回 スクラッチを作る
- 第5回 糸引き版画を作る
- 第6回 デカルコマニーを作る
- 第7回 マーブリングを作る
- 第8回 牛乳パック工作①腹話術人形
- 第9回 牛乳パック工作②快速ボート
- 第10回 ポスター制作①色彩と構図
- 第11回 ポスター制作②文字の色々
- 第12回 手作りおもちゃ制作①紙コップを使って
- 第13回 手作りおもちゃ制作②自由課題
- 第14回 提出課題制作
- 第15回 まとめ子どもの世界を再考する

評価方法

作品提出により、評価する。また授業の参加状況も成績に反映させる。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の課題に関しては事前にプリントを配布する。手順を各学生が確認しておくこと。
- ・ 授業内でできなかった作品は授業後に完成させておくこと。

備考

授業には積極的に参加すること。また、事前に必要なものは忘れずに準備すること。

身体と表現 I (保育・教育の方法技術)

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

様々な身体活動や運動遊びをとおして、身体を動かすことや表現することの楽しさを体験するとともに、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を学ぶ。また、様々な遊具や用具、素材等の特性を理解し、遊びに活用する方法を学習する。

到達目標

幼児期における運動遊びの重要性を理解することができる。
様々な運動遊びを実践し、それぞれの遊びの特性や魅力を説明することができる。
幼児が楽しく安全に遊びに取り組めるような環境構成や援助の工夫を行うことができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 表現遊び(創作組体操)
- 第3回 伝承遊び(鬼遊び)
- 第4回 マットを用いた運動遊び
- 第5回 巧技台を用いた運動遊び
- 第6回 ボールを用いた運動遊び
- 第7回 フープを用いた運動遊び
- 第8回 縄を用いた運動遊び (1)長縄
- 第9回 縄を用いた運動遊び (2)短縄
- 第10回 サイバーホイール・バルーン・オーボールを用いた運動遊び
- 第11回 ゴムを用いた運動遊び
- 第12回 身近な素材を用いた運動遊びの作成
- 第13回 遊びの模擬指導
- 第14回 遊びの展開の工夫と指導上の留意点
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加度と授業態度 70%、レポート課題 30%

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

運動遊びごとにレポートを作成すること。レポート内容については、初回に説明する。

備考

トレーニングウェア、体育館シューズを必ず着用すること。

ことばと表現 I (保育・教育の方法技術)

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

乳幼児期の言語教育のあり方について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を通して理解を深める。その上で具体的な児童文化財を検討し、さまざまな作品について理解を深める。

到達目標

- ・乳幼児期の言語教育の目標やあり方を理解するとともに、乳幼児期の言葉の発達を踏まえた適切な言語教材について理解する。
- ・絵本やパネルシアターなどの児童文化財について、特性や種類などを学ぶ。その上で、実際の教材の制作、発表を通して、子どもにとって適切な言語教材について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 人の生活と言葉:子どもにとって言葉とは何か
- 第2回 人の生活と言葉:言葉が果たす役割・機能
- 第3回 乳幼児期の言葉の特色
- 第4回 乳幼児期の言葉の発達
- 第5回 領域「言葉」のねらいと内容
- 第6回 子どもの言葉を育てる児童文化財
- 第7回 絵本の特性とは
- 第8回 絵本作品にみる子どもの言葉の育ち
- 第9回 パネルシアターの特性とは
- 第10回 パネルシアター作品にみる子どもの言葉の育ち
- 第11回 パネルシアター作品制作
- 第12回 パネルシアター作品発表と検討① (ストーリーと展開)
- 第13回 パネルシアター作品発表と検討② (表現方法)
- 第14回 エプロンシアターの特性とは
- 第15回 エプロンシアター作品にみる子どもの言葉の育ち、まとめ

評価方法

課題作品 40%、教材研究レポート 40%、平常点の総合評価 20%

使用教材

久富陽子編「保育実技」萌文書林 2002、幼稚園教育要領(文部科学省)、保育所保育指針(厚生労働省)

授業外学習の内容

さまざまな絵本を読み、絵本シートを作成すること。
作品発表に関しては、事前に準備をして臨むこと。

備考

製作した作品は、実習で使う予定。

幼児音楽演習 I (保育・教育の方法技術)

担当者

坂田 恭子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

本授業では、保育士や幼稚園および小学校の教員に必要な、様々な楽器の演奏技術および音楽を通しての指導に関する実践的技能の習得をめざす。また、習熟度に応じて「子どもの歌」の弾き歌いを初めとするさまざまな楽器の演奏技法を習得する。

到達目標

- ①ピアノの演奏技法を習得する。
- ②子どもの歌の伴奏および弾き歌いの演奏技法を習得する。
- ③移調奏、即興演奏、コード伴奏等の演奏技法を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育に生かすクラシック①奏法, 楽譜の解釈/子どもの歌検定①
- 第3回 保育に生かすクラシック②バロック/子どもの歌検定②
- 第4回 第1回ピアノ実技検定/保育に生かすクラシック③古典
- 第5回 保育に生かすクラシック④ロマン派/子どもの歌検定③
- 第6回 保育に生かすクラシック⑤近代・現代/子どもの歌検定④
- 第7回 子どもの動きに合わせた即興①/子どもの歌検定⑤
- 第8回 第2回ピアノ実技検定
- 第9回 子どもの動きに合わせた即興②/子どもの歌検定⑥
- 第10回 子どもの動きに合わせた即興③/子どもの歌検定⑦
- 第11回 イメージを音にする～効果音を使った展開/子どもの歌検定⑧
- 第12回 第3回ピアノ実技検定/イメージを楽譜にする～効果音を使った展開
- 第13回 イメージを楽譜にする～楽譜のいろいろ/子どもの歌検定⑨
- 第14回 まとめと発表準備
- 第15回 子どもの音楽活動を支える～実技発表と相互評価

評価方法

筆記試験 30%, 実技発表 30%, 毎回の授業課題 40%を総合する。

使用教材

井戸和秀編『こどものうた 100』チャイルド本社、石川良子著『はじめての楽譜の読み方』ケイ・エム・ピー、そのほか資料を配布する。

授業外学習の内容

毎時の授業課題について必ず予習復習を行うこと。毎時実技発表を行う。人前での演奏に慣れること。

備考

初等音楽演習 I (保育・教育の方法技術)

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

小学校の教員に必要な、様々な楽器の演奏技術及び音楽を通して、実践的技能の習得を目指す。

到達目標

ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能および伴奏法、その他楽器のアンサンブルを習得する。また、児童の活動に応じた移調奏、リズム伴奏、即興演奏等を習得する。各自が選んだ第二楽器を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 リズム伴奏：いろいろな奏法
- 第3回 コード進行 長調
- 第4回 コード進行 短調 第1回検定
- 第5回 輪唱の作り方
- 第6回 旋法を使った創作
- 第7回 子どもの動きと即興①
- 第8回 第2回検定
- 第9回 子どもの動きと即興②
- 第10回 子どもの動きと③
- 第11回 イメージを音にする：効果音を使った展開
- 第12回 イメージを楽譜にする：効果音を使った展開 第3回検定
- 第13回 いろいろな楽器：日本の伝統音楽
- 第14回 まとめと発表準備
- 第15回 児童の音楽活動を支える：実技発表と相互評価

評価方法

実技発表及び検定 50%、筆記試験 20% 毎回の授業課題 30%を総合する。

使用教材

資料を配布する

授業外学習の内容

ピアノ及び第二楽器課題は、毎日練習して授業に臨むこと。

備考

当該科目未履修者は、音楽検定合格を実習要件とする。課題曲は検定1ヶ月前に発表する。

幼児音楽演習Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

坂田 恭子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 1単位

講義目標

本授業では、器楽Ⅰに引き続き、保育士や幼稚園および小学校の教員に必要な、様々な楽器の演奏技術および音楽を通しての指導に関する実践的技能の習得をめざす。また、習熟度に応じて「子どもの歌」の弾き歌いを初めとするさまざまな楽器の演奏技法を習得する。

到達目標

- ①ピアノの演奏技法を習得する。
- ②子どもの歌の伴奏および弾き歌いの演奏技法を習得する。
- ③移調奏、即興演奏、コード伴奏等の演奏技法を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲①/初見奏①
- 第3回 保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲②/初見奏②
- 第4回 第1回ピアノ実技検定/保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲③
- 第5回 行事と伴奏音楽/初見奏③
- 第6回 保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲④/初見奏④
- 第7回 保育・教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲⑤/初見奏⑤
- 第8回 第2回ピアノ実技検定/メロディ譜の伴奏づけの方法
- 第9回 メロディ譜の伴奏づけ
- 第10回 メロディ譜の初見伴奏①
- 第11回 メロディ譜の初見伴奏②
- 第12回 第3回ピアノ実技検定/伴奏のアレンジ①
- 第13回 伴奏のアレンジ②
- 第14回 まとめ～保育・教育におけるピアノの役割と音楽的環境構成
- 第15回 表現を深める～実技発表と相互評価

評価方法

レポート 30%，実技発表 30%，毎回の授業課題 40%を総合する。

使用教材

井戸和秀編『こどものうた100』チャイルド本社、石川良子著『はじめての楽譜の読み方』ケイ・エム・ピー、そのほか資料を配布する

授業外学習の内容

- 「毎時の授業課題について必ず予習復習を行うこと」
- 「毎回実技発表を行う。人前での演奏に慣れること」

備考

初等音楽演習Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 1単位

講義目標

本授業では、器楽ⅠBに引き続き、小学校の教員に必要な様々な楽器の演奏技術および音楽を通しての指導に関する実践的技術の習得をめざす。また、習熟度に応じて弾き歌いを初めとするさまざまな楽器の演奏技法を習得する。

到達目標

- ①小学校音楽教材から、歌の範唱および範奏ができる。
- ②移調奏、即興演奏、コード伴奏等の演奏技法を習得する。
- ③器楽Ⅰに引き続き、第二楽器を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲 ①/初見奏 ①
- 第3回 教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲 ②/初見奏 ②
- 第4回 第1回検定 教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲 ③
- 第5回 行事と伴奏音楽/初見奏 ③
- 第6回 教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲 ④/初見奏 ④
- 第7回 教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲 ⑤/初見奏 ⑤
- 第8回 第2回検定/メロディ譜の伴奏づけの方法
- 第9回 メロディ譜の伴奏づけ
- 第10回 メロディ譜の初見伴奏 ①
- 第11回 メロディ譜の初見伴奏 ②
- 第12回 音楽における西洋の美・日本の美/第3回検定
- 第13回 音楽における西洋の美・日本の美：日本の伝統音楽
- 第14回 まとめ：学校教育における音楽的環境の構成
- 第15回 表現を深める：実技発表と相互評価

評価方法

資料を適宜配布する

使用教材

ピアノ及び第二楽器課題は、毎日練習して授業に臨むこと。

授業外学習の内容

- 「毎時の授業課題について必ず予習復習を行うこと」
- 「毎回実技発表を行う。人前での演奏に慣れること」

備考

当該科目未履修者は、音楽検定合格を実習要件とする。課題曲は検定1ヶ月前に発表する。

造形と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

幼児の造形は生活の中から生まれ、幼児の喜びと生きる力になっていること、保育者の適格な指導によって表現する意欲と力が高まることを理論と豊富な事例を通じて学んでいく。そして、子どもの特性や指導法について、教材研究・演習により実践に活かせるように進める。

到達目標

幼児の造形について確かな理解と技術を持ち、教育者としての資質を磨き、実践的指導力を身につけるよう理論と実際を学び、必要な技術を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 幼児の表現活動について
- 第2回 形象と色彩（1）幼児の色彩感覚について
- 第3回 形象と色彩（2）マチエの色彩と形態
- 第4回 壁面構成作成（1）保育室にある小物
- 第5回 壁面構成作成（2）人物を作る、子どもと母親
- 第6回 壁面構成作成（3）春の行事を作る、入園式
- 第7回 壁面構成作成（4）夏の行事を作る、プール
- 第8回 壁面構成作成（5）秋の行事を作る、運動会
- 第9回 壁面構成作成（6）秋の行事を作る、ハロウィーン飾り
- 第10回 壁面構成作成（7）冬の行事を作る、クリスマス
- 第11回 壁面構成作成（8）冬の行事を作る、お正月飾り
- 第12回 壁面構成作成（9）卒園式の案内を作る
- 第13回 牛乳パック工作
- 第14回 はじき絵－油と水－
- 第15回 総復習

評価方法

作品提出により評価する。また授業の取り組み姿勢も評価に反映させる。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の課題に関しては事前にプリントを配布する。
- ・ 手順を各学生が確認しておくこと。
- ・ 授業内でできなかった作品は授業後に完成させておくこと。

備考

積極的な参加を期待する。授業で指定された教材等は必ず準備すること。

身体と表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

坂田 恭子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

リトミックを体験する。身体の活動を通じて音楽を学習し、音楽に対する理解を深めるとともに、音楽を感じ自分らしい表現活動を行う。

到達目標

リトミックについて理解を深める。身体を用いて音（音楽）を表現することにより、音楽的基礎能力を高め豊かな表現活動ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 リトミックについて
- 第2回 身体の知覚、動きの基礎練習
- 第3回 歩行
- 第4回 様々なステップと即時反応（歩く、走る、スキップ、ギャロップ）
- 第5回 拍と数、テンポ
- 第6回 拍子、指揮とリズムステップ
- 第7回 音程、ダイナミクスの表現
- 第8回 フレーズの表現
- 第9回 様々な音楽的要素の表現
- 第10回 音楽作品の身体表現①（春の歌を用いて）
- 第11回 音楽作品の身体表現②（夏の歌を用いて）
- 第12回 音楽作品の身体表現③（秋の歌を用いて）
- 第13回 音楽作品の身体表現④（冬の歌を用いて）
- 第14回 音楽作品の身体表現⑤（わらべうたの歌を用いて）
- 第15回 発表、まとめ

評価方法

授業、課題への取り組み、発表を総合的に評価する。

使用教材

講義内で適宜指示する。

授業外学習の内容

次回の授業で使用する楽曲の弾き歌いができるようにしておくこと。

備考

ことばと表現Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 1単位

講義目標

さまざまな児童文化財を製作、検討する中で、言葉の成り立ちや子どもの言葉の学びについて理解する。また、言語教材を用いた指導案を作成し、検討することを通して実践力を養う。

到達目標

- ・乳幼児期の言語教育の目標やあり方を理解するとともに、乳幼児期の言葉の発達を踏まえた適切な言語教材について理解する。
- ・保育の中で用いられる教材や児童文化財について言葉の成り立ちや学びについて理解する。
- ・言語教材を用いた指導案を作成する中で、具体的に活動の展開を考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 領域の考え方と保育内容「言葉」
- 第2回 言葉を育てる環境とは
- 第3回 遊びの中の言葉（イメージを広げる、考えを深める）
- 第4回 生活の中の言葉（聞く、話す、伝え合う）
- 第5回 保育現場における絵本の意味
- 第6回 読み聞かせの実践方法
- 第7回 指導案作成（ねらい・内容）
- 第8回 指導案作成（活動の展開）
- 第9回 指導案の検討①（教材研究）
- 第10回 指導案の検討②（ねらい）
- 第11回 指導案の検討③（導入）
- 第12回 指導案の検討④（活動の展開）
- 第13回 日常生活を中心とした保育者の援助と関わり
- 第14回 文字などへの興味・関心を育てる環境とは
- 第15回 小学校「国語科」との連携、まとめ

評価方法

課題作品、レポート 40%、課題（指導案）40%、平常点の総合評価 20%

使用教材

久富陽子編「保育実技」萌文書林 2002、幼稚園教育要領（文部科学省）、保育所保育指針（厚生労働省）

授業外学習の内容

ことばに関する教材、児童文化財について、日頃から触れる機会をもつこと。

備考

受講資格：「ことばと表現Ⅰ」を受講後に履修すること。

在宅保育論（保育・教育の方法技術）

担当者

富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

「家庭訪問保育（在宅保育）」とは、保育所などの施設ではなく、乳幼児の生活の基盤である個々の家庭で行う保育のことである。同じ保育の名が付いているものの、家庭訪問保育は施設での保育とは異なる知識や技能が必要となる。本講義では、家庭訪問保育者（ベビーシッター）として不可欠な知識や技能を体系的に学ぶ。

到達目標

- ①家庭訪問保育の歴史や役割、現状について理解する。
- ②施設における保育との違いについて理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 児童家庭福祉における家庭訪問保育
- 第2回 家庭訪問保育の社会的背景、役割、歴史
- 第3回 家庭訪問保育の現状と課題
- 第4回 家庭訪問保育の実務
- 第5回 家庭訪問保育における子ども理解
- 第6回 家庭訪問保育における保育マインド
- 第7回 家庭訪問保育における子育て支援
- 第8回 家族とのかかわり方
- 第9回 さまざまな家庭訪問保育
- 第10回 家庭訪問保育における健康支援
- 第11回 家庭訪問保育における事故の予防と対応
- 第12回 家庭訪問保育における乳幼児の栄養と食事
- 第13回 家庭訪問保育における保育技術
- 第14回 ベビーシッターのマネジメント
- 第15回 まとめ

評価方法

試験（70%）、授業参画度（30%）

使用教材

巷野悟郎監修・全国保育サービス協会編集
『在宅保育論 第2版—家庭訪問保育の理論と実践』中央法規、2013年

授業外学習の内容

指定したテキストを事前に読んでおくこと。

備考

授業の進行や他の学生の学習を妨げたりする者は受講を認めない。

家庭支援論（保育・教育の方法技術）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

子育て家庭を取り巻く社会的状況の変化や子育て家庭の支援体制、多様なニーズに応じた支援の展開と関連機関の連携について理解し学ぶ

到達目標

家庭の意義と機能、役割、子育て家庭への支援について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 家庭の意義と機能
- 第3回 家庭支援の必要性について
- 第4回 保育士等が行う家庭支援の原理
- 第5回 現代家庭における人間関係
- 第6回 地域社会の変容と家族支援
- 第7回 男女共同参画社会とワークバランス
- 第8回 子育て家庭の福祉を図る為の社会資源
- 第9回 子育て支援施策・次世代育成支援の施策の推進
- 第10回 子育て支援サービスとその課題
- 第11回 保育所入所児童の家庭支援
- 第12回 地域の子育て家庭への支援
- 第13回 要保護児童等およびその家庭に対する支援
- 第14回 子育て支援における関係機関と連携
- 第15回 まとめ

評価方法

授業前の予習、授業の積極的参加、授業後の感想、試験を表号的に評価する。

使用教材

山本伸晴・白幡久美子編集「保育士をめざす人の家庭支援」(株みらい 2010 参考書籍)

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返りを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

事前の予習および積極的な授業参加、授業後の感想の記述を行い家庭支援の具体的な関わりについて学んでほしい。授業で学んだ内容については復習し理解を深めること

親子遊び論（保育・教育の方法技術）

担当者

今井 麻美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

親子関係を多角的な視点から学び、理解を深める。さらに、現代の親子関係の在り様と保育実践とを結び付けて考える。

到達目標

- ・親子関係に対する自分自身のものの見方を相対化し、多角的に捉えることができる。
- ・現代の親子関係の在り様を理解し、それに対する援助方法について考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション：授業の概要と進め方
- 第2回 親子関係に対する自分自身のものの見方を相対化する
- 第3回 親子関係を多角的に理解する①（発達心理学における知見から）
- 第4回 親子関係を多角的に理解する②（比較文化的な視点から）
- 第5回 親子関係を多角的に理解する③（歴史的な視点から）
- 第6回 親子関係を多角的に理解する④（社会学的な視点から）
- 第7回 親子関係を取り巻く様々な言説
- 第8回 現代の親子関係の在り様と課題
- 第9回 保育者という立場からみた親子関係①（既習の内容を振り返る）
- 第10回 保育者という立場からみた親子関係②（援助方法を考える）
- 第11回 親子関係と保育者－子ども関係
- 第12回 親子での遊び
- 第13回 親子での遊びに対する援助
- 第14回 授業を通じた自分自身のものの見方の変化
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、課題への取り組み、学期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

適宜プリントを配布する

授業外学習の内容

- ・随時配布する文献、資料等を授業の予習として読んでくること。予習範囲については、授業内で指定する。

備考

- ・授業時間外を活用し、授業で求められる発表の準備をしっかりとした上で、授業へ臨むことを求める。

教育課程論（保育・教育の方法技術）

担当者

宮崎 州弘

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

意図的教育機関である学校における教育課程の意義、教育課程（教育内容）の移り変わり、教育課程編成の基準である学習指導要領の意味、教育課程にかかわる諸問題に触れながら教育課程の重要性を認識するとともに教育課程についての理解を深める。

到達目標

教育課程とは何か、それが教育観の相違によって変化していることを理解する。また現行の教育内容の特質を把握するとともに教育課程編成の概略を認識し教師としての資質を身につける。さらに教育課程編成の主体者としての意識を高める。

講義内容と講義計画

- 第1回 教育の意味と学校教育
- 第2回 学校教育と教育課程
- 第3回 戦前・戦中の教科課程
- 第4回 戦後教育課程の概観
- 第5回 1947年～1950年代の教育課程
- 第6回 1960年代・1970年代の教育課程
- 第7回 1980年代以降の教育課程
- 第8回 教育課程に関する教育法規
- 第9回 教育課程の基準（学習指導要領）
- 第10回 現行の教育課程
- 第11回 各学校における教育課程の編成（1）編成の一般方針
- 第12回 各学校における教育課程の編成（2）編成上の配慮事項
- 第13回 教育課程と総合学習＜VTR 上越市立大手町小＞
- 第14回 教育課程と学力問題（授業）＜VTR 伊那小学校＞
- 第15回 教育課程と今後の教育（まとめに代えて）・・・小論文＜VTR 船橋市立妙典小＞

評価方法

日頃の学習成果（小テストなど）50%、最終小論文（中間小論文を課す場合もある）50%とし、それを総合して評価する。なお欠席により小テストを受験できなかった場合は、自宅課題とし評点は8割とする。

使用教材

別途指示する

授業外学習の内容

- ・ 毎回、次回の授業資料（プリント）を配布するので事前に読んでおくこと。
- ・ 毎日、前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
- ・ 日頃から教育や子どもに関するニュースに注目して、できるだけ新聞記事の切り抜き（コピー）を収集しファイルしておくこと。

備考

カリキュラム論（保育・教育の方法技術）

担当者

富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

保育は意図的に実践を展開すべきものであり、教育課程や保育課程、計画や評価なしには成立しない。また、それらは所与のものではなく、長い歴史のなかで構想、構築されてきた。本講義では、保育の基本的な考え方を踏まえたカリキュラムの編成や計画、評価に関して理解を深める。

到達目標

- ①カリキュラムの変遷を理解する。
- ②保育におけるカリキュラムの意義を理解する。
- ③計画・評価のために必要な視点を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 カリキュラムはなぜ必要なのか？
- 第2回 ナショナル・カリキュラムの変遷① 歴史的経緯
- 第3回 ナショナル・カリキュラムの変遷② 現在の計画と評価
- 第4回 カリキュラム観の再構築① カリキュラム概念の成立過程
- 第5回 カリキュラム観の再構築② 保育カリキュラムの全体構造
- 第6回 基本計画のデザイン① 「教育課程」「保育課程」の性格と編成原理
- 第7回 基本計画のデザイン② 基本計画の編成手順
- 第8回 保育カリキュラムの実際① 自主編成史
- 第9回 保育カリキュラムの実際② 海外のカリキュラムの動向
- 第10回 実践の構想① 指導計画の意義、種類、作成手順
- 第11回 実践の構想② 指導計画の様式
- 第12回 カリキュラム評価のあり方① 評価の展開
- 第13回 カリキュラム評価のあり方② 保育記録のあり方
- 第14回 子ども理解と「要録」
- 第15回 まとめ

評価方法

試験（60%）、授業参加度（40%）

使用教材

『教育課程の理論—保育におけるカリキュラム・デザイン—』磯部裕子 萌文書林、2008年（改訂版）

授業外学習の内容

指定したテキストを事前に読んでおくこと。また、授業で扱える内容は限られているためテキスト、参考文献を使って理解を深めること。

備考

授業の進行や他の学生の学習を妨げたりする者は受講を認めない。

幼児教育指導論（保育・教育の方法技術）

担当者

内田 祥子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

幼児の主体的な活動を援助する幼児教育の方法を踏まえ、指導計画立案や教材研究、記録や評価の意義について理解を深める。様々な視聴覚機器の活用についても理解を深める。

到達目標

- ・ 幼児の主体性を中心に据えた保育方法について理解し、説明ができる。
- ・ 教材研究の意義を理解し、実際に展開できる。
- ・ 教材研究の内容を踏まえ、子どもの実態に配慮しながら指導計画を立案できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼児教育の方法とは（情報機器の活用を含む）
- 第3回 指導計画の意義
- 第4回 発達に応じた指導
- 第5回 子ども理解
- 第6回 教材研究とは（グループワーク）（情報機器の活用を含む）
- 第7回 教材研究とは（グループワーク）（情報機器の活用を含む）
- 第8回 教材研究ノート作成
- 第9回 教材研究ノート作成
- 第10回 教材研究ノート作成
- 第11回 教材研究ノート作成
- 第12回 教材研究ノート作成
- 第13回 指導案作成
- 第14回 指導案作成
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度・提出物・課題への取り組み・試験等を総合的に評価する

使用教材

幼稚園教育要領解説

授業外学習の内容

予習復習をしっかりと行い授業に臨むこと

備考

初等特別活動論（保育・教育の方法技術）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 1単位

講義目標

学校教育にはいわゆる学習指導の他に特別活動の指導領域があり、児童の教育に重要な役割を果たしている。この授業では、小学校教育において重要な位置を占めている特別活動について、その歴史・意味とともに、学習指導要領上の変遷を概観し、その上で、種々の行事・儀式等に関わる事項幅広く考察し、実践のあり方を述べる。

到達目標

わが国の学校では戦前から「特別活動」が行われていたこと、昭和22年版学習指導要領における特別活動の意義、現行学習指導要領上の学級活動実例、生徒会活動の実例、学校行事の実例、学校給食をめぐる事件、等をテーマに取り上げ、これらを小学校に焦点づけて理解し、実践力をつけるようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回 明治・大正・昭和戦前期の小学校課外活動
- 第2回 戦後初期の「自由研究」
- 第3回 「特別教育活動」から「特別活動」へ
- 第4回 小学校における学校行事
- 第5回 小学校におけるクラブ・部活動
- 第6回 小学校における学校保健・安全指導
- 第7回 小学校における給食指導
- 第8回 小学校における学校事故

評価方法

期間中行う2回の小テストに約70%、授業に対する貢献度等に約30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、途中で2回実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

特別活動は、学校における学習活動と並んで重要な役割を担い、わが国では明治初期の学校制度開始の時期から様々な形で行われてきたものです。いわゆる部活・行事・運動会・遠足・修学旅行等々がそれです。この授業ではそうした活動について、その歴史と実践を学びます。どうぞおいで下さい。

初等教育方法論（保育・教育の方法技術）

担当者

山崎 雄介

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 1単位

講義目標

教育方法の歴史、小学校教員の現状と教育方法、教育評価などについて理解する。学校の ICT（情報通信技術）化に対応できるように、情報機器及び教材の活用も含めた教育の方法及び技術を身につけ、ICT 活用授業を展開する実践力を養う。

到達目標

児童を取り巻く環境が変化しても、現場に適合した教育方法を自ら作り出す研究力、実践力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 小学校における教育方法の歴史と基本原理
- 第2回 小学校教育・教員の現状と教育方法
- 第3回 小学校における教材教具の活用
- 第4回 小学校における教育方法と学習形態、施設・設備
- 第5回 小学校における授業の計画と教育評価
- 第6回 小学校における視聴覚メディアとコンピュータ
- 第7回 小学校における学校の ICT 化と実践事例
- 第8回 私が実践したい教育方法(プレゼンテーション,まとめ)

評価方法

試験、授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容、発表会でのプレゼンテーション能力等を総合的に評価する。

使用教材

別途指示する

授業外学習の内容

小学校時代に使っていた教科書、ノートが残っていれば見直すこと。

備考

中等特別活動論（保育・教育の方法技術）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

学校教育にはいわゆる学習指導の他に特別活動の指導領域があり、生徒の教育に重要な役割を果たしている。この授業では、中学校教育において重要な位置を占めている特別活動について、その歴史・意味とともに、学習指導要領上の変遷を概観し、その上で、種々の行事・儀式等に関わる事項幅広く考察し、実践のあり方を述べる。

到達目標

わが国の学校では戦前から「特別活動」が行われていたこと、・昭和 22 年版学習指導要領における特別活動の意義、・現行学習指導要領上の学級活動実例、生徒会活動の実例、学校行事の実例、学校給食をめぐる事件、等をテーマに取り上げ、これらを中学校に焦点づけて理解し、実践力をつけるようにする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 明治・大正・昭和戦前期の課外活動
- 第 2 回 戦後初期の「自由研究」
- 第 3 回 「特別教育活動」から「特別活動」へ
- 第 4 回 中学校における学校行事
- 第 5 回 中学校におけるクラブ・部活動
- 第 6 回 中学校における学校保健・安全指導
- 第 7 回 中学校における給食指導
- 第 8 回 中学校における学校事故

評価方法

期間中行う 2 回の小テストに約 70%、授業に対する貢献度等に約 30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、途中で 2 回実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

特別活動は、学校における学習活動と並んで重要な意味を持つ活動で、明治初期に学校制度が確立して以来、わが国では種々の形で行われてきたものです。運動会・修学旅行・行事・部活・学級活動等々がそれです。この授業では、そうした活動に関し、その歴史や実践を学んでいきます。どうぞおいで下さい。

中等教育方法論（保育・教育の方法技術）

担当者

山崎 雄介

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 1単位

講義目標

中等教育における教育方法の歴史、中学校教員の現状と教育方法、教育評価などについて理解する。学校の ICT（情報通信技術）化に対応できるように、情報機器及び教材の活用も含めた教育の方法及び技術を身につけ、ICT 活用授業を展開する実践力を養う。

到達目標

生徒を取り巻く環境が変化しても、現場に適合した教育方法を自ら作り出す研究力、実践力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 中学校における教育方法の歴史と基本原理
- 第2回 中学校教育・教員の現状と教育方法
- 第3回 中学校における教材教具の活用
- 第4回 中学校における教育方法と学習形態、施設・設備
- 第5回 中学校における授業の計画と教育評価
- 第6回 中学校における視聴覚メディアとコンピュータ
- 第7回 中学校における学校の ICT 化
- 第8回 中学校における ICT 活用授業検討会(まとめ)

評価方法

試験、授業への取り組み、貢献度、提出された課題の内容、発表会でのプレゼンテーション能力等を総合的に評価する。

使用教材

別途指示する

授業外学習の内容

中学校時代に使っていた教科書、ノートが残っていれば見直すこと。

備考

国語科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

原 善

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

学習指導要領の3領域1事項のそれぞれの最も代表的な教科書教材を実際を使って、教材研究の在り方を検討する。また、新学習指導要領における言語活動例と指導事項の関連について、模擬授業を通して検証していく。

到達目標

小学校国語科の授業を実践するために必要な教材研究・授業構想・学習指導案・評価方法等について、具体的で実践的な力を身につけることで、小学校の「国語の教師」としての資質を確かなものにする。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス（自己紹介、学習上の留意点）
- 第2回 学習指導案の意義
- 第3回 説明的文章教材（「たんぼぼのちえ」）の指導案の書き方
- 第4回 説明的文章教材（「たんぼぼのちえ」）での模擬授業
- 第5回 文学的文章教材（「スイミー」）の指導案の書き方
- 第6回 文学的文章教材（「スイミー」）での模擬授業
- 第7回 文学的文章教材（「モチモチの木」）の指導案の書き方
- 第8回 文学的文章教材（「モチモチの木」）での模擬授業
- 第9回 韻文教材（「雪」等）の指導案の書き方
- 第10回 韻文教材（「雪」等）での模擬授業
- 第11回 「伝統的な言語文化」教材（「いなばのしろうさぎ」）の指導案の書き方
- 第12回 「伝統的な言語文化」教材（「いなばのしろうさぎ」）での模擬授業
- 第13回 「国語の特質に関する事項」教材（「修飾語」）の指導案の書き方
- 第14回 「国語の特質に関する事項」教材（「修飾語」）での模擬授業
- 第15回 まとめ

評価方法

作成した学習指導案、模擬授業への参加度・相互評価を中心に、毎回の授業での課題取り組み等の平常点を加味して評価を決める。

使用教材

小学校学習指導要領。毎回配布する教材プリント、模擬授業時に配布される学習指導案（第15回授業終了時まで、自身の返却された指導案と共に、各自手元に保存しておくこと）。

授業外学習の内容

指導案作りと模擬授業が中心になるので、当該教材の徹底した教材研究を行っておくこと。

備考

社会科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

影山 清四郎

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

初期社会科の問題解決学習論と今日の教育課程改革—アクティブ・ラーニング—と比較しながら、社会科の指導方法のあり方を理解し、授業をデザインする基礎的な力量を育成する。

到達目標

- ①社会科授業体験を振り返り、子どもが望む社会科授業像を理解する。
- ②優れた社会科実践にそれがどのように実現されているか説明できる。
- ③単元展開案をスケッチし、その一部を模擬授業形式で展開することによって社会科指導の基礎的な力量の獲得。

講義内容と講義計画

- 第1回 伝わることば、心に残ることば、伝え方で変わる印象。
- 第2回 社会科の考え方—初期社会科は？現在の教育課程改革では？共通と差異。（テキスト）
- 第3回 オープンキャンパスでの大学紹介の企画書づくり（授業構想力）
- 第4回 問題解決学習の理論と方法—テキストの実践から
- 第5回 学習形態—子どもが参加したくなる学習形態
- 第6回 ミニテスト（学習のまとめ）と学習指導要領の各学年の内容
- 第7回 優れた社会科教育実践紹介（中学年・テキストと配布資料）
- 第8回 同上（高学年）
- 第9回 グループで単元展開案と指導案の作成（テキスト）
- 第10回 模擬授業（3学年）
- 第11回 同上（4学年）
- 第12回 同上（5学年）
- 第13回 同上（6学年）
- 第14回 新聞を用いた授業
- 第15回 学習のまとめ

評価方法

出席と学習参加：40%、ミニテスト：20%、定期試験：40%

使用教材

- 「小学校社会科教育」（社会認識教育学会 編、2011年、学術図書出版、1800円＋税）
「小学校学習指導要領解説 社会科編」（文部科学省）

授業外学習の内容

テキストの指定された箇所を読み講義に参加すること。（事前に予告します）
配布された資料を読み、自己の考えをまとめて、翌週提出。
新聞記事に関する話し合いを適宜実施するので、事前に新聞を読んでおくこと（実施日は事前に予告します）

備考

算数科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

村崎 武明

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

四領域の内容と指導上のポイントを学ぶ。また指導の実践力を高めるために、指導案の作成とそれに基づく模擬授業の演習も行う。

到達目標

小学校算数の四領域について、その内容と数学的背景への理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 「数と計算」のポイント(1～3 学年)
- 第3回 「数と計算」のポイント(4～6 学年)
- 第4回 「量と測定」のポイント(1～3 学年)
- 第5回 「量と測定」のポイント(4～6 学年)
- 第6回 「図形」のポイント(1～3 学年)
- 第7回 「図形」のポイント(4～6 学年)
- 第8回 「数量関係」のポイント(1～3 学年)
- 第9回 「数量関係」のポイント(4～6 学年)
- 第10回 指導計画案の作成(1～3 学年)
- 第11回 指導計画案の作成(4～6 学年)
- 第12回 模擬授業の展開例
- 第13回 模擬授業と課題検討
- 第14回 授業実践の反省
- 第15回 まとめ

評価方法

小テスト、レポート、期末試験の結果、さらに授業での貢献度を総合的に判断する。

使用教材

講義の中で適宜指示する。

授業外学習の内容

毎回授業の最初に、前回授業に係る質問を受ける時間を設けるので、復習して質問内容を整理しておくこと。

備考

理科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

片山 豪

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校理科の授業における指導法を学習指導要領の内容をふまえ指導する。また、学生が授業を行うにあたって授業の計画、準備ができるように学習指導案の書き方を指導する。

到達目標

小学校理科の授業における指導法を学習指導要領の内容を学習する。また、学習指導案が書けるようになり、実感を伴った理科授業が行えるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 学習指導要領の総説，理科の目標及び内容
- 第2回 学年目標と学年内容の構成の考え方
- 第3回 学習指導案の書き方
- 第4回 指導内容（1） 第3学年 A 物質・エネルギー
- 第5回 指導内容（2） 第3学年 B 生命・地球
- 第6回 指導内容（3） 第4学年 A 物質・エネルギー
- 第7回 指導内容（4） 第4学年 B 生命・地球
- 第8回 学習指導案の検討
- 第9回 指導内容（5） 第5学年 A 物質・エネルギー
- 第10回 指導内容（6） 第5学年 B 生命・地球
- 第11回 指導内容（7） 第6学年 A 物質・エネルギー
- 第12回 指導内容（8） 第6学年 B 生命・地球
- 第13回 現職教員による実践紹介
- 第14回 模擬授業 A 物質・エネルギーの内容
- 第15回 模擬授業 B 生命・地球の内容

評価方法

期末試験，レポート及び課題，小テストを総合的に判断する

使用教材

小学校学習指導要領解説理科編，小学校理科教科書

授業外学習の内容

学習指導案を作成する。模擬授業の計画をする。小テストの学習をする。

備考

生活科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

宮崎 州弘

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

「生活」科の目標・内容を理解し、単元計画・指導計画の作成の仕方を学び、具体的な指導案を作成するとともに模擬授業を通して実践力をつけるようにする。

到達目標

- ・「生活」科の目標・内容を確認する。
- ・単元計画・指導計画を実際に作成できるようにする。
- ・特定の内容について、具体的な指導案を作成し、模擬授業を通して授業実践力をつける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活科の成立と意義
- 第3回 生活科の実際（栃木県・本幡小学校の事例）
- 第4回 生活科の実際（千葉県・八千代小学校の事例）
- 第5回 生活科の実際（有田和正先生の指導事例）
- 第6回 大学生の生活科体験（学内探検）
- 第7回 大学生の生活科体験（校舎外探検）
- 第8回 指導案例の検討
- 第9回 指導案の作成①素案づくり
- 第10回 指導案の作成②模擬授業用の指導案完成
- 第11回 模擬授業①1班～3班の発表（4班～12班は評価）
- 第12回 模擬授業②4班～6班の発表（1班～3班および7班～12班は評価）
- 第13回 模擬授業③7班～9班の発表（1班～6班および10班～12班は評価）
- 第14回 模擬授業④10班～12班の発表（1班～9班は評価）
- 第15回 まとめ

評価方法

活動や実践(80%)、最終まとめ(20%)

使用教材

文部科学省「小学校学習指導要領解説生活編」日本文教出版

授業外学習の内容

グループでの活動に積極的に取り組んでください。

備考

家庭科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

内田 幸子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校家庭科を指導するのに必要な基礎的な知識・技術を、講義や実習を通して学んだ上で、指導案を作成する。

到達目標

小学校家庭科の授業設計と教材開発に必要な知識と技術を身につけること。そのために、小学校家庭科の目標と内容を知り、授業のために必要な知識や技術を獲得し、教材開発を行ってみる。学習指導案を作成し、自己評価・他者評価を通して、小学校家庭科の授業ができるようになること。

講義内容と講義計画

- 第1回 小学校教育における家庭科教育とは
- 第2回 小学校家庭科の目標と内容(学習指導要領)
- 第3回 小学校家庭科の授業方法
- 第4回 小学校家庭科の学習指導案の検討
- 第5回 調理実習の指導計画の作成
- 第6回 小物づくりの指導計画の作成
- 第7回 教具作成と実習計画の作成
- 第8回 調理実習(レポート作成・授業外学習)
- 第9回 小物(ポケットティッシュペーパーカバー)づくり
- 第10回 実習の事後指導と指導計画の評価
- 第11回 さまざま指導方法の実践
- 第12回 小学校家庭科の授業設計と指導案の作成
- 第13回 小学校指導案の相互評価と意見交換
- 第14回 教材開発における留意点
- 第15回 小学校家庭科と子どもたちの生活課題の関連性の検討

評価方法

指導案の提出による評価、および試験の結果から総合的に評価する。

使用教材

文部省『小学校学習指導要領解説 家庭編』

授業外学習の内容

- ・学習指導案のグループでの作成を課題とする。
- ・指導案に盛り込む現代生活の問題点について広く情報に目を向け、収集しておく。

備考

uchida@takasaki-u.ac.jp

音楽科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

①幼稚園・小学校における音楽教育の目的と概要 ②実技指導の実際 ③幼稚園・小学校の音楽教育の歴史と音楽教育を取り巻く現状から、音楽指導の理論と実践を学ぶ。

到達目標

幼稚園・小学校における音楽指導の意義・目的を理解し、幼児・児童の音楽表現力を引き出す指導者としての知識・技術の習得、ならびに授業作りの基礎能力を養うことを目的とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼稚園及び小学校における音楽の位置づけと内容
- 第3回 子どもの発達と音楽表現
- 第4回 生活や遊びにおける音楽
- 第5回 歌を中心とした表現活動の指導
- 第6回 楽器を中心とした表現活動の指導：叩いて音を出す楽器
- 第7回 楽器を中心とした表現活動の指導：吹いて音を出す楽器 レポート課題提示
- 第8回 聴く活動の指導
- 第9回 聴く活動の評価
- 第10回 音楽作りの指導、レポート提出
- 第11回 各活動・各教科との関連
- 第12回 幼稚園・小学校音楽教育史概説
- 第13回 郷土芸能・日本の伝統音楽の指導
- 第14回 音楽の指導において教師に求められるもの
- 第15回 教材の範唱・範奏(発表)

評価方法

レポート 30%、実技発表 30% 毎回の授業課題・授業の貢献度 40%を総合する。

使用教材

文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』、教育芸術社初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法』音楽之友社

授業外学習の内容

毎時の予習及び範唱・範奏の練習を行い、授業に臨むこと。

備考

図画工作科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

富澤 秀文

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校の図画工作における、絵や工作などの表現活動を展開するための実践的な指導力の形成を目ざす。このために学習指導要領と現行の図画工作科教科書を照合させて、教科の実態を鮮明にする。また低・中・高学年の3学年にわたる年間指導計画の作成と、前年度の「図画工作」の授業で課題とした政策例を素材にした学習指導案の試作を通して、この教科の構造と特性の理解を確かなものにする。

到達目標

小学校図画工作科の内容と教科の特色を理解することにより、指導計画や学習指導案の作成ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 図画工作科の特質
- 第2回 学習指導要領の「総則」と「図画工作科」
- 第3回 図画工作科の内容と構成-第1学年及び第2学年
- 第4回 図画工作科の内容と構成-第3学年及び第4学年
- 第5回 図画工作科の内容と構成-第5学年及び第6学年
- 第6回 図画工作用教科書の検証
- 第7回 学習指導案の形式と内容
- 第8回 学習指導案の作成-「題材設定の考え方」
- 第9回 学習指導案の作成-「考察」の考え方
- 第10回 学習指導案の作成-「展開」の考え方
- 第11回 発表と討論
- 第12回 年間指導計画の形式と内容
- 第13回 年間指導計画の作成-第1～第3学年
- 第14回 年間指導計画の作成-第4～第6学年
- 第15回 まとめ

評価方法

課題のレポート 80%、授業時の姿勢 20%の比率で判定

使用教材

小学校学習指導要領解説「図画工作科編」 文部科学省 日本文教出版 85円

授業外学習の内容

次回の授業に向けての範囲は各回に指定するので予習をしておくこと。
レポート作成の遅れは授業外に自主的に取り組んで調整すること。

備考

TEL : 08013868517

体育科指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

山西 加織

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校学習指導要領における体育科の目標と内容を踏まえ、生涯にわたって運動に親しみ、心と体の健康を維持する態度を育むための指導法について学習する。各学年における運動領域や保健領域の授業づくりに関して、基本的な進め方を理解するとともに、指導計画の作成および教材づくり、評価など、授業を運営する能力を養う。

到達目標

小学校学習指導要領「体育科」の目標および内容について理解することができる。
各領域の内容と実践方法を習得する。
小学校体育科の学習指導案を作成することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校体育科の目標および内容
- 第3回 体育科学習指導案作成のポイント
- 第4回 教材づくりと学習指導案の作成 (1)低学年
- 第5回 教材づくりと学習指導案の作成 (2)中学年
- 第6回 教材づくりと学習指導案の作成 (3)高学年
- 第7回 教材づくりと学習指導案の作成 (4)保健領域
- 第8回 模擬授業 (1)体づくり運動
- 第9回 模擬授業 (2)器械・器具を使っての運動遊び、器械運動
- 第10回 模擬授業 (3)走・跳の運動遊び、走・跳の運動、陸上運動
- 第11回 模擬授業 (4)水遊び、浮く・泳ぐ運動、水泳
- 第12回 模擬授業 (5)ゲーム、ボール運動
- 第13回 模擬授業 (6)表現リズム遊び、表現運動
- 第14回 模擬授業 (7)保健
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加度と授業態度 60%、グループワークへの貢献度 10%、レポート課題 30%

使用教材

「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省。必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

小学校学習指導要領体育科を事前に読んでおくこと。また、取り上げた運動領域について教材研究を行い、指導案作成や模擬授業に生かすこと。

備考

実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ（体育館用、外履き用）を必ず着用すること。

英語科指導法 I (保育・教育の方法技術)

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

第2言語習得理論に基づいて、4技能の指導を効率的に行うための指導技術と指導方法を学ぶ。また、学習指導要領に示された内容をふまえた指導ができることを目標とする。

到達目標

4技能のさまざまな習得方法を自ら学び、4技能の指導方法と学習指導要領に基づいて学習者のレベルに応じた実践的指導ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 英語教員に求められること
- 第2回 英語の音声と指導方法(聞き方)
- 第3回 英語の発音と指導方法(発音の方法)
- 第4回 概要や要点を聞き取る「聞くこと」の指導方法
- 第5回 テーマについてスピーチができる「話すこと」の指導方法
- 第6回 英文読解理論と「読むこと」の指導
- 第7回 書かれた内容や考え方をとらえる「読むこと」の指導方法
- 第8回 パラグラフ・ライティングと「書くこと」の指導方法
- 第9回 文のつながりに注意して正しい文章を書く「書くこと」の指導方法
- 第10回 テストの作成と評価方法
- 第11回 学習指導要領と学習指導案の作成
- 第12回 英語授業の実際
- 第13回 授業演習(1)中学校1年生の授業
- 第14回 授業演習(2)中学校2年生の授業
- 第15回 授業演習(3)中学校3年生の授業

評価方法

4技能の習得、授業演習、授業内の貢献度等を総合的に考慮して評価する。

使用教材

New Horizon English Course 1・2・3 東京書籍、『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』望月明彦他、大修館書店、2012、2,300円+税。

授業外学習の内容

テキストの熟読、予習と復習、学習指導案作成など授業演習のための準備を行う。

備考

辞書必携 中村 (nakamura-h@takasaki-u.ac.jp)

英語科指導法Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

英語科指導法Ⅰをふまえ、中学校の英語科教員になるために、必要な英語教授法と英語科指導に関する知識を身につけることを目標とする。

到達目標

さまざまな中学校の英語教育の実態に対応できるように、学習指導要領をふまえて学習指導案の作成、教材作成、そして授業実践の能力を高めることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 日本の英語教育
- 第2回 英語教授法
- 第3回 教材作成と指導方法
- 第4回 学習指導要領と「CAN-DO リスト」
- 第5回 題材感・生徒の実態・評価の観点・評価規準・指導計画
- 第6回 学習指導案(1)（日本語）
- 第7回 学習指導案(2)（英語）
- 第8回 学習指導案(3)（Team-Teaching）
- 第9回 授業演習(1) Team-Teaching の授業
- 第10回 授業演習(2) Listening 中心の授業
- 第11回 授業演習(3) Speaking 中心の授業
- 第12回 授業演習(4) Reading 中心の授業
- 第13回 授業演習(5) Writing 中心の授業
- 第14回 授業演習(6) Oral Communication 中心の授業
- 第15回 授業演習(7) All in English の授業

評価方法

授業演習、授業内の貢献度等を総合的に考慮して評価する

使用教材

『改訂版 新学習指導にもとづく英語科教育法』、望月明彦他、大修館書店、2012年、2,300円+税

授業外学習の内容

指導案の作成、教材作成など授業演習のための準備を行う。

備考

辞書必携 中村（nakamura-h@takasaki-u.ac.jp）

英語科教材研究 I (保育・教育の方法技術)

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

実際の教授方法とも関連して、どのような教材を用いれば、効率的かつ興味をもちながら英語を学べるかを考える。授業では、講義だけでなく、受講生による発表や討論も行い、紙媒体の教材だけでなく、デジタル教材、e-learning 教材への理解を深めることを目標とする。

到達目標

どのような教材をどのような場面で使用すれば、教育の成果が最大限出るのか、その視点を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス・英語科における教材について
- 第2回 「教科書を教える」と「教科書で教える」
- 第3回 教材研究の方法 (1): 教材分析
- 第4回 教材研究の方法 (2): 教材とシラバス
- 第5回 教材研究の方法 (3): 言語材料とタスク
- 第6回 リーディング教材研究
- 第7回 リスニング教材研究
- 第8回 スピーキング教材研究
- 第9回 ライティング教材研究
- 第10回 第2回～第9回のおまとめ
- 第11回 小学校外国語活動と教材
- 第12回 中学校英語科教材の分析 (1): 言語材料について
- 第13回 中学校英語科教材の分析 (2): タスクについて
- 第14回 デジタル教材と e-learning 教材
- 第15回 第11回～第14回のおまとめ

評価方法

授業への参加度、発表 (50%)、期末レポート課題 (50%) で総合的に評価する。

使用教材

講義内で適宜資料を配布する。

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、教材についての理解を深めること。

備考

授業への積極的な参加を望みます。辞書 (電子辞書可) を持参してください。

英語科教材研究Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

嶋田 和成

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

文部科学省の検定教科書を軸に、それぞれの内容、使い方等について理解を深め、教科書のもととなるシラバス、言語材料、タスク、トピックなどについても研究する。授業では、講義だけでなく、受講生による発表や討論も行う。また、教育実習や実際に教員になったときに役立つように、教材作成、模擬授業も行う。

到達目標

「英語科教材研究Ⅰ」に引き続き、教科書を様々な観点から分析したり、教材の利点・欠点を述べたりすることができる。また、教科書に沿った補助教材を作成することができるようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教科書のアダプテーション（改変）
- 第3回 教材の言語材料
- 第4回 教材のタスク
- 第5回 教材のトピック
- 第6回 リーディング教材を作ってみよう
- 第7回 リスニング教材を作ってみよう
- 第8回 スピーキング教材を作ってみよう
- 第9回 ライティング教材を作ってみよう
- 第10回 教材と授業の組み立て方
- 第11回 模擬授業（1）：リーディング教材を主とした授業
- 第12回 模擬授業（2）：リスニング教材を主とした授業
- 第13回 模擬授業（3）：スピーキング教材を主とした授業
- 第14回 模擬授業（4）：ライティング教材を主とした授業
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加度、発表（50%）、期末レポート課題（50%）で総合的に評価する。

使用教材

講義内で適宜資料を配布する。

授業外学習の内容

授業内容の予習・復習を行い、教材についての理解を深めること。

備考

授業への積極的な参加を望みます。辞書（電子辞書可）を持参してください。

理科実験（保育・教育の方法技術）

担当者

片山 豪

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

小学校理科の授業における観察・実験及びその指導法を指導する。そして、学生が授業を行うにあたって観察・実験を用いた授業の計画、準備ができるようにする。また、博物館や科学学習センターなどと連携、協力を測りながら、それらを積極的に活用する態度を養う。

到達目標

小学校理科の授業における観察・実験及びその指導法を学習する。そして、学生自ら観察・実験における既存の教材教具の問題点を改善し、新たな教材教具の開発ができる能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 観察・実験の方法、教材教具の開発方法
- 第2回 身近な昆虫の観察（野外実習）
- 第3回 身近な昆虫の観察（野外実習）
- 第4回 実験の指導（1） 第3学年 A 物質・エネルギーの内容
- 第5回 実験の指導（2） 第3学年 B 生命・地球
- 第6回 実験の指導（3） 第4学年 A 物質・エネルギーの内容
- 第7回 実験の指導（4） 第4学年 B 生命・地球
- 第8回 実験の指導（5） 第5学年 A 物質・エネルギーの内容
- 第9回 実験の指導（6） 第5学年 B 生命・地球
- 第10回 実験の指導（7） 第6学年 A 物質・エネルギーの内容
- 第11回 実験の指導（8） 第6学年 B 生命・地球
- 第12回 博物館や科学学習センターなどの利用（1） 講義
- 第13回 博物館や科学学習センターなどの利用（2） 実践
- 第14回 博物館や科学学習センターなどの利用（3） まとめ
- 第15回 教材教具案の発表会（学生の開発した教材教具案）

評価方法

レポート及び課題を総合的に判断する

使用教材

小学校学習指導要領解説理科編、小学校理科教科書

授業外学習の内容

自ら観察・実験の教材教具を開発する

備考

野外観察に出たり、博物館や科学学習センターなどに出向いたりすることがある。
現職教員による指導をお願いすることもある。

初等道徳教育論（保育・教育の方法技術）

担当者

大石 桂子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

道徳教育において目的となる人間形成は、学校教育活動全体の目標であると同時に、家庭、社会全体との強い関連性をもった根幹的課題である。価値の多様性が進行する現代、道徳教育の目標と課題は何か。本講義では道徳教育の歴史、道徳性に関する基礎的知識を習得するほか、児童・生徒の発達段階に応じた教育課題と教育法の習得、指導案作成と模擬授業といった演習を通して、道徳教育に必要な素養と指導力を養う。

到達目標

初等道徳教育に求められる理論的・実践的知識を獲得する。また、学校教育全体における道徳教育の位置づけを理解し、生徒の発達に応じた授業づくりと実践のための基礎力を培う。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス:道徳教育の目標
- 第2回 道徳教育の変遷①教育勅語と修身科
- 第3回 道徳教育の変遷②教育基本法、「こころのノート」等
- 第4回 学習指導要領と道徳教育の位置づけ
- 第5回 道徳性の発達論的理解:ピアジェ、コールバーグ等
- 第6回 道徳性の社会学的理解:デュルケーム、ロールズ等
- 第7回 初等道徳教育の特性と道徳的課題①公德心と社会的態度
- 第8回 初等道徳教育の特性と道徳的課題②生命の尊重と人権
- 第9回 初等道徳教育の特性と道徳的課題③自律性の獲得
- 第10回 道徳教育と家庭、地域社会の関わり
- 第11回 道徳教育の実践①指導方法と実践事例の分析
- 第12回 道徳教育の実践②教材研究
- 第13回 道徳教育の実践③指導案の作成
- 第14回 道徳教育の実践④模擬授業
- 第15回 総括

評価方法

期末試験（60%）、指導案の作成および模擬授業（40%）を総合して評価する。

使用教材

文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳編』東洋館出版社

授業外学習の内容

テキストの指定ページを熟読し、予習すること。

備考

本講義は、道徳教育の基礎理念を理解するだけでなく、実際の教育の場に相応しい授業づくりと実践を目的としたものである。参加者は、常に教育への高い目標意識と熱意をもって、各課題に取り組んでほしい。

中等道徳教育論（保育・教育の方法技術）

担当者

大石 桂子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

道徳教育で求める人間像は、自他共によりよく生きようとする生き方を主体的に考え、実践していくことができる人間の育成である。教育基本法、学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念等を学校、家庭、地域社会の中で子どもたちに培い、個性豊かな文化の創造と民主的な社会と国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある日本人を育成することが大切である。そのために必要とする指導者としての資質と指導力の素地を理論と実践を通して身につけさせたい。

到達目標

道徳教育に求められる基礎的知識を獲得し、道徳教育の実践において必要となる資質と指導力を身につけること。

講義内容と講義計画

- 第1回 道徳教育の目標：現在の社会状況と道徳教育の重要性
- 第2回 日本における道徳教育の変遷
- 第3回 学習指導要領と学校における道徳教育の位置づけ
- 第4回 道徳性の発達論的理解：ピアジェ、コールバーグ等
- 第5回 道徳性の社会学的理解：デュルケーム、ロールズ等
- 第6回 中等道徳教育の特性と道徳的課題：社会的連帯、国際的視野の獲得、自律性等
- 第7回 道徳教育の指導方法
- 第8回 授業のねらいと実態の取り方、副読本、自作資料、テレビ資料等の活用法
- 第9回 指導案の書き方
- 第10回 授業の構想づくりと指導案の作成
- 第11回 指導案の発表と意見交換
- 第12回 模擬授業と授業後の検討会
- 第13回 全体計画と年間指導計画
- 第14回 学校、家庭、地域社会の連携による道徳教育
- 第15回 道徳的実践の指導

評価方法

期末試験（60%）、指導案作成および模擬授業（40%）を総合して評価する。

使用教材

文部科学省「中学校学習指導要領解説道徳編」

授業外学習の内容

テキストの指定ページを熟読し、予習すること。

備考

本講義は、道徳教育の基礎理念を理解するだけでなく、実際の教育の場に相応しい授業づくりと実践を目的としたものである。参加者は、常に教育への高い目標意識と熱意をもって、各課題に取り組んでほしい。

相談援助（保育・教育の方法技術）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 1単位

講義目標

具体的な相談援助について方法・技術を理解し、支援展開を実践的に行うことができる

到達目標

保育におけるソーシャルワークの応用と事例検討・分析を通じて、対象者への理解を深める

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 相談の理論・意義
- 第3回 相談機能とソーシャルワーク
- 第4回 保育とソーシャルワーク
- 第5回 相談援助の対象
- 第6回 相談援助の過程
- 第7回 相談援助の技術・アプローチ 箱庭療法体験
- 第8回 相談援助の計画・記録・評価
- 第9回 相談援助の関係機関との協働
- 第10回 多様な専門職との連携
- 第11回 社会資源の活用・調整・開発
- 第12回 事例検討・分析①虐待予防と対応
- 第13回 事例検討・分析②障害のある子どもとその保護者への支援
- 第14回 事例検討・分析③ロールプレイとフィードバック
- 第15回 まとめ

評価方法

授業前の予習と、授業後の感想、積極的な授業への参加、試験を総合的に判断する

使用教材

杉本敏夫・豊田志保編著「相談援助」2011 保育出版社

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的な授業参加、事前の予習、ロールプレイで実践的に学び、授業後の感想をまとめ、自分の実践力にしてほしい。授業後の復習で更に学習の理解を深めること。

保育相談Ⅰ（保育・教育の方法技術）

担当者

内田 祥子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 1単位

講義目標

保育相談、支援の意義と原則および保育者支援の基本を理解出来るようにする。

到達目標

保育相談支援の実際を学び、保育所など児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保護者に対する保育相談支援の意義
- 第3回 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
- 第4回 子どもの最善の利益と福祉の重視
- 第5回 子どもの成長の喜びの共有
- 第6回 保護者の教育力の向上に関する支援
- 第7回 信頼関係を基本とした受容的な関わり、自己決定、守秘義務
- 第8回 地域支援の活用と関係機関の連携・協力
- 第9回 保育に関する保護者に対する指導
- 第10回 保護者の支援内容・方法・技術
- 第11回 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
- 第12回 保育所における保育相談支援の実際
- 第13回 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
- 第14回 児童福祉施設などにおける保育相談支援
- 第15回 まとめ

評価方法

授業の予習および授業後の感想、試験を総合的に判断する

使用教材

「杉本敏夫監修 編著 豊田志保 考え、実践する保育相談支援 保育出版社 2012」

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返りを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

保育相談Ⅱ（保育・教育の方法技術）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 1単位

講義目標

子どもたちの健やかな成長・発達のために、どのように保護者支援をおこなえばよいのかを、個人ワークやグループワーク及び発表などを行いながら学んでいく。

到達目標

- ・ 保育相談活動の意義や相談進行上の基本的なルールなどを理解する。
- ・ 保育活動における保護者支援の実際（知識や方法論など）について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション -相談とカウンセリングの違い-
- 第2回 相談者の基本姿勢
- 第3回 相談活動進行上の注意点
- 第4回 保護者の保育者への期待、ラポール
- 第5回 保護者への保育相談支援1 -子どもの権利擁護、相談内容、問題点の把握と障害の受容-
- 第6回 保護者への保育相談支援2 -感情と行動の結びつき-
- 第7回 保護者への保育相談支援3 -コミュニケーション場面での話の要素、話すことの意味、願いや期待-
- 第8回 保護者への保育相談支援4 -非言語メッセージの意味について考えてみよう-
- 第9回 子どもを取りまく諸問題について考えてみよう1 親子関係に起因する問題
- 第10回 子どもを取りまく諸問題について考えてみよう2 父母の役割に係わる問題
- 第11回 事例検討1 前問題行動をとまなう子ども支援
- 第12回 事例検討2 集団生活に係わる不適応行動の子ども支援
- 第13回 事例検討3 こころの問題が考えられる子ども支援
- 第14回 事例検討4 心身の発達状況に注意をしたい子ども支援
- 第15回 関係相談機関などとの連携・協力、まとめ

評価方法

評価は、個人ワークやグループワーク課題の提出状況および期末試験などを総合しておこなう。

使用教材

テキストは使用しない。授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

日頃から、保育相談活動に関心を持つこと。

備考

グループワークなどで得た情報のプライバシー保持をすること。

幼児教育運営論（保育・教育の方法技術）

担当者

高梨 瑠子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

入学以来学習してきた幼児教育・保育に関する内容の集大成として、これからの幼児教育の在り方を、総合的、実践的に学ぶ。

到達目標

- 幼児教育の多様性を理解し、それらの特性に応じた望ましい在り方を学ぶ。
- 幼児教育に関わる社会の動向を踏まえつつ、これからの保育の役割・保育機関の役割を追究する。
- 質の高い保育、それを実現できる保育者の在り方を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス 幼児教育運営とは何かを概観する
- 第2回 幼児教育の多様性～その現状と課題～
- 第3回 幼児教育に関わる現在の社会の動向～制度の変化～
- 第4回 幼児教育に関わる現在の社会の動向～認定こども園～
- 第5回 ビデオカンファレンス～個の理解～
- 第6回 ビデオカンファレンス～集団の理解～
- 第7回 「遊び」が意味すること
- 第8回 保育者の資質～自らを高めるための研修～
- 第9回 保育者の資質～保護者との関係づくり～
- 第10回 幼児教育と小学校教育との接続・連携
- 第11回 特別な支援を必要とする子どもの保育
- 第12回 自分が描く保育プラン（学級経営に視点を置いたプラン作成）1
- 第13回 自分が描く保育プラン（学級経営に視点を置いたプラン作成）2
- 第14回 自分が描く保育プラン（学級経営に視点を置いたプラン作成）3
- 第15回 まとめ（発表とレポート提出）

評価方法

- 授業参加の姿勢（積極性・発言・提出物の期限厳守など）
- 提出物の充実度（最終レポート 50% その他の提出物 30%、授業参加の姿勢 20%）
- 講義初回に詳しく説明をする。

使用教材

必要に応じてプリント等を配布する。

授業外学習の内容

他の様々な教科目の中で学んできたことを有効に活用しつつ、自分から進んで取り組むことを期待している。そのため、調べ学習を課して、次の時間に発表するという機会を多く作るので、積極的に準備し授業に臨むこと。

備考

特になし

保育内容指導法（保育・教育の方法技術）

担当者

今井 麻美 富田 純喜

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

保育内容5領域を総合的に実践するための具体的な方法に対する理解を深める。

到達目標

子どもの実態に応じた保育内容を展開する方法について、実践的に考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション：授業の概要と進め方
- 第2回 子どもの実態に応じた保育内容とは
- 第3回 ねらいに即した遊びを考える①（グループディスカッション）
- 第4回 ねらいに即した遊びを考える②（グループ発表）
- 第5回 遊びに用いる素材の様々な可能性を考える（グループディスカッション）
- 第6回 遊びに用いる素材の様々な可能性を考える（グループ発表）
- 第7回 ねらいに即した遊びの展開を考える①（グループディスカッション）
- 第8回 ねらいに即した遊びの展開を考える②（グループ発表）
- 第9回 指導案の作成
- 第10回 指導案に磨きをかける①（グループディスカッション）
- 第11回 指導案に磨きをかける②（指導案の修正）
- 第12回 作成された指導案の教材研究①（個人）
- 第13回 作成された指導案の教材研究②（グループディスカッション）
- 第14回 作成された指導案の教材研究③（グループ発表）
- 第15回 教材研究を踏まえた指導案の作成

評価方法

授業態度、課題への取り組み、学期末テストにより総合的に評価する。

使用教材

適宜プリントを配布する

授業外学習の内容

授業で求められる課題の準備を必要に応じて行うこと。

備考

子ども理解の理論と方法（保育・教育の方法技術）

担当者

今井 邦枝

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

保育において保育者は、子ども一人一人の特性に応じ発達の課題に即した指導をおこなっていく。そのためには、子ども一人一人を理解し、常にその姿を捉えていくことが重要である。本講義では、様々な側面から子どもを理解するための基礎的な知識を学ぶ。そして具体的な事例や実習での日誌を検討することを通して、子どもを理解するための視点を身に付けていく。

到達目標

- ・ 子ども理解のための視点を身に付ける。
- ・ 実習日誌を検討することを通して、子ども理解を深めるための記録方法を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 子ども理解の重要性
- 第2回 子ども理解のための基礎理論①(身体・運動発達について)
- 第3回 子ども理解のための基礎理論②(言語・認知発達について)
- 第4回 子ども理解のための基礎理論③(感情・社会性の発達について)
- 第5回 子ども理解のための基礎理論④(遊び)
- 第6回 子ども理解のための基礎理論⑤(仲間関係)
- 第7回 記録のとり方①(環境図)
- 第8回 記録のとり方②(個別記録)
- 第9回 記録のとり方③(エピソード記述)
- 第10回 実習日誌の検討①(遊びの視点から)
- 第11回 実習日誌の検討②(仲間関係の視点から)
- 第12回 実習日誌の検討③(保育者の援助の視点から)
- 第13回 指導計画における記録の重要性
- 第14回 子ども理解を深めるための保育者の学び①(継続的な記録の重要性)
- 第15回 子ども理解を深めるための保育者の学び②(話し合うことの重要性)

評価方法

試験 (70%)、課題 (20%)、平常点 (10%)

使用教材

文部科学省「幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価」2010、「幼稚園教育指導資料集第5集 指導と評価に生かす記録」

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業内容にかかわる確認テストを実施するので、授業のポイントについて復習をしておくこと。

備考

小テストを実施するので、復習をすること。

幼小教育相談（保育・教育の方法技術）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 必修 2単位

講義目標

幼児や児童、その保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を説明する。この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。

到達目標

幼児や児童、その保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 カウンセリングとは何か
- 第3回 アセスメント(1)見立てのための聞き取り
- 第4回 アセスメント(2)心理検査・神経学的所見
- 第5回 読み書きに関する相談
- 第6回 忘れ物・紛失が多いという相談
- 第7回 身体に関する相談
- 第8回 食事に関する相談
- 第9回 友達に関する相談
- 第10回 家族に関する相談
- 第11回 近親者の病気・死別に関する相談
- 第12回 虐待の疑い
- 第13回 災害・事件が起きたら
- 第14回 カウンセリングと守秘義務
- 第15回 まとめ:諸機関との連携

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。講義を妨害し、他の受講生の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

原田眞理（編著）「教育相談の理論と方法 小学校編」玉川大学出版部 2016年 2,400円＋税

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。

中学校教育相談（保育・教育の方法技術）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

教育場面で、教師が協力しあい、生徒や保護者などとの間に効果的な関係を持って指導や支援ができるような基礎学習をおこなう。本科目では、相談対象として青年期前期の生徒とその保護者を想定し、その心身および社会性の発達過程で生じやすい問題行動への対処についても考えていく。

到達目標

- ・中学生およびその保護者を対象とした学校教育相談活動に必要な基礎事項が理解できるようになる。
- ・向き合う生徒、保護者や同僚などの気持ちを十分に配慮した関係づくりの大切さに気づき、さらに、行動できるようになる。
- ・言語的メッセージや非言語的メッセージへの感受性を高める（コミュニケーション能力の向上）。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション-相談、面接、そして、カウンセリングとは-
- 第2回 カウンセリングの基礎(1):対人行動パターン
- 第3回 カウンセリングの基礎(2):コミュニケーション場面で話すことの意味
- 第4回 カウンセリングの基礎(3):非言語メッセージの意味について
- 第5回 教師のこころの健康-学校教育活動への影響、生徒への影響など-
- 第6回 学校教育相談活動とスクールカウンセラー活動-それぞれへの期待と誤解-
- 第7回 学校教育相談活動での教育相談担当、学級担任や養護教諭などの役割
- 第8回 学校内での連携、外部の関係相談機関や小学校などとの連携・協力
- 第9回 保護者との関わり方、保護者との連携
- 第10回 教師が生徒との面接や相談活動で陥りやすい問題-話を聴くということ-
- 第11回 生徒の問題行動への対処 1-学習内容に関わる問題-
- 第12回 生徒の問題行動への対処 2-いじめ、引きこもりなど人間関係に関わるような問題-
- 第13回 生徒の問題行動への対処 3-攻撃性、非行の問題に対して-
- 第14回 電話やメールを介した相談
- 第15回 効果的な人間関係を作るための配慮事項、まとめ

評価方法

評価は、個人ワークやロールプレイ等のグループワーク課題の提出状況および期末試験等を総合しておこなう。

使用教材

授業時に指示する

授業外学習の内容

授業時間以外にも様々な課題があります。

備考

本科目では、いくつかの課題に取り組んでいただく予定です。授業に対する積極的な態度が望まれます。

生徒指導論（保育・教育の方法技術）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

小学校における生徒指導の意味と意義を説くことから始め、生徒指導の実際を述べ、さらに、様々な生徒指導場面における教師の具体的な指導事例を取り上げて授業を展開していく。

到達目標

小学校において教師が子ども達に、教科等の指導以外に行う様々な生活面の指導を行うにあたり、どのような考え方のもとにどのような技術を用いるべきか、生徒指導のあり方についての理論と実践の力をつけることをめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校生徒指導とは何か
- 第3回 小学校生徒指導の原理
- 第4回 小学校生徒指導と教師
- 第5回 児童の理解（低学年）
- 第6回 児童の理解（中学年）
- 第7回 児童の理解（高学年）
- 第8回 児童の安全
- 第9回 非行
- 第10回 懲戒
- 第11回 体罰の禁止
- 第12回 いじめ
- 第13回 不登校
- 第14回 児童虐待の発見と防止
- 第15回 関係機関との連携協力

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。講義を妨害し、他の受講生の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

文部科学省「生徒指導提要」教育図書 2010年 276円＋税

杉田洋（編）「小学校教師のための生徒指導提要実践ガイド」明治図書 2011年 2,060円＋税

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。報告に指名された場合は、然るべく調べる。また、途中で3回実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

小学校における生徒指導は、学習指導と並んで重要な意味を持っています。校則・生徒懲戒・非行・不登校等々をめぐる諸問題がこれに含まれます。この授業では、こうした事項につき、実例を示しながら進めていきます。鋭い人権感覚と問題意識を持って授業に参加することを望みます。

生徒・進路指導（保育・教育の方法技術）

担当者

小西 尚之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

中学校における生徒指導・進路指導の意味と意義を説くことから始め、生徒指導・進路指導の実際を述べ、さらに、様々な場面における教師の具体的指導事例を取り上げて授業を展開していく。そこから、より広い社会・歴史的な枠組みにおいて生徒指導・進路指導を考えていく。

到達目標

生徒の非行・問題行動への対応という狭い意味ではなく、すべての生徒に対する、各々の人格のより良き発達を目指すための教育活動として、「生徒指導」を理解する。また、最終学年時における進学や就職のための指導という狭い意味ではなく、生徒自身が主体的に生き方を考えることができるための能力や態度を育む教育活動として、「進路指導」を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 校則、生徒心得
- 第3回 懲戒、体罰
- 第4回 学校の責任と権限
- 第5回 携帯電話や各種メディアの使用
- 第6回 不登校
- 第7回 いじめ
- 第8回 非行
- 第9回 キャリア教育の意義と理論
- 第10回 キャリア教育の進め方
- 第11回 キャリア教育の方法と技術
- 第12回 職業観・勤労観の形成
- 第13回 進路相談の進め方
- 第14回 中学校でのキャリア教育実践
- 第15回 生涯学習の現状と今後

評価方法

授業中に実施する筆記試験（約70%）と、講義に臨む態度・参加する姿勢等（約30%）によって、総合的に判断する。

使用教材

小泉令三『よくわかる生徒指導・キャリア教育』ミネルヴァ書房（2010年）

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、教科書を熟読の上、復習しておくこと。報告に指名された場合は、然るべく調べること。また、途中で実施予定の小テスト前には、当該範囲の教科書・ノート類を見直すこと。

備考

中学校における生徒指導・進路指導は、学習指導と並んで重要な意味を持っています。校則・生徒懲戒・非行・不登校等々をめぐる諸問題がこれに含まれます。この授業では、こうした事項につき、実例を示しながら進めていきます。鋭い人権感覚と問題意識を持って授業に参加することを望みます。

学校危機管理論（保育・教育の方法技術）

担当者

吉田 恵子

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

子ども達を安全な環境で教育・指導しなければならない学校園であるが、現実には日々大小の事故が生じ、教師はその対応に苦慮することが少なくない。学校事故について、事前・発生時・事後の危機管理を実例をもとに考え、学校危機管理の実践力をつける。

到達目標

学校事故の事例を通して、危機管理及び安全教育の理論を学び、実践力をつけることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、安全の概念
- 第2回 学校事故発生における援用法規
- 第3回 危険予知と安全教育
- 第4回 事前の危機管理
- 第5回 事故発生時の危機管理 第1回小テスト
- 第6回 事後の危機管理
- 第7回 学校安全の死角
- 第8回 体育祭・運動会の事故
- 第9回 部活をめぐる事故
- 第10回 登下校の事故・事件 第2回小テスト
- 第11回 プール事故
- 第12回 学校給食と死亡事故
- 第13回 いじめ自殺
- 第14回 自然災害と学校
- 第15回 まとめ 第3回小テスト

評価方法

授業中に行う3回の小テストに70%、授業貢献度に30%を配分して総合的に評価する。

使用教材

授業中に資料を配布する

授業外学習の内容

教育・保育の事故やトラブルに関するニュースに目を配り、新聞記事等を収集しておくこと。

備考

事故対応のロールプレイがある。意欲的に授業に参加すること。

心理検査法（保育・教育の方法技術）

担当者

板津 裕己

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

こころの特徴理解の方法の1つとして心理検査法が用いられている。ここでは、心理検査の中で、質問紙法、作業検査法及び発達検査について、その検査実施上の注意点や処理方法などを学ぶ。なお、投影法は、その検査実施や結果処理を習熟するために相当な経験を要するため、基礎事項学習にとどめる。

到達目標

- ・心理検査の長所とその限界を含めた心理検査についての正しい理解ができるようになる。
- ・各種検査法の正確な実施法と適切な結果の読み取りができるようになる。
- ・心理検査を受検することで自己理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション -心理検査の歴史と基本的な考え方-
- 第2回 心理検査で何がわかる？
- 第3回 質問紙法検査の概要と自己観に係わるテスト
- 第4回 質問紙法検査の実習1 -類型論に基づくパーソナリティテスト-
- 第5回 質問紙法検査の実習2 -特性論に基づくパーソナリティテスト-
- 第6回 質問紙法検査の実習3 -規模の大きなパーソナリティテスト-
- 第7回 質問紙法検査の実習4 -青年期の発達に係わるテスト-
- 第8回 作業検査法の概要とテスト実習-
- 第9回 作業検査法検査結果の着眼点と読み取り方
- 第10回 作業検査法検査の結果整理の実習
- 第11回 投影法検査
- 第12回 知能検査の概要-
- 第13回 集団式知能検査実習と結果の読み取り方
- 第14回 乳幼児発達検査1 -概要と質問紙検査-
- 第15回 乳幼児発達検査2 -個別簡易検査-

評価方法

評価は、個人ワークやグループワークなどのレポート課題にもとづく。

使用教材

各種心理テストのマニュアル、その他に授業進行に従いプリントを配布する。

授業外学習の内容

人間（自分自身や周囲にいる人など）に関心を持つようにすること。

備考

グループワークなどで得た情報のプライバシー保持をすること。

家族療法（保育・教育の方法技術）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

家族とクライアントの関係に視点を置き、家族関係、ジェノグラムの作成を行いながら、家族への援助関係のあり方について事例を検討していく。

到達目標

本講においては、家族療法の理論と技術を理解し、家族を視野においた援助技術を学ぶ。事例検討を行いながら、実際にロールプレイや模擬面接の体験をし応用的な面接技術の習得を目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 家族療法の発展
- 第3回 健康な家族とその発達
- 第4回 家族療法の理論
- 第5回 家族療法の諸学派
- 第6回 家族のアセスメント
- 第7回 目標の設定
- 第8回 家族療法の適応と禁止
- 第9回 家族治療上の留意点
- 第10回 一般的な家族の問題とその治療(ジェノグラム作成)
- 第11回 ロールプレイによる実践(1)複雑な家族関係
- 第12回 ロールプレイによる実践(2)家族内に病人がいる家族関係
- 第13回 夫婦療法
- 第14回 治療終結と治療中断の取り扱い
- 第15回 まとめ

評価方法

授業中の積極的な参加、授業後の感想、ロールプレイの取り組み、試験を総合的に判断する。

使用教材

フリップ・バーガー著中村真一・信刻恵子監訳甲斐隆・川並かおる・中村伸一・信国恵子・張田真美訳、家族療法の基礎「BASICFAMILYTHERAPY」PhilipBarker 金剛出版 1993 参考書籍

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的に授業に参加し、毎回授業後の感想をまとめて記述し、学んだことを自分の知識・技術に役立てほしい。授業で学んだ内容について復習し理解を更に深めること。次回の授業に向けて改めて予習を行い、事前に学習準備をしておくこと。

保育方法論（保育・教育の方法技術）

担当者

千葉 千恵美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

子育て支援に必要な知識と技術を、講義、ディスカッション、ロールプレイ、実践を通して習得する。本学設置の子ども・家族支援センターの活動に参加する。地域の保育所・幼稚園・子ども園等施設見学を行い、子育て支援が行える保育士・幼稚園教諭を目指す。

到達目標

- ①保育方法に必要な知識を習得する。
- ②保育方法に必要なスキルの習得をする。
- ③親と家族への理解と共感性を高める

講義内容と講義計画

授業内容と授業計画

- 第1回 日本における保育方法の現状とニーズ
- 第2回 保育方法に必要な児童福祉の知識(児童虐待の背景・予防・発見・連携を中心に)
- 第3回 親支援に必要なかかわりと子どもの育ちについての理解
- 第4回 子どもと家族関係(親の心理、障害児と家族、夫婦関係と子ども)
- 第5回 保育所・幼稚園で見られる子どもの心の危険信号(送迎場面、活動場面、態度など)
- 第6回 保育・相談技術の基礎1(子ども・家族支援センターの活動を見学後レポート・指導案作成)
- 第7回 保育・相談技術の基礎2(見学内容についてのグループディスカッション・指導案作成)
- 第8回 ロールプレイ1(事例検討を行い具体的な役割を決めてロールプレイを行う)
- 第9回 ロールプレイ2(親役・保育者役を決めてロールプレイ後ディスカッションを行う)
- 第10回 地域保育・子育て支援施設の見学(保育所、幼稚園、こども園等)
- 第11回 地域保育・子育て支援施設の見学(育児サークル、児童館、NPO 法人施設)
- 第12回 子ども・家族支援センターへの参加(子育て支援の参加・親子ふれあい教室、実践支援)
- 第13回 子ども・家族支援センターへの参加(親子ふれあい教室の親子の活動体験・遊びと相談・実践支援)
- 第14回 子ども・家族支援センターへの参加(支援が必要な親子へのケーススタディ・支援方法等)
- 第15回 まとめ

評価方法

- ①実習態度や積極性②レポート内容③総合試験を踏まえて総合的に判断する。

使用教材

保育ソーシャルワークと子育て支援（千葉千恵美著、久美株式会社）

授業外学習の内容

「指定した教科書の授業内容を事前に読んでおく」「毎回授業の最初に前回授業内容に係るふり返しを確認するので復習しておくこと」「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

積極的な授業参加と観察(実践体験・施設見学)を行うので、保育方法について必要な知識と、スキルを習得し、子育て支援が行える保育士・幼稚園教諭を目指してほしい。授業で学んだ内容について復習し理解を更に深めること。次回の授業に向けて予習を行うこと。

心身の発達と学習過程（保育・教育の方法技術）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 保育・教育コース必修 教員養成コース選択 2単位

講義目標

子どもの心身の発達とその障害を理解し、どのように指導したらよいかを学ぶ、具体的には、①発達の意味や基本原理などの発達に関する基本的事項、②出生から就学までの子どもの心身の発達過程と指導法、③代表的な発達の理論（フロイト、エリクソン、ピアジェ、ヴィゴツキーの各理論）、④心身の機能の発達の基盤である脳の発達と可塑性、⑤認知機能、言語機能、人間関係（社会性）の発達およびその障害、⑥発達の障害である自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、学習障害などの基本的症状や対応の仕方、の6つを学ぶことを目標とする。講義では、配布資料のほかに、パワーポイント、DVDなどを用いて、理解しやすいように努める。

到達目標

子どもの心身の発達過程を、認知、思考、言語、社会性の側面および脳機能の発達の側面から理解するとともに、発達障害のある子どもの理解と対応の仕方についても学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発達の基本原理
- 第3回 心身の発達と学習－6歳頃までの子どもの主な心身の機能の発達の变化
- 第4回 フロイトの性の発達段階説
- 第5回 エリクソンの発達理論
- 第6回 ピアジェの発達段階説
- 第7回 ヴィゴツキーの発達理論
- 第8回 心身の発達の基盤としての脳の発達と可塑性
- 第9回 認知機能の発達
- 第10回 言語機能の発達
- 第11回 人間関係（社会性）発達
- 第12回 自閉症スペクトラム障害の基本症状と対応
- 第13回 注意欠陥多動性障害の基本症状と対応
- 第14回 学習障害の基本症状と対応
- 第15回 子どもの発達の理解のまとめ

評価方法

レポートの内容、授業中の発問に対する応答、試験を総合して評価する

使用教材

講義のときに使用する資料（プリント）を配布する

授業外学習の内容

ノートおよび配布した資料等を基に学習した内容を復習し、専門用語についても理解しておくこと

備考

保育実習 I (実習)

担当者

保育実習 I 担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3 年前期 保育・教育コース選択 4 単位

講義目標

保育実習 I を通じて・・・

- ・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ

到達目標

保育実習 I を通じて・・・

- ・ 保育所、児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。
- ・ 観察やかかわりを通して利用児者の理解を深める。

講義内容と講義計画

- ・ 保育所における実習

保育所の保育活動に参加し、乳幼児への理解を深め、保育所の機能や保育士の職務内容などについて学ぶ。

- ・ 児童福祉施設等における実習

児童福祉施設などの生活や支援活動に参加し、児童・利用者との関わりや支援活動を通して児童・利用者への理解を深めるとともに、児童福祉施設などの機能や保育士・施設職員の役割及び職務内容などについて学ぶ。

- ・ 各種実習にあたっては健康管理能力や責任感、高い倫理観を身につける。

評価方法

実習日誌、評価票、提出物により総合的に評価する。

使用教材

実習の手引き、プリントなどを配布する。

授業外学習の内容

- ・ 実習に向けて生活リズムを整えるなどの準備を行うこと。
- ・ 毎日、実習日誌を記入すること。

備考

保育実習指導 I (実習)

担当者

保育実習 I 担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期～3年前期 保育・教育コース選択 2単位

講義目標

- ・保育実習の意義、目的を理解する。
- ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
- ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

到達目標

- ・事前に保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実習場면을イメージした目標や行動指針が立てられるようになる。
- ・子ども・利用者との関わりや観察を通じた記録、振り返りができるようになる。
- ・今後の実習に向け具体的な学習と目標設定ができるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保育所実習に向かう心構えについて
- 第2回 保育所実習の実習先を決めるに向けて
- 第3回 保育所実習の実習先における事前ボランティアについて
- 第4回 保育所実習の日誌の書き方① (時系列の記録について)
- 第5回 保育所実習の実習先における事前ボランティア経験を振り返る
- 第6回 保育所における乳幼児の発達の理解を深める①
- 第7回 保育所における乳幼児の発達の理解を深める②
- 第8回 保育所保育における援助と配慮に対する理解を深める
- 第9回 保育所実習の目的と意義
- 第10回 保育所実習に向けての自己課題
- 第11回 保育所実習に向かうための手続きや諸準備
- 第12回 保育所実習の日誌の書き方② (エピソード記録について)
- 第13回 保育所実習の指導案の作成
- 第14回 保育所実習を振り返る①
- 第15回 保育所実習を振り返る②
- 第16回 施設実習の目的と意義
- 第17回 施設実習の種別と配属先
- 第18回 乳児院における実習
- 第19回 児童養護施設における実習
- 第20回 障害児入所施設・障害者支援施設における実習
- 第21回 施設実習の記録① (施設概要)
- 第22回 施設実習の記録② (課題設定)
- 第23回 施設実習の記録③ (日々の記録)
- 第24回 施設実習における指導案の作成について
- 第25回 利用児者の対応スキル① (コミュニケーション)
- 第26回 利用児者の対応スキル② (介助動作)
- 第27回 施設実習に向かうための手続きや諸準備
- 第28回 施設実習報告書の作成と報告会に向けて
- 第29回 施設実習報告会
- 第30回 施設実習事後指導 (グループ・個人)

評価方法

実習日誌、評価表、提出物により総合的に評価する。

使用教材

実習の手引き、適宜プリントなどを配布する。

授業外学習の内容

- ・各自、実習先の施設について理解を深めること。
- ・可能であれば、実習先の施設に直接出向き、事前の理解を深めることを望む。
- ・必ず復習し、実習への心構えを身につけ、必要な準備を行うこと。

備考

保育者を目指す者としての自覚を持って授業に臨むこと。

保育実習Ⅱ（保育所）

担当者

保育実習Ⅱ担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期 保育・教育コース選択 2単位

講義目標

・既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児に対する保育実践、保護者支援を総合的に理解し、自らの実践力を向上させる。

到達目標

- ・保育実習Ⅰでの反省を活かし、自己課題を持って、積極的に実習に取り組むことができる。
- ・幅広い保育所保育士の役割について、理解を深めることができる。

講義内容と講義計画

- 保育所の保育活動に参加し、乳幼児への理解を深め、保育所の機能や保育士の職務内容などについて学ぶ。
- 発達段階に応じた保育士の関わり方や保育方法について、理解を深める。
- 指導計画を立案し、保育の実践、評価を行う。
- 地域における保育所や保育士の役割について理解する。

評価方法

園からの評価、実習日誌等の提出物などを総合的に評価する。

使用教材

適宜プリントを配布する

授業外学習の内容

毎日、実習日誌を記入すること。

備考

保育実習Ⅲ（施設）（実習）

担当者

保育実習Ⅲ担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年後期 保育・教育コース選択 2単位

講義目標

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 保育士としての自己の課題を明確化する。

到達目標

施設実習において、利用者の支援を責任をもって、積極的かつ適切に行うことができる。施設保育士として必要な記録（実習記録・日誌）を的確に記述することができる。

講義内容と講義計画

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能
2. 施設における支援の実際
 - (1) 受容し、共感する態度
 - (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解
 - (3) 個別支援計画の作成と実践
 - (4) 子どもの家族への支援と対応
 - (5) 多様な専門職との連携
 - (6) 地域社会との連携
3. 保育士の多様な業務と職業倫理
4. 保育士としての自己課題の明確化

評価方法

実習日誌、評価票、提出物により総合的に評価する。

使用教材

実習の手引き、プリントなどを配布する。

授業外学習の内容

- ・ 保育実習Ⅰ（施設）や関連する実習について振り返り、それらで見出された成果や課題をもとに、具体的な実習目標を設定すること。
- ・ 責任実習などに備えて、実施したい課題について何種類かのアイデアを考えておくこと。また、日々の活動に備えて、幼児・児童や障害を持った方々向けの遊びを準備しておくこと。

備考

- ・ 保育実習Ⅲを選択することに、「主体性」と「責任」を持つこと。
- ・ 実習中だけでなく、実習開始前から健康管理に十分に配慮すること。
- ・ 実習施設から課された課題は指定期日までに準備すること。また、施設ルールを順守すること。
- ・ 実習に必要な書類などは、期日にゆとりを持って確実に準備すること。

保育実習指導Ⅱ（実習）

担当者

保育実習Ⅱ担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年通年 保育・教育コース選択 1単位

講義目標

- ・既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児に対する保育実践、保育者支援に対する理解を総合的に深める。
- ・各自の実習経験を話し合うなど、各自の実習経験を活かしながら実践力を向上させる。

到達目標

- ・保育所の幅広い役割について理解を深め、自己課題をもち、実習に臨もうとすることができる。
- ・実習後には、各自の実習体験を多角的な視点から丁寧に振り返り、自己課題を明確にする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実習園決定に向けて
- 第3回 保育実習Ⅰの振り返り
- 第4回 保育実習Ⅱを通して学ぶこと
- 第5回 実習日誌記録、指導案作成について
- 第6回 実習諸準備確認
- 第7回 実習報告、自己評価、自己課題提出
- 第8回 実習日誌提出、評価、個人指導
- 第9回 グループワーク①(子どもとのかかわりについて)
- 第10回 グループワーク②(保育者の援助について)
- 第11回 グループワーク③(保育所の役割について)
- 第12回 グループワーク④(責任実習をとおして)
- 第13回 グループワーク⑤(これから求められる保育士とは)
- 第14回 実習園からの総合評価
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度、レポート等を総合的に評価する。

使用教材

講義内で指示する

授業外学習の内容

必ず復習し、実習への心構えを身につけ、実習に必要な準備を行うこと。

備考

保育実習指導Ⅲ（実習）

担当者

保育実習Ⅲ担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年通年 保育・教育コース選択 1単位

講義目標

- ・保育実習Ⅲの意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
- ・実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
- ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
- ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

到達目標

保育実習Ⅲにおいて、施設について理解を深め、自己課題を持ち、利用者の支援を責任を持って適切に行うための知識、スキルを身につけ、実習を全うすることができるようになる。また、実習後には実習を客観的に振り返り、卒業後の課題を意識することができるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保育実習Ⅲの目的と意義
- 第2回 保育実習Ⅲの施設種別と配属先
- 第3回 乳児院における保育実習Ⅲの概要
- 第4回 児童養護施設における保育実習Ⅲの概要
- 第5回 障害児者施設・児童厚生施設等における保育実習Ⅲの概要
- 第6回 施設実習の記録①（施設概要）
- 第7回 施設実習の記録②（課題設定）
- 第8回 施設実習の記録③（日々の記録）
- 第9回 保育実習Ⅲにおける指導案の作成について
- 第10回 利用児者の対応スキル①（コミュニケーション）
- 第11回 利用児者の対応スキル②（介助動作）
- 第12回 保育実習Ⅲに向かうための手続きや諸準備
- 第13回 保育実習Ⅲ報告書の作成と報告会に向けて
- 第14回 保育実習Ⅲ報告会
- 第15回 保育実習Ⅲ事後指導（グループ・個人）

評価方法

レポート等の提出物、授業態度、発表内容を総合して評価する。

使用教材

実習の手引き、適宜プリント等を配布する。

授業外学習の内容

- ・保育実習Ⅰ（施設）や関連する実習について振り返り、それらで見出された成果や課題をもとに、具体的な実習目標を設定すること。
- ・同じ種別の施設で実習する学生とグループ学習をおこなう、あるいは、自主学習をおこなうことで、種別特徴や実習施設特徴について理解を深めておくこと。

備考

- ・保育実習Ⅲを選択することに、「主体性」と「責任」を持つこと。
- ・課題は期日までに必ず提出すること。

幼稚園教育基礎実習（実習）

担当者

幼稚園実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース必修 1単位

講義目標

幼稚園教育基礎実習とは、幼稚園に出向いて1週間の教育実習をするもので、幼稚園での教師の役割や幼児の実態等について主に観察を通じて学ぶことが目的である。

また、幼稚園教育実習事前事後指導では、スムーズに実習に取り組めるよう実習の事前準備を行い、実習後には報告会などを通じて実習での学びの定着と課題の意識化をはかる。

到達目標

実習における到達目標は①幼稚園生活の流れを知る②子どもの実態を知る③保育者の仕事の全体を知る、である。これらの目標に到達し学びが深まるよう、事前指導では、幼児期の教育の基本を踏まえた上で、実習における自己課題の明確化、日誌の記載方法の理解、部分実習に向けての準備などをおこなう。事後指導では、グループワークを通じて実習での経験を共有すると共に、自らの学びを振り返ることで課題を明確にする。

講義内容と講義計画

〈1年後期〉

- ・事前指導では、幼児教育の基本・子どもの発達と遊び・保育のねらいと実習のねらい・日誌の記載などについて確認し、実習に際しての自己課題を明確にする。また実習のために必要な準備事項の確認をしたり、実習生として相応しい態度を身に付ける。
- ・実習では、主に観察実習を通じて、幼稚園での教師の役割や幼児の実態等、一日の保育の流れ等について主に学ぶ。また毎日日誌を記載し、園に提出をする。
- ・事後指導では、基礎実習での学びを、グループワークなどを通じて振り返り共有することで、新たな課題意識を持つことを目指す。

評価方法

実習園における評価をもとに、事前事後指導への取り組み、実習記録の記入状況、実習報告会の内容を参考にしながら、実習担当者が総合的に評価する。

使用教材

「教育基礎実習の手引」「幼稚園教育要領解説」「実習日誌の書き方」

授業外学習の内容

事前事後指導：毎時の授業課題について必ず予習・復習をおこなうこと。

実習：毎日日誌を記入し、実習園に提出をすること。

備考

提出物は期日厳守で提出すること。無断での遅刻欠席は厳禁。

小学校教育基礎実習（実習）

担当者

小学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 1単位

講義目標

・小学校で1週間の基礎的な教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、又確実にできているかどうかを、実習校と密に連携協力しながら、巡回等の方法で指導する。

到達目標

小学校で教育活動に従事している教職員の仕事や児童の学びについて、実践を通して基礎的な観察・体験を行い、大学での学修に一層の動機づけをするとともに、学校・教育・教師・児童への理解を深める。

講義内容と講義計画

- ・実習の前後には大学において必要な事前事後指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密にする。
- ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が実習校を訪問して、実習生に対する指導を行う。
- ・実習期間は短いですが、実習校に出向くにあたっては、事前の準備を周到に行い、実習終了後は学生たちにその記録を提出させ、報告会を開催するなど事後の指導を入念に行う

評価方法

実習に臨むにあたっての意欲・態度、実習校の評価、実習記録等の記入状況、提出物の提出状況、実習終了後の報告会等に基づき、実習担当教員が総合的に判断する。

使用教材

『教育基礎実習の手引』（高崎健康福祉大学人間発達学部）

授業外学習の内容

毎時の授業課題について、必ず予習・復習を行うこと。
実習期間中、実習内容については実習日誌に記録すること。

備考

中学校教育基礎実習（実習）

担当者

中学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 教員養成コース選択 1単位

講義目標

各学生が取得しようとする免許状及び希望に基づき、中学校に出向いて1週間の基礎的な教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを、実習校と密に連携協力しながら、巡回等の方法で指導する。

到達目標

中学校に出向いて、そこで教育活動に従事している教職員の仕事、役割等について、実践を通して基礎的な観察・体験を行い、大学での学修にいっそうの動機づけをするとともに、学校・教育・教師への理解を深める。

講義内容と講義計画

- ・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。
- ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問したりEメールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。
- ・実習期間は短いですが、実習校に出向くにあたっては、事前の準備を周到に行う。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、報告会を開催するなど事後の指導を入念に行う。

評価方法

実習委員会において、実習校における第一段階の評価をもとに、実習記録の記入状況・提出状況、指導教員・校長等の所見等を参考に、総合評価する。

使用教材

特に使用しない。

授業外学習の内容

外部講師講演会等のまとめ、感想、教育基礎実習の報告書、報告会プレゼン資料を課す。

備考

幼稚園教育実習（事前事後指導含む）（実習）

担当者

幼稚園実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年通年 保育・教育コース必修 4単位

講義目標

幼稚園教育実習とは1年次におこなった基礎実習での学びを基礎とし、保育者の役割や保育の展開方法について責任実習などを通じて理解を深め実践力を高めることを目的とする。

幼稚園教育実習事前事後指導では、スムーズに実習に取り組めるよう実習の事前準備を行い、実習後には報告会などを通じて実習での学びの定着と課題の意識化をはかる。

到達目標

幼稚園教育実習における到達目標は①幼稚園の社会的機能の理解②保育者の役割の理解③保育実践という営みの理解④子どもの理解⑤指導計画作成についての理解⑥指導計画に基づいた保育実践の指導と援助の具体的保方法の理解、である。これらの目標に到達し学びが深まるよう、事前指導では、幼児期の教育の基本を踏まえた上で、実習における自己課題の明確化、日誌の記載方法の理解、責任実習に向けての準備などをおこなう。事後指導では、グループワークを通じて実習での経験を共有すると共に、自らの学びを振り返ることで課題を明確にする。

講義内容と講義計画

〈3年前期〉

・事前指導では、日誌の書き方を確認すると共に、模擬保育・指導案作成などを通じて責任実習に向けての準備をおこなう。また基礎実習での学びを振り返り、本実習での自己課題を明確にする。また実習のために必要な準備事項の確認をし、実習生として相応しい態度を身に付ける。

・実習では、主に保育者の役割や保育の展開方法について責任実習などを通じて理解を深め実践力を高める。また毎日日誌を記載し、園に提出をする。

・事後指導では、基礎実習での学びを、グループワークなどを通じて振り返り共有することで、新たな課題意識を持つことを目指す。

評価方法

実習園における評価をもとに、事前事後指導への取り組み、実習記録の記入状況、実習報告会の内容を参考にしながら、実習担当者が総合的に評価する。

使用教材

「教育・保育実習の手引」「幼稚園教育要領解説」「実習日誌の書き方」

授業外学習の内容

事前事後指導：毎時の授業課題について必ず予習・復習をおこなうこと。

実習：毎日日誌を記入し、実習園に提出をすること。

備考

提出物は期日厳守で提出すること。無断での遅刻欠席は厳禁。

参考文献：「指導と評価に生かす記録」「指導計画の作成と保育の展開」「感性をひらく表現遊び」他

小学校教育実習（事前事後指導含む）（実習）

担当者

小学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年通年 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 4単位

講義目標

- ・小学校で実習を行う学生に対し、実習先での勤務の仕方、接遇等について事前指導し、3週間の教育実習をする。
- ・実習中は実習校と連携協力を取りながら、研究授業参加等の方法で指導する。
- ・実習後は報告会を開催し、他の実習生たちの体験を聞くことを通して、学校・教師・児童への理解と実践的力量について確認させ、教師としての自覚を樹立させる。

到達目標

- ・実習校に出向くにあたって、種々の心構え・態度等を身につける。
- ・実習中は、実習校の指導のもと、観察・参加・授業実習に携わり、学校・教師・児童への理解を深め、実践力を養う。
- ・実習後は、教育に対する使命感を確立することを目指す。

講義内容と講義計画

- ・3週間にわたる実習に臨むにあたっては、実習校と事前の準備を周到に行い、実習校との打ち合わせを綿密にし、実習校の教育方針等を理解させ、言葉遣い・接遇等について指導する。
- ・実習中は、実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が適宜訪問したり、Eメールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。
- ・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができない時はEメール等を用い、実習校の指導教師とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。
- ・実習終了後は、実習報告会などを通じて、実習での学びや今後の学修・進路にどのような意味を持ったか等を報告し合い、指導助言を与える。

評価方法

実習に臨むにあたっての意欲・態度、実習校の評価、実習記録等の記入状況、提出物の提出状況、実習終了後の報告会等に基づき、実習担当教員が総合的に判断する。

使用教材

『教育・保育実習の手引』（高崎健康福祉大学人間発達学部）

授業外学習の内容

毎時の授業課題について、必ず予習・復習を行うこと。
実習期間中、実習内容については実習日誌に記録すること。

備考

提出物等は、期日時間厳守で提出すること。
実習日誌については、実習校の指導担当教員に提出して指導を受けること。

中学校教育実習（事前事後指導含む）（実習）

担当者

中学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年通年 教員養成コース選択 4単位

講義目標

各学生が取得しようとする免許状に基づき、中学校に出向いて3週間の教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを、実習校と密に連携協力しながら、巡回及び研究授業参加等の方法で指導する。

到達目標

中学校に出向き、中学校及びそこで教育活動に従事している教職員の仕事、役割、生徒の状況等について、当該校の担当教師の指導のもと、実践に携わり、大学での学修を生かしながら学校・教育・教師への理解を深め、教育現場における種々の場面を通じて実践力を養う。

講義内容と講義計画

- ・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。
- ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問したり電話やEメールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。
- ・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができないときは電話やEメールを用い、実習校の指導教師とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。
- ・3週間にわたる実習に臨むにあたっては、実習校と事前の準備を周到に行う。実習中も当該校及び当該校の担当教師と連絡をとりながら、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを確認するため巡回し、適宜実習生に助言指導する。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、実習報告会を開催して体験を報告させるなど事後の指導を入念に行う。

評価方法

実習委員会において、実習校における第一段階の評価をもとに、実習記録の記入状況・提出状況、指導教員・校長等の所見等を参考に、総合評価する。

使用教材

特に使用しない。

授業外学習の内容

毎時の授業課題について必ず予習・復習を行うこと。

備考

基礎実習と同様

特別支援学校教育基礎実習（実習）

担当者

特別支援学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

学生は、特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱）でどのような教育が実際に行われているか、児童生徒の実態・教育課程・時間割・日々の授業について、基礎的な事柄を具体的に学ぶ。特に、担当教員が児童生徒の実態をどのように把握し、どのように目標を設定して授業を組み立てているか、教材の準備・同僚との打ち合わせ・チームティーチング・授業後の振り返りなどをどのように行っているかを観察し理解する。教員の指示の下で、授業の補助的な役割を体験する。特別支援学校における講話や実習記録を振り返り、自らの課題を明らかにする。

到達目標

特別支援学校でどのような教育が行われているか、児童生徒の実態・教育課程・時間割・授業等について、基礎的な事柄を理解すること。

講義内容と講義計画

1. 事前学習として、実習生としての心構え、必要な基本的マナー、特別支援学校教育の概要、基礎実習の目的、実習記録の書き方等を講義する（3コマ）
2. 5日間（1日8時間、計40時間）の特別支援学校教育基礎実習を実施する。そこでは、児童生徒の実態、教育課程、時間割、毎回の授業の目標設定、使用する教材、授業実践、授業後の振り返り（評価）などについて、実習校からの説明を受け、担当クラスあるいは学習グループにおいて参与観察を行う。また、教員の指示により、授業の補助を行う。毎日、実習記録を書き、実習校の担当教員に提出する。人間発達学部の教員が実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。
3. 事後学習として、特別支援学校における講話や指導、実習記録を振り返り、3年次の特別支援学校教育実習に向けて各自が取り組むべき課題を明らかにする（3コマ）。

評価方法

実習校における第一段階の評価をもとに、実習委員会において実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見等を総合的に評価する。

使用教材

教育基礎実習の手引

授業外学習の内容

- ・基礎実習の手引きや日誌を事前に読んでおくこと。また、事前指導で配布する資料を必ず授業後に繰り返し読むこと。不明な点については、障害児教育事典や教育小六法などで理解できるようにしておくこと。
- ・1年前期までに開講されている特別支援教育関係の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。
- ・特別支援学校教育基礎実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。

備考

特別支援学校の児童生徒が学ぶ様子をじっくり感じ取って下さい。
日誌をしっかりと書いてください。

特別支援学校教育実習（事前事後指導含む）（実習）

担当者

特別支援学校実習担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年通年 選択 3単位

講義目標

学生は、特別支援教育基礎実習で明らかになった課題について、教育実習においてどのように取り組むか、事前指導で具体的に検討し、教育実習の目的・方法を明確に自覚する。教育実習では、学生は特別支援学校での児童生徒との係わり方、児童生徒の実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・評価・学級経営等、教員に求められる基礎基本を修得する。事後指導において、学生は教育実習を振り返り、自らの課題達成状況や新たな課題を明確にする。

到達目標

教育実習の目的・方法を自覚し、児童生徒の実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・授業記録・評価・学級経営等の基礎基本を修得すること

講義内容と講義計画

事前指導（25時間）として、実習にあたっての心構え・身だしなみ・言葉づかい等、障害のある児童・生徒の心身・健康の理解、特別支援学校及び教員の仕事について、学習指導案の学生方法、優れた教育実践の紹介等を行い、各自の課題を明確に意識させる。特別支援学校における実習（1日8時間、10日間、計80時間）では、参与観察も行いつつ、児童・生徒との係わり方、実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・授業記録・評価・学級運営等、教員に求められる基礎基本の修得を促す。大学の教員が研究授業の日以外にも実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。事後指導（15時間）として、学生による実習体験の報告、研究授業内容の検討・確認、指導経験の報告、教職に向けての指導・助言等を行い、さらなる専門性と実践力の向上につなげる。

評価方法

実習校における第一段階の評価をもとに、実習委員会において実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見等を総合的に評価する。

使用教材

教育・保育実習の手引

授業外学習の内容

- ・実習の手引きや日誌を事前に読んでおくこと。また、事前指導で配布する資料を必ず授業後に繰り返し読むこと。不明な点については、障害児教育事典や教育小六法などで理解できるようにしておくこと。
- ・3年前期までに開講されている特別支援教育関係の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。
- ・特別支援学校教育実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。

備考

特別支援学校での教育実習では、指導の内容や方法を修得するだけでなく、人間性全体が磨かれます。とてもやりがいのある、楽しい実習です。

教育実習の手引きを事前に読み、また授業後は復習をしてください。

保育・教職実践演習（幼）（実践演習）

担当者

保育・教職実践演習（幼）担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 保育・教育コース必修 2単位

講義目標

保育・教育実習を通して得た個々の問題を、学生相互に共有しあい、それぞれの課題にグループごとに取り組みながら、解決を見出す。授業は、グループワーク、発表形式、模擬保育などの演習を中心に行う。また、保育現場におけるフィールドワークも行い、子どもとの関わりを通して問題解決をはかる。

到達目標

- ①保育者としての使命感・責任感をもち、教育的愛情をもって子どもと関わる力を身につける。
- ②保育者に必要な社会性や対人関係能力を身につける。
- ③乳幼児の理解や学級運営に関する知識・能力を身につける。
- ④保育内容の指導に対する知識・能力を身につける。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション

本授業の目的とテーマ①～④について考え、今日求められている保育者の役割・資質、および保育現場に求められる機能との関係について理解する。

第2回 グループワーク①保育・教育実習を通して、個々に得た問題について意見を出し合う

第3回 グループワーク②問題をテーマ①～④に分類し、各テーマにおける問題の共通点・相違点を見出す。

第4回 事例検討①さらに具体的事例を出し合いながら検討

第5回 事例検討②各テーマにおける問題の本質的意味を理解する。

第6回 課題設定フィールドワークにおいて見出すべき課題を設定する。

第7回 フィールドワーク①実習協力園A

第8回 フィールドワーク②実習協力園B

第9回 フィールドワーク③実習協力園C

第10回 フィールドワーク④実習協力園D

第11回 グループワークを通して得た観察記録を元にグループワークを行い、問題点を整理する。

第12回 模擬授業①各グループで設定した問題の解決方法を見出す。

第13回 模擬授業②全体討議で行う報告のための発表要旨を作成する。

第14回 全体討議

第15回 まとめ

評価方法

グループワーク、フィールドワーク、模擬授業への参加、発表、またレポート課題により、総合的に評価する。

使用教材

必要に応じて、プリントを配布する。

授業外学習の内容

授業以外においても、グループワークなどの課題に取り組むこと。

備考

教職実践演習（小中）（実践演習）

担当者

教職実践演習（小中）担当教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 保育・教育コース選択 教員養成コース必修 2単位

講義目標

下記の目標を達成するため、授業では、講義・講話・討論・事例研究などを取り入れて、教員となるべき学生の学修の仕上げの1つとし、学生が積極的に学び、教員としての自覚と責任感を養う。

到達目標

学生が将来教師として学校現場で児童生徒に十分対応していける資質・能力、及び、使命感や責任感、教育的愛情、さらには、社会性や対人関係能力等を備えるに至ること、及び、それをさらに確実なものとし、これを確認することを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 実践演習の意義。教師となるにあたっての学生同士の討論
- 第2回 実習で学んだこと・得たものを話し合い、理解する
- 第3回 教師としてどのようなことが求められているかを討論し理解する
- 第4回 学校における同僚教職員・保護者・地域住民との連携協力
- 第5回 文系教科の指導について
- 第6回 理系教科の指導について
- 第7回 実技系教科について
- 第8回 英語の指導について
- 第8回 特別支援教育について。
- 第9回 学校現場の教師を招いての講話
- 第10回 学生同士のグループ討議
- 第11回 近隣の学校現場訪問（グループ）
- 第12回 前回の見聞の討論
- 第13回 学校事故等と教師の対応・役割
- 第14回 児童・生徒指導における教師の役割
- 第15回 教師になる意思の確認

評価方法

担当する専任教員が、各学生の教師としての資質・能力を十分備えるに至っているかどうかを、多面的に総合評価する。

使用教材

授業中に指定する

授業外学習の内容

事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。授業終了後は、講話や配布されたプリント類を反芻・熟読の上、復習しておくこと。

備考

この授業は、教員免許を取得し、しょうらい教職に就く者の教育者としての資質を確認することをも重要な目的としています。教職者として身につけるべき種々の資質・能力が自らに備わっているかどうかを見極めつつ授業に参加することが求められます。

特別支援教育概論（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

学生が平成19年度から実施されている特別支援教育の趣旨、特別支援教育に関わるシステム、特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室・通常学級それぞれの役割、実践事例などについて理解すること。

到達目標

学生が特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室・通常学級それぞれの役割、特に発達障害児への特別支援教育について、要点を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 特別支援教育の意義と本質
- 第3回 特別支援教育の制度
- 第4回 特別支援教育の教育課程
- 第5回 視覚障害とその教育
- 第6回 聴覚障害とその教育
- 第7回 言語障害とその教育
- 第8回 運動障害とその教育
- 第9回 健康障害とその教育
- 第10回 知的障害とその教育
- 第11回 学習障害(LD)・注意欠陥/多動性障害(ADHD)とその教育
- 第12回 自閉症・情緒障害とその教育
- 第13回 重度・重複障害とその教育
- 第14回 障害児の移行支援
- 第15回 まとめ

評価方法

授業中の発言(10%)、毎回のリアクションペーパー(20%)、試験(70%)を総合して評価する。

使用教材

佐藤泰正編「特別支援教育概説改訂版」(学芸図書)2011年

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

知的障害児の心理・生理・病理（特別支援）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

知的障害児の状態像を心理的側面や病理の側面、脳科学の側面から理解し、知的障害児の適切な実態把握や教育的視点からの対応をどのように理解したらよいかを考える。知的障害の中核的障害は認知機能の障害である。特に、認知、記憶、言語、注意、社会性などに関係する脳の仕組みおよび脳の損傷によって起こるこれらの心理機能の障害を中心に学ぶ。また、知的障害と関連する発達障害についての最新の脳科学の知見を学び、障害の理解を深める。講義では、配布資料のほかに、パワーポイント、DVDなどを用いて、理解しやすいように努める。

到達目標

知的障害児の心理・生理・病理について脳科学的な側面から理解し、知的障害児の適切な実態把握と教育的対応について考える。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 知的障害の心理的特性
- 第3回 知的障害の原因と病理
- 第4回 知的障害の心理学的・生理学的研究方法
- 第5回 脳の構造と機能（その1）一脳の区分、大脳の感覚野と連合野の機能
- 第6回 脳の構造と機能（その2）一脳の損傷と心理機能の障害との関係
- 第7回 認知の側面
- 第8回 言語の側面
- 第9回 記憶の側面
- 第10回 注意の側面
- 第11回 社会性の側面
- 第12回 自閉症スペクトラム障害と脳科学
- 第13回 注意欠陥多動性障害と脳科学
- 第14回 学習障害と脳科学
- 第15回 知的障害の心理・生理・病理の理解のまとめ

評価方法

レポートの内容、授業中の発問に対する応答、試験を総合して評価する

使用教材

講義のときに使用する資料（プリント）を配布する

授業外学習の内容

ノートおよび配布した資料等を基に学習した内容を復習し、専門用語についても理解しておくこと

備考

肢体不自由児の心理・生理・病理（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

学生が肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の発達状態を教育的視点から理解すること、また、医学的・心理学的な背景も理解すること。

到達目標

学生が肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の障害状況や発達状態を医学的・心理学的な背景も含めて理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 肢体不自由という概念について
- 第2回 肢体不自由児の状態像
- 第3回 肢体不自由児の医学的側面
- 第4回 肢体不自由児の心理学的側面
- 第5回 運動面の実態
- 第6回 感覚・認知面の実態
- 第7回 コミュニケーションの実態(その1)-受信面
- 第8回 コミュニケーションの実態(その2)-発信面
- 第9回 日常生活動作の実態(その1)-食事・排泄
- 第10回 日常生活動作の実態(その2)-着脱・清潔
- 第11回 作業動作の実態
- 第12回 余暇活動の実態
- 第13回 肢体不自由児の学校教育と卒後の生活
- 第14回 運動機能の低下について
- 第15回 まとめ

評価方法

授業中の発言（20%）、毎回のリアクションペーパー（20%）、試験（60%）を総合して評価する。

使用教材

竹田一則「肢体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学」ジアース教育新社

授業外学習の内容

- ・シラバスに記載してあるテーマに関わりのある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
- ・指定した教科書と随時配布する資料の当該箇所を、必ず授業後に繰り返し読むこと。
- ・専門用語で授業中に十分に理解できなかった言葉については、必ず医学事典や心理学事典などの書籍やインターネットで検索して理解できるようにしておくこと。
- ・土日や夏休みなどに、肢体不自由児との直接の関わりを ボランティア活動で行うこと。

備考

肢体不自由児の多様性を実感してほしい。教科書の関連箇所は授業後に読み直すこと

病弱児の心理・生理・病理（特別支援）

担当者

吉野 浩之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年前期 選択 2単位

講義目標

病弱児について身体・心理・社会的な観点から解説する。疾患特性に合わせた個々の幼児、児童、生徒への教育的関わり、また親への支援などについて学ぶ。病弱児教育現場の現状と、小児医療の変化に伴う病弱教育の変遷についても理解する。

到達目標

病弱児の身体的特性（病態生理、心身の脆弱性、不適應性、疾患特性など）、心理的特性（葛藤や否定的感情）、親の特性などを総合的に理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 病弱児という概念について
- 第2回 各県における病弱児教育と医療の特性
- 第3回 病弱児と心理的諸問題
- 第4回 群馬県における病弱教育
- 第5回 小児がんと病弱教育1
- 第6回 小児がんと病弱教育2
- 第7回 肢体不自由と病弱の境界領域
- 第8回 腎疾患と病弱教育
- 第9回 呼吸器疾患と病弱教育
- 第10回 感染症と病弱教育
- 第11回 消化器疾患と病弱教育
- 第12回 自己免疫疾患と病弱教育
- 第13回 心疾患と病弱教育
- 第14回 命の教育と病弱教育
- 第15回 まとめ

評価方法

リアクションペーパー、試験を総合して評価する。

使用教材

プリントを使用する

授業外学習の内容

ボランティア活動や子どもとのふれあいの中で、自ら課題を発見し、積極的に情報を集めることを求める。また、必要ならば質問に答えたり、助言をしたりすることもできる。

備考

障害児の発達診断（特別支援）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

特別支援教育においては、個々の幼児・児童・生徒の実態を的確に把握し、適切に指導することが求められている。実態の把握には、自然な場面や設定場面における行動観察および知能・認知・言語・社会性などに関する検査が用いられている。これらの具体的な方法について学ぶとともに、それらを付属幼稚園の子どもたちに実際に実施することによって将来、学校園や施設で個々の幼児・児童・生徒の実態を把握できる力量を身につける。

到達目標

知能・認知・言語・社会性などに関する発達診断法を学ぶことによって、障害のある幼児・児童・生徒の実態を的確に把握できる力量を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発達診断の目的
- 第3回 発達診断の方法
- 第4回 発達診断のための検査
- 第5回 乳幼児の発達診断検査—新版K式発達検査
- 第6回 幼児の社会性の発達診断検査—TOM 心の理論課題検査
- 第7回 知能検査（その1）—田中ビネー知能検査V
- 第8回 知能検査（その2）—WISC—IV
- 第9回 認知特性に関する検査（その1）—KABC—II (Kaufman Assessment Battery for Children Second Edition)
- 第10回 認知特性に関する検査（その2）—DN-CAS (Das-Naglieri “Cognitive Assessment System”)
- 第11回 言語発達の診断—絵画語彙発達検査
- 第12回 付属幼稚園における発達診断の実習（その1）
- 第13回 付属幼稚園における発達診断の実習（その2）
- 第14回 付属幼稚園における発達診断の実習（その3）
- 第15回 発達診断および発達診断の実習のまとめ

評価方法

発達診断に関するレポートの内容、発達診断の実習における対応・態度および報告書を総合して評価する

使用教材

講義のときに使用する資料（プリント）を配布する

授業外学習の内容

配布した資料等を基に学習した内容を復習し、専門用語についても理解しておくこと

備考

知的障害児の指導（特別支援）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

知的障害とは何なのか、また知的障害を引き起こす原因にはどのようなものがあるのか、現在知的障害の診断はどのように行われているのか、そして知的障害は認知面、言語面、コミュニケーション面など様々な側面において遅れや不十分さが見られるが、知的障害に特徴的な心理特性とはどのようなものなのか、まず、これらの知的障害児の実態把握に必要な基本的事項について理解する。次に、知的障害児に対してどのように指導したらよいのかについての指導のポイントを理解する。そして、特別支援学校や特別支援学校では知的障害児に対してどのような指導がおこなわれているのかを理解する。講義では、配布資料のほかに、パワーポイント、DVDなどを用いて、理解しやすいように努める。

到達目標

知的障害児の実態把握と指導のポイントおよび特別支援学校や特別支援学級で行われている指導事例について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 知的障害とは何か
- 第3回 国際生活機能分類（ICF）について
- 第4回 知的障害の原因
- 第5回 知的障害の診断
- 第6回 知的障害の心理特性
- 第7回 知的障害の子どもへの基本的対応（その1）
- 第8回 知的障害の子どもへの基本的対応（その2）
- 第9回 特別支援学校における教育課程と知的障害児に対する指導事例
- 第10回 特別支援学級における教育課程と知的障害児に対する指導事例
- 第11回 知的障害と社会制度
- 第12回 知的障害と関連する自閉症スペクトラム障害の基本症状と指導
- 第13回 知的障害と関連する注意欠陥多動性障害の基本症状と指導
- 第14回 知的障害と関連する学習障害の基本症状と指導
- 第15回 知的障害児の指導の理解のまとめ

評価方法

レポートの内容、授業中の発問に対する応答、試験を総合して評価する

使用教材

講義のときに使用する資料（プリント）を配布する

授業外学習の内容

ノートおよび配布した資料等を基に学習した内容を復習し、専門用語についても理解しておくこと

備考

肢体不自由児の指導（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

学生が肢体不自由児(単一障害、重複障害)に対して、個々の実態に適した指導のあり方を具体的に理解すること。

到達目標

学生が肢体不自由のある幼児児童生徒に対して就学前の機関(保育所・幼稚園・療育機関等)で実践されている指導方法を理解し、主な指導法の要点を把握すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション肢体不自由児の状態像
- 第2回 特別支援学校における教育課程
- 第3回 特別支援学級における教育課程
- 第4回 個別の指導計画と自立活動の指導
- 第5回 運動面の指導
- 第6回 感覚・認知面の指導
- 第7回 コミュニケーションの指導(その1)-発信面
- 第8回 コミュニケーションの指導(その2)-受信面
- 第9回 探索活動の指導
- 第10回 日常生活動作の指導(その1)-食事について
- 第11回 日常生活動作の指導(その2)-排泄・着脱について
- 第12回 作業動作の指導
- 第13回 余暇活動の指導
- 第14回 進路の指導
- 第15回 まとめ

評価方法

授業中の発言（20%）、毎回のリアクションペーパー（20%）、試験（60%）を総合して評価する。

使用教材

飯野順子「障害の重い子どもの授業づくり PART3 子どもが活動する『子ども主体』の授業を目指して」ギアース教育新社

授業外学習の内容

- ・シラバスに記載してあるテーマに関わりのある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
- ・指定した教科書と随時配布する資料の当該箇所を、必ず授業後に繰り返し読むこと。
- ・専門用語で授業中に十分に理解できなかった言葉については、必ず医学事典や心理学事典、障害児教育学事典などの書籍やインターネットで検索して理解できるようにしておくこと。

備考

教科書の該当箇所を予め読んでおき、授業後にもう1回読み直すこと。

病弱児の指導（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

学生が病弱児を対象とする特別支援学校・特別支援学級の教育について概要を理解し、種々の病気に罹患している児童生徒一人ひとりの実態に適した教育を具体的に考えること。

到達目標

学生が病弱児教育の骨格を理解し、児童生徒の病状と教育の場に応じて指導を工夫する際の要点を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション病弱児の実態と教育課程
- 第2回 病弱児教育の変遷と全国および群馬県の現状
- 第3回 病弱児への教科指導と自立活動の指導
- 第4回 呼吸器疾患を伴う児童生徒の指導
- 第5回 心臓疾患を伴う児童生徒の指導
- 第6回 腎臓・泌尿器疾患を伴う児童生徒の指導
- 第7回 消化器疾患を伴う児童生徒の指導
- 第8回 骨・関節疾患および二分脊椎を伴う児童生徒の指導
- 第9回 進行性筋ジストロフィー症を伴う児童生徒の指導
- 第10回 脳性まひを伴う児童生徒の指導
- 第11回 心身症・精神疾患を伴う児童生徒の指導
- 第12回 内分泌・代謝疾患および肥満を伴う児童生徒の指導
- 第13回 悪性腫瘍を伴う児童生徒の指導
- 第14回 死に瀕した児童生徒および周囲の指導
- 第15回 多職種連携

評価方法

授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、試験を総合して評価する。

使用教材

必要な資料は随時配布する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

特別支援教育の課題と実践（特別支援）

担当者

五十嵐 一徳

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 3年前期 選択 2単位

講義目標

本講義では、“特別なニーズのある子どもを中心とした学びとは何か”をテーマとしながら、授業をすすめていく。特別なニーズのある子どもの見方や関わり方、そして子どもを取り巻く課題について学び、様々な課題を考慮した学びの支援について検討する。

到達目標

特別支援教育に関連する保育・教育現場の課題を把握し、特別なニーズのある子どもを中心とした学びの支援を考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 特別支援教育とは
- 第2回 特別支援学校における現状と課題
- 第3回 特別支援学級における現状と課題
- 第4回 通常学級における特別支援教育の現状と課題
- 第5回 幼稚園・保育所における特別支援教育の現状と課題
- 第6回 学びを支援する（学び手を把握するⅠ）
- 第7回 学びを支援する（学び手を把握するⅡ）
- 第8回 学びを支援する（目標を設定するⅠ）
- 第9回 学びを支援する（目標を設定するⅡ）
- 第10回 学びを支援する（支援方法：関わり方）
- 第11回 学びを支援する（支援方法：環境を整える）
- 第12回 学びを支援する（特別支援学校の授業づくりⅠ）
- 第13回 学びを支援する（特別支援学校の授業づくりⅡ）
- 第14回 学びを支援する（特別支援学校の授業づくりⅢ）
- 第15回 まとめ

評価方法

試験の成績を70%、授業態度30%として評価する。

使用教材

特に定めない

授業外学習の内容

授業に関連する事項について予習し、疑問をもちながら授業を受けられるようにしておくこと

備考

知的障害児教育演習（特別支援）

担当者

小林 久男

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年通年 選択 2単位

講義目標

知的障害のある幼児児童生徒一人ひとりの心理等の実態に応じた教育的な係わりをどのように進めるか、学生の関心事を考慮しつつ主として実践事例をもとにした研究的な討議を行う。具体的には、就学前の通園施設や保育園・幼稚園を利用している知的障害幼児や、特別支援学校に通学している知的障害児童生徒を対象として、学生が参与観察や直接的な係わりで得た事例資料（文字資料、映像資料）に関する研究的な討議を毎週行い、次回の参与観察や直接的な係わりに活かすことを目指す。また、それらの事例に関連のある文献の検討も行う。

到達目標

知的障害児一人ひとりの心理等の実態に応じた教育課程、指導計画、指導実践の資料を理解し、関連する文献資料も踏まえて、実践研究をまとめること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 知的障害児の心理等の実態について
- 第3回 知的障害児の教育課程について
- 第4回 知的障害児の指導法について
- 第5回 知的障害児を対象とした実践研究について
- 第6回 研究対象児および保護者、所属する関係機関に対する配慮について
- 第7回 実践研究のまとめ方について
- 第8回 映像資料の活用について
- 第9回 引用文献および参考文献の活用について
- 第10回 「考察」のまとめ方の再検討
- 第11回 「問題の所在」の見直し
- 第12回 「目的・方法」の見直し
- 第13回 「経過」のまとめ方の再検討
- 第14回 実践研究の事例紹介
- 第15回 実践事例に関する全般的な研究討議
- 第16回 実践事例の心理等に関する研究討議
- 第17回 実践事例の教育課程に関する研究討議
- 第18回 実践事例の指導法に関する研究討議
- 第19回 実践事例の「問題の所在」に関する研究討議
- 第20回 実践事例の「目的・方法」に関する研究討議
- 第21回 実践事例の「経過」(当初)に関する研究討議
- 第22回 実践事例の「経過」(第1期)に関する研究討議
- 第23回 実践事例の「経過」(第2期)に関する研究討議
- 第24回 実践事例の「経過」(第3期)に関する研究討議
- 第25回 実践事例の「考察」に関する研究討議
- 第26回 他の実践事例(文献)との比較に関する研究討議
- 第27回 実践研究のまとめに関する研究討議(考察のまとめ)
- 第28回 実践研究のまとめに関する研究討議(問題の所在・目的・方法のまとめ)
- 第29回 実践研究のまとめに関する研究討議(経過のまとめ)
- 第30回 実践研究の発表と総括

評価方法

授業中の発言、実践研究に対する課題意識、実践研究整理の状態を総合して評価する。

使用教材

特に定めない

授業外学習の内容

「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

備考

肢体不自由児教育演習（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年通年 選択 2単位

講義目標

学生が肢体不自由のある幼児児童生徒一人ひとりの実態に応じた教育的な係わりをどのように進めるか学べるように、教育実践事例をもとにした研究的な討議を行う。

到達目標

学生が肢体不自由児一人ひとりの実態に応じた教育課程、指導計画、指導実践の資料を理解し、関連する文献資料も踏まえて、教育実践事例を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 肢体不自由児の心理等の実態について
- 第3回 肢体不自由児の教育課程について
- 第4回 肢体不自由児の指導法について
- 第5回 肢体不自由児を対象とした実践研究について
- 第6回 研究対象児および保護者、所属機関に対する配慮について
- 第7回 実践研究のまとめ方について
- 第8回 参考文献・引用文献の活用について
- 第9回 映像資料の活用について
- 第10回 実践研究の事例紹介
- 第11回 実践事例の心理等の実態に関する研究討議
- 第12回 実践事例の教育課程に関する研究討議
- 第13回 実践事例の指導法に関する研究討議
- 第14回 実践事例に関連のある文献の検討
- 第15回 実践事例の中間報告会
- 第16回 実践事例の「問題の所在」に関する研究討議
- 第17回 実践事例の「目的・方法」に関する研究討議
- 第18回 実践事例の「経過」(当初の参与観察)に関する研究討議
- 第19回 実践事例の「経過」(第1期の係わり)に関する研究討議
- 第20回 実践事例の「経過」(第2期の係わり)に関する研究討議
- 第21回 実践事例の「経過」(第3期の係わり)に関する研究討議
- 第22回 実践事例の「考察」に関する研究討議
- 第23回 「問題の所在」の見直し
- 第24回 「目的・方法」の見直し
- 第25回 「経過」のまとめ方の見直し
- 第26回 「考察」のまとめ方の見直し
- 第27回 他の実践研究(文献)との比較に関する研究討議
- 第28回 実践事例の報告会
- 第29回 実践事例を踏まえた肢体不自由児の心理等の実態に関する研究討議
- 第30回 実践事例を踏まえた肢体不自由児の指導に関する研究討議

評価方法

教育実践事例の内容理解(30%)、研究討議における発言(20%)、資料整理の状態(30%)、報告会での発表(20%)等を総合して評価する。

使用教材

特になし。

授業外学習の内容

- ・シラバスに記載してあるテーマに関わりのある内容については、講義と共に受講生が順番に発表する方式で授業を進めるので、事前の準備が不可欠である。
- ・授業後には、授業で出された多様な意見を各自整理し、自らの実践的研究の修正や充実に生かせるよう、他の資料を参照することも含めて確実に学修を進めていく必要がある。

備考

肢体不自由のある子どもが療育や教育を受けている現場に積極的に出かけてほしい。

病弱児教育演習（特別支援）

担当者

村田 美和

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年通年 選択 2単位

講義目標

多様な病状にある幼児児童生徒を主な対象として、一人ひとりの実態に応じた教育的な係わりをどのように進めるか、学生の関心事を考慮しつつ主として実践事例をもとにした研究的な討議を行う。具体的には、就学前の病弱幼児や、病弱特別支援学校や病弱特別支援学級に在籍している児童・生徒を対象として、学生が参与観察や直接的な係わりで得た事例資料（文字資料、映像資料）に関する研究的な討議を行い、次回の参与観察や直接的な係わりに活かすことを目指す。また、それらの事例に関連のある文献の検討も行う。

到達目標

病弱児一人ひとりの実態に応じた教育課程、指導計画、指導実践の資料を理解し、関連する文献資料も踏まえて、実践研究をまとめること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 病弱児の心理等の実態について
- 第3回 病弱児の教育課程について
- 第4回 病弱児の指導法について
- 第5回 病弱児を対象とした実践研究について
- 第6回 研究対象児および保護者、所属機関に対する配慮について
- 第7回 実践研究のまとめ方について
- 第8回 病弱児教育に関する参考文献の活用について
- 第9回 実践研究の事例紹介
- 第10回 実践事例の心理等の実態に関する研究討議
- 第11回 実践事例の教育課程に関する研究討議
- 第12回 実践事例の指導法に関する研究討議
- 第13回 実践事例に関連のある文献の検討(心理等に関して)
- 第14回 実践事例に関連のある文献の検討(指導法に関して)
- 第15回 実践事例の中間報告会
- 第16回 実践事例の「問題の所在」に関する研究討議
- 第17回 実践事例の「目的・方法」に関する研究討議
- 第18回 実践事例の「経過」(当初の参与観察)に関する研究討議
- 第19回 実践事例の「経過」(第1期の係わり)に関する研究討議
- 第20回 実践事例の「経過」(第2期の係わり)に関する研究討議
- 第21回 実践事例の「経過」(第3期の係わり)に関する研究討議
- 第22回 実践事例の「考察」に関する研究討議
- 第23回 「問題の所在」の見直し
- 第24回 「目的・方法」の見直し
- 第25回 「経過」のまとめ方の見直し
- 第26回 「考察」のまとめ方の見直し
- 第27回 他の実践研究(文献)との比較に関する研究討議
- 第28回 実践事例の報告会
- 第29回 実践事例を踏まえた肢体不自由児の心理等の実態に関する研究討議
- 第30回 実践事例を踏まえた肢体不自由児の指導に関する研究討議

評価方法

作成したレポートの内容70%、研究討議における発言10%、報告会での発表20%を総合して評価する。

使用教材

学習指導要領。その他の参考書は随時紹介する。関連のある実践資料は授業内で配布する。

授業外学習の内容

授業で学んだことについて復習すること。専門用語の意味を調べておくこと。関連する文献について図書館で調べること。

備考

視覚障害・聴覚障害教育総論（特別支援）

担当者

中村 保和 金澤 貴之

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

視覚障害、聴覚障害のある幼児児童生徒に対して、医学的・心理学的な観点からの理解とともに、長期的な成長経過から理解することも重視する。具体的には、就学前から高等部卒業まで長期にわたって教育相談を継続した事例を提示し、視覚障害、聴覚障害についての多角的な理解を深める。また、視覚障害、聴覚障害のある幼児児童生徒に現在実施されている教育課程や主な指導法について取り上げる。すなわち、各教科の指導や自立活動の指導等について取り上げる。授業にはVTRの視聴を多く取り入れる。

到達目標

視覚障害、聴覚障害のある幼児児童生徒に対して、多角的な視点からその実態の理解を深め、教育課程と指導法についての現状を理解することを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 視覚の構造と機能-生理学的視点からの理解(中村)
- 第3回 視覚障害-医学的視点、心理学的視点からの理解(中村)
- 第4回 視覚障害児に対する学校教育の歴史(中村)
- 第5回 視覚障害児に対する教育課程(中村)
- 第6回 視覚障害児に対する自立活動の指導-主として運動面(中村)
- 第7回 視覚障害児に対する自立活動の指導-主として基礎学習面(中村)
- 第8回 視覚障害児に対する教科等の指導(中村)
- 第9回 聴覚の構造と機能-医学的視点からの理解(金澤)
- 第10回 聴覚障害-心理学的視点からの理解(金澤)
- 第11回 聴覚障害児に対する学校教育の歴史(金澤)
- 第12回 聴覚障害児に対する教育課程(金澤)
- 第13回 聴覚障害児に対する自立活動の指導(金澤)
- 第14回 聴覚障害児に対する教科等の指導(金澤)
- 第15回 視覚障害・聴覚障害教育の課題について(金澤)

評価方法

授業中の発言、毎回のリアクションペーパー、最終レポートを総合して評価する。

使用教材

特にない。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

視覚障害、聴覚障害と一口に言っても、その実態はさまざまであることを実感してほしい。

知的障害者教育総論（特別支援）

担当者

浦崎 源次

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

知的障害のある幼児児童生徒の教育全般についての基礎的知識を得ることを目標とする。内容は、子ども理解、教育制度の理解、教育方法の理解に大別されるが、どの分野においても外国の動向や他の障害領域との比較を通じて日本の知的障害児教育の特徴を理解することを重視する。さらに、教職への動機づけという観点から、実践に直結する教育課程や指導法を重視し、具体例を示すことで、知的障害特別支援学校における授業づくりや教えることに興味・関心をもつことを期待する。

到達目標

医学、心理学、教育学を中心に知的障害のある幼児児童生徒の教育にかかわる全般についての基礎的知識を得る。その際、他の障害との比較を通して知的障害教育の他の障害領域との共通性や独自性について理解することを重視する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害概念と知的障害
- 第3回 知的障害の心理
- 第4回 知的障害の生理・病理Ⅰ
- 第5回 知的障害の生理・病理Ⅱ
- 第6回 知的障害児の教育の場（教育制度）
- 第7回 知的障害教育の歴史－西洋
- 第8回 知的障害教育の歴史－日本
- 第9回 特別支援学校の教育課程
- 第10回 知的障害特別支援学校の教育課程
- 第11回 知的障害教育における教科の特徴
- 第12回 領域・教科を合わせた指導Ⅰ
- 第13回 領域・教科を合わせた指導Ⅱ
- 第14回 他の障害を伴う知的障害児の教育
- 第15回 知的障害児教育の課題について

評価方法

授業中の発言、試験を総合して評価する。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

授業時のノートや配布資料をもとに授業後まとめノートを作成すること。

備考

重複障害児教育総論（特別支援）

担当者

松田 直

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

学生が感覚障害、運動障害、知的障害など多様な状態像を示す重複障害児を教育的な視点からどのように理解し、どのような教育課程を設定して具体的な指導を試みればよいかを理解すること。

到達目標

学生が重複障害児の実態を把握する心理学的、医学的な視点を疑似体験も踏まえて把握し、具体的な指導を試みる際の基本的な留意点を理解すること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション重複障害という概念について
- 第2回 重複障害児の状態像
- 第3回 重複障害児教育の歴史と現状
- 第4回 重複障害児の就学と教育課程
- 第5回 重複障害児の実態把握(医学的側面)
- 第6回 重複障害児の実態把握(心理学的側面)
- 第7回 重複障害児の指導計画(その1)指導計画の構成と内容
- 第8回 重複障害児の指導計画(その2)指導計画の具体例
- 第9回 重複障害児の探索活動
- 第10回 重複障害児のコミュニケーション活動(その1)-係わり手のあり方
- 第11回 重複障害児のコミュニケーション活動(その2)-表出の手段
- 第12回 医療的ケアを必要とする重複障害児の指導
- 第13回 重複障害児の就学前の指導
- 第14回 重複障害児の学校教育と卒後の生活
- 第15回 まとめ

評価方法

授業中の発言（20%）、毎回のリアクションペーパー（20%）、試験（60%）を総合して評価する。

使用教材

必要な資料は随時配布する。

授業外学習の内容

- ・授業で毎回配布する資料を、必ず授業後に繰り返し読むこと。
- ・専門用語で授業中に十分に理解できなかった言葉については、必ず医学事典や心理学事典、障害児教育学事典などの書籍やインターネットで検索して理解できるようにしておくこと。

備考

著しく障害の重い子どもも、教育が可能であることを実感してほしい。

発達障害児教育総論（特別支援）

担当者

五十嵐 一徳 村田 美和

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 1年後期 選択 2単位

講義目標

「見えない障害」と称される発達障害の概念や具体的な障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害など）の特性について理解することにより、幼稚園・保育所および通常学級に通う子どもたちの多様性を捉える力をもつようになる。そして、子どもの実態を捉える方法（アセスメント）の結果に基づき指導方法・指導の手立てについて、ディスカッションも交えながら検討していくことで、基礎的な実践力を身につけていくことを目的とする。

到達目標

発達障害の概念を理解し、その特性を説明することができ、発達障害児に対するおおまかな指導指針・方法を考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 発達障害とは（五十嵐）
- 第2回 発達障害児の理解Ⅰ（学習障害：LD）（村田）
- 第3回 発達障害児の理解Ⅱ（注意欠如・多動性障害：ADHD）（五十嵐）
- 第4回 発達障害児の理解Ⅲ（自閉症スペクトラム障害）（五十嵐）
- 第5回 学習面におけるアセスメントⅠ（村田）
- 第6回 学習面におけるアセスメントⅡ（村田）
- 第7回 学習面における支援方法Ⅰ（村田）
- 第8回 学習面における支援方法Ⅱ（村田）
- 第9回 学習面における支援のまとめ（村田）
- 第10回 社会的コミュニケーションに対するアセスメント（五十嵐）
- 第11回 社会的コミュニケーションに対する支援方法（五十嵐）
- 第12回 行動問題に対するアセスメント（五十嵐）
- 第13回 行動問題に対する支援方法（五十嵐）
- 第14回 社会的コミュニケーション・行動問題に対する支援のまとめ（五十嵐）
- 第15回 まとめ（五十嵐）（村田）

評価方法

試験の成績を70%、授業態度と小レポート内容を30%として評価する

使用教材

授業内で指示する

授業外学習の内容

授業に関連する事項について予習し、疑問をもちながら授業を受けられるようにしておくこと

備考

卒業研究（卒業研究）

担当者

子ども教育学科教員

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年通年 必修 4単位

講義目標

学生の興味・関心による選択に基づいてテーマを設定し、学生の自主性を最大限尊重して指導する。

到達目標

大学での学修をまとめ、大学の卒業生にふさわしい専門的知見を形に表して、「学士力」の証左とすることを目標とする。

講義内容と講義計画

指導は各担当の教員によって種々でありうるが、一般的には次のような過程をたどるものと思われる。なお、卒業研究は3年次後期に各研究室に配属後、定期的な「プレゼミ」の形で開始される。

- ・テーマの設定作業
- ・先行研究の探索
- ・関連する文献の探索・検討
- ・目次の作成
- ・下書きの執筆とその指導助言
- ・清書およびその点検
- ・発表

評価方法

テーマの内容、問題意識、文献の探索、指導への積極的姿勢、執筆に際しての姿勢、執筆内容等々を総合して評価する。

使用教材

指導中に紹介する。

授業外学習の内容

毎回の助言指導に従い、出された課題につき、学内外で資料や文献に当たり、きちんと取り組み、次回のゼミまでに整えておくこと。

備考

卒研は、「プレゼミ」を含めば1年半にわたる長期間、研究に従事することになります。大学生活の総決算にふさわしい、明確な問題意識と持続的な取り組みが不可欠です。

学校経営と学校図書館（司書教諭科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 必修 2単位

講義目標

学校図書館メディアを収集・整理・保存・提供する図書館サービスは、単に図書館内部の問題として考えられるだけでなく、学校教育の目的達成を支援するという基本的役割を担っていることを理解する。その上で、教師と司書教諭による協調（コラボレーション）の重要性と学校図書館の活動について説明できるようになることを目的とする。

到達目標

学校の教育目標達成のために学校図書館の運営計画を立案できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 教育と学校図書館
- 第2回 学校図書館の発達と役割
- 第3回 制度としての学校図書館
- 第4回 教育課程と学校図書館
- 第5回 学校経営と学校図書館
- 第6回 学校図書館メディア
- 第7回 学校図書館の施設・設備
- 第8回 学校図書館経営のための諸組織
- 第9回 学校図書館の会計
- 第10回 学校図書館経営
- 第11回 学校図書館活動
- 第12回 学校図書館活動の実際
- 第13回 学校図書館の評価と改善
- 第14回 学校図書館の課題と展望
- 第15回 まとめ

評価方法

レポートによる。期中、期末の2回のレポートを提出してもらい評価する。
レポート2回（60%）、出席状況及び出席態度（40%）

使用教材

『学校経営と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズⅡ）最新版、樹村房

授業外学習の内容

司書教諭資格科目指定したテキストは事前に読んで、毎回の課題に対して疑問を持ったこと・興味を持ったこと・整理したことを記録する。講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。

備考

司書教諭資格科目指定したテキストは事前に読んでおくこと。

学校図書館メディアの構成（司書教諭科目）

担当者

小柳 聡美

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年前期 選択 2単位

講義目標

学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学習し、その選択・収集・保存・提供等について考察する。特に各種メディアへのアクセスを容易にするための資料組織化の技術を習得する。

到達目標

学校図書館メディアの収集・組織・提供ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 学校図書館メディアの意義・役割
- 第2回 学校図書館メディアの種類・特性
- 第3回 学校図書館メディアの選択と構成
- 第4回 学校図書館メディアの組織化(1)分類の意義と機能
- 第5回 学校図書館メディアの組織化(2)日本十進分類法の概要
- 第6回 学校図書館メディアの組織化(3)日本十進分類法の使い方①
- 第7回 学校図書館メディアの組織化(4)日本十進分類法の使い方②
- 第8回 学校図書館メディアの組織化(5)日本十進分類法の使い方③
- 第9回 学校図書館メディアの組織化(6)件名標目表
- 第10回 学校図書館メディアの組織化(7)目録の意義と機能
- 第11回 学校図書館メディアの組織化(8)日本目録規則の概要
- 第12回 学校図書館メディアの組織化(9)日本目録規則の使い方①
- 第13回 学校図書館メディアの組織化(10)日本目録規則の使い方②
- 第14回 学校図書館メディアの組織化(11)目録の電算化
- 第15回 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置

評価方法

筆記試験 80%、授業参加度・受講態度 20%

使用教材

『情報資源組織法』最新版 志保田務 高鷲忠美編著 第一法規 定価2,600円（税別）

授業外学習の内容

「日本十進分類法 第2次区分表を暗記（使用教材に一覧表有）」

備考

- ・司書教諭資格科目
- ・教育実習の際、学校図書館をよく観察すること。

学習指導と学校図書館（司書教諭科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

学校図書館が教師の学ぶ場となり、司書教諭が教師の学習活動を支援することができるように、学校図書館メディアの活用について理解を図ることができる。

到達目標

学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を図ることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 はじめに(教育課程の展開と学校図書館)
- 第2回 学校教育と学校図書館
- 第3回 カリキュラム編成と学校図書館
- 第4回 学習情報センターとしての学校図書館
- 第5回 発達段階に応じた学習指導のあり方
- 第6回 生涯学習の理念と学校図書館
- 第7回 現代社会におけるメディア活用能力
- 第8回 図書館利用の指導-その目的と理念
- 第9回 図書館利用の指導-その内容
- 第10回 図書館利用の指導-その方法と評価
- 第11回 メディア活用における諸問題
- 第12回 レファレンス・サービスの実際
- 第13回 情報の収集と提供
- 第14回 情報サービスネットワークの活用
- 第15回 おわりに(まとめのレポート)

評価方法

授業への積極的な参加状況とまとめの課題レポート（各章の要約をと朗読CDの感想）を総合評価する。

使用教材

教科書：『学習指導と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズ03）堀川照代編著 樹村房 定価1,943円

授業外学習の内容

指定した教科書の各章を読んでおくこと。

備考

司書教諭資格科目

読書と豊かな人間性（司書教諭科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

学校図書館の読書センターとしての仕事の実際を把握し、児童・生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について理解を図ることができる。

到達目標

児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について理解を図ることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 はじめに(読書と人間形成)
- 第2回 読書の意義と目的
- 第3回 児童青少年の読書習慣と心の教育
- 第4回 情報社会と読書環境の整備
- 第5回 読書と学校図書館の役割
- 第6回 発達段階の読書指導
- 第7回 出版状況と図書資料の選択
- 第8回 読書資料の種類と特性
- 第9回 図書館資料としての漫画の利用
- 第10回 読書の指導方法
- 第11回 ストーリーテディング、読み聞かせ、ブックトーク
- 第12回 読書環境の整備(図書委員会活動・読書感想文等)
- 第13回 家庭、地域、公共図書館との連携
- 第14回 学校図書館と公共図書館との連携・協力
- 第15回 おわりに(まとめのレポート)

評価方法

授業への積極的な参加状況とまとめの課題レポート(各章の要約と朗読CDの感想)を総合評価する。

使用教材

教科書：『読書と豊かな人間性』（司書教諭テキストシリーズ4）朝比奈大作編著 樹村房 定価1,943円

授業外学習の内容

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

備考

司書教諭資格科目

情報メディアの活用（司書教諭科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

子ども教育学科 4年後期 選択 2単位

講義目標

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

到達目標

多様な情報メディアを授業に役立つように利用できること

講義内容と講義計画

- 第 1 回 現代生活と情報メディア
- 第 2 回 情報メディアの歴史
- 第 3 回 伝統的情報メディアとデジタルメディア
- 第 4 回 学習メディアとしての利点と選択
- 第 5 回 インターネットのしくみと活用
- 第 6 回 データベースの検索と利用
- 第 7 回 ソフトウェアとその利用
- 第 8 回 個別学習のための教育用ソフトウェア
- 第 9 回 問題解決学習のための情報探索
- 第10回 学びの共同体と協調学習支援環境
- 第11回 校内における学校図書館メディアの選択と構成
- 第12回 学校図書館と情報技術
- 第13回 知的財産権と著作権制度の概要
- 第14回 デジタル・ネットワーク社会の陥穽
- 第15回 学校図書館と情報メディア

評価方法

レポートによる。期中、期末の2回のレポートを提出してもらい評価する。
レポート2回（60%）、出席状況及び出席態度（40%）

使用教材

『新版 情報メディアの活用』山本純一他放送大学教育振興会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認すること。

備考

司書教諭資格科目指定したテキストは事前に読んでおくこと。